

平成29年度

上越市の男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書
(概要)

上越市 自治・市民環境部共生まちづくり課
男女共同参画推進センター

— 目 次 —

1 調査概要	
(1) 調査の目的	1
(2) 調査設計と回収状況	1
(3) 回答者のプロフィール	1～2
2 調査結果	
1 結婚・家庭生活について	
問1 平日の生活時間について	3～4
問2 結婚、家庭等について	5
問3 家庭での夫婦の役割分担について(「理想」と「現実」)	6～7
問4 家庭における家事を男性は分担しているか(結婚(事実婚を含む)している方のみ)	8～9
2 男女の地位の平等感について	
問5 男女の地位の平等感について	10～11
3 職業生活、女性活躍の推進について	
問6 現在の職業	12～14
問7 職場で男女に差があるか(問6で「1又は2の勤め人」と答えた方のみ)	15～16
問8 仕事を辞めたり中断したり、転職したことがあるか、ある場合の主な理由	17～18
問9 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について(「理想」と「現実」)	19
問10 生活における「仕事」「家庭生活」「地域活動」「学習・趣味・スポーツなど」「休養」の時間は十分に取れているか	20～21
問11 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現のためにどのようなことが必要だと思うか	22～23
問12 現在の社会は「男性」及び「女性」にとって働きやすい環境にあると思うか(男性、女性それぞれ)	24
問13 働きやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思うか(男性、女性それぞれ)	25～27
問14 女性が職業を持つことについて(「理想」と「現実」)	28
問15 職業や役職において今後女性が増えるほうがよいと思うもの	29～30
問16 PTAや町内会などの地域団体の役員の長に女性が就くことの妨げとなっている主な原因は何か	31～32
問17 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要か	33～34
問18 男性が育児休業(休暇)を取得しづらい(しない)理由として考えられるもの	35～36
問19 「男性」が仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、受け入れられるものはどれか	37～38
4 男女の人権、DVについて	
問20 女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことか	39～40
問21 夫婦間等における暴力行為について	41～42
問22 元配偶者を含む夫婦間等において暴力を受けたことがあるか	43～44
問23 メディアにおける性・暴力表現に問題があると思うか、あるとすればどのような点か	45～47
5 男女共同参画社会に関すること全般	
問24 育児・介護などの家庭で担われている役割をどのような形で評価することが必要だと思うか	48～49
問25 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う事は何か	50～51
問26 女性が抱えている悩みを相談するところについて	52～53
問27 男女共同参画に関する名称や言葉の認知度・理解度	54～56
問28 「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思うか	57～59
3 調査結果(自由記述)	
問29 男女共同参画を推進していくための意見・要望・提案	60～71
4 付録数表	
(1) 男女共同参画に関する市民意識調査(無回答を除く)	72
(2) 男女共同参画社会に関する世論調査	72

1 調査概要

(1) 調査の目的

- ・市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、平成30年度からの上越市第3次男女共同参画基本計画策定の基礎資料とする。
- ・男女共同参画社会実現に向け、調査結果を今後の市の施策に反映させ、一層の充実を図る。

(2) 調査設計と回収状況

① 調査対象

上越市在住の満18歳以上の男女

② 発送数

4,000通

③ 抽出方法

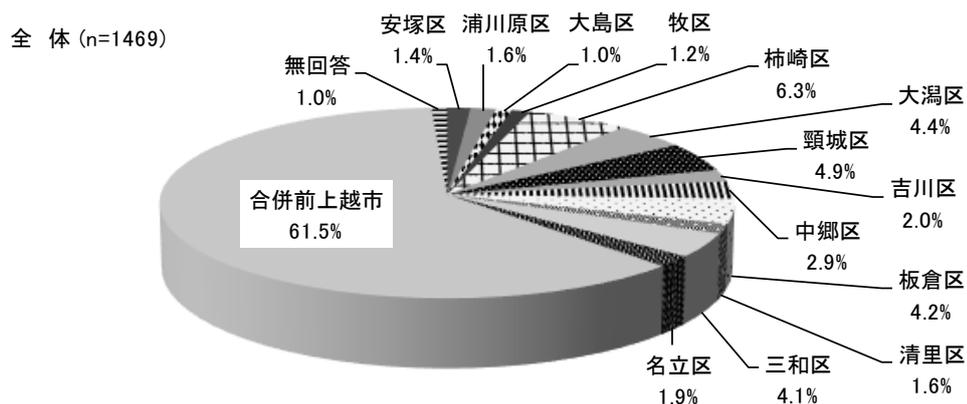
住民基本台帳に基づく無作為抽出

④ 回収状況

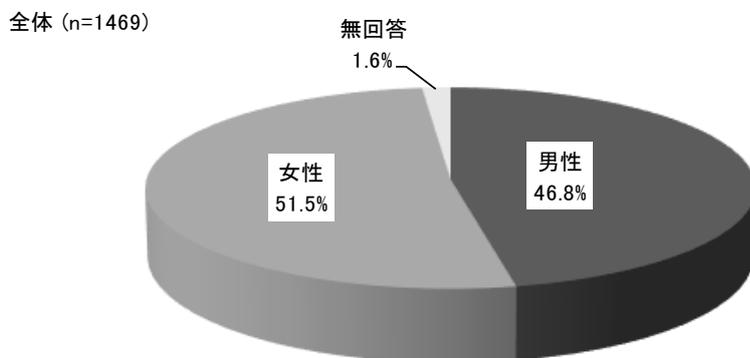
1,469通(回収率36.7%)

(3) 回答者のプロフィール

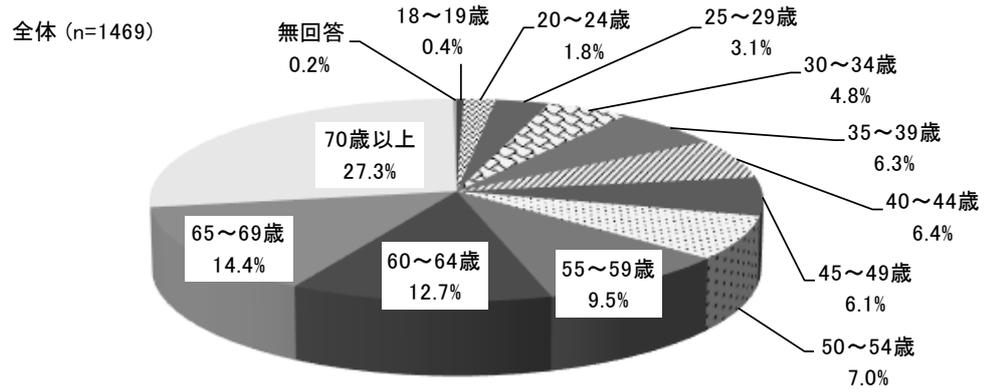
① 居住地別



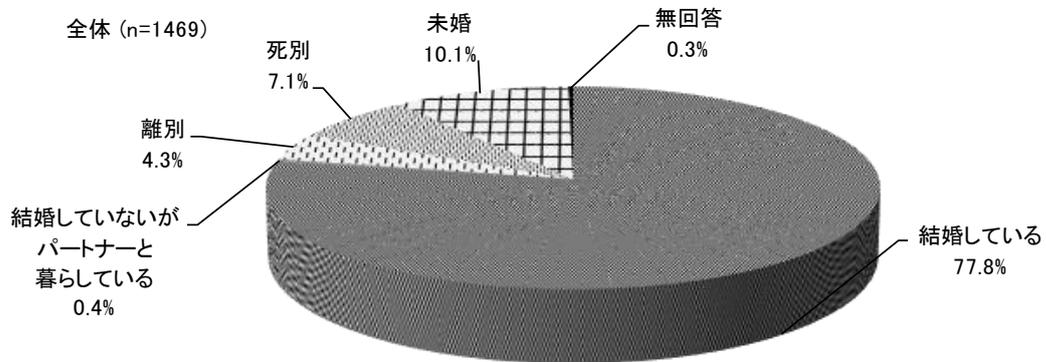
② 性別



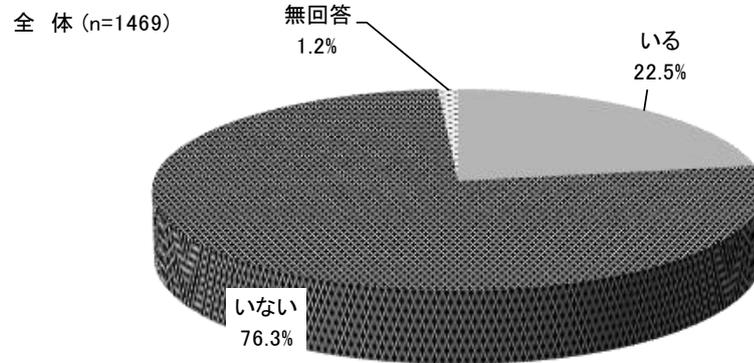
③年齢



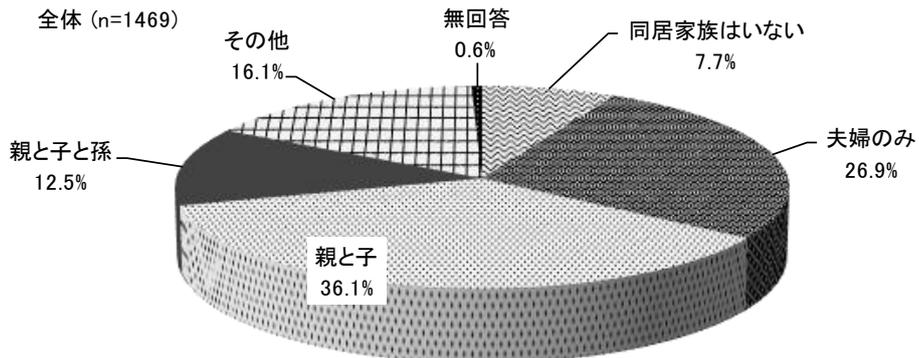
④婚姻の状況



⑤18歳未満の子どもの有無



⑥家族構成

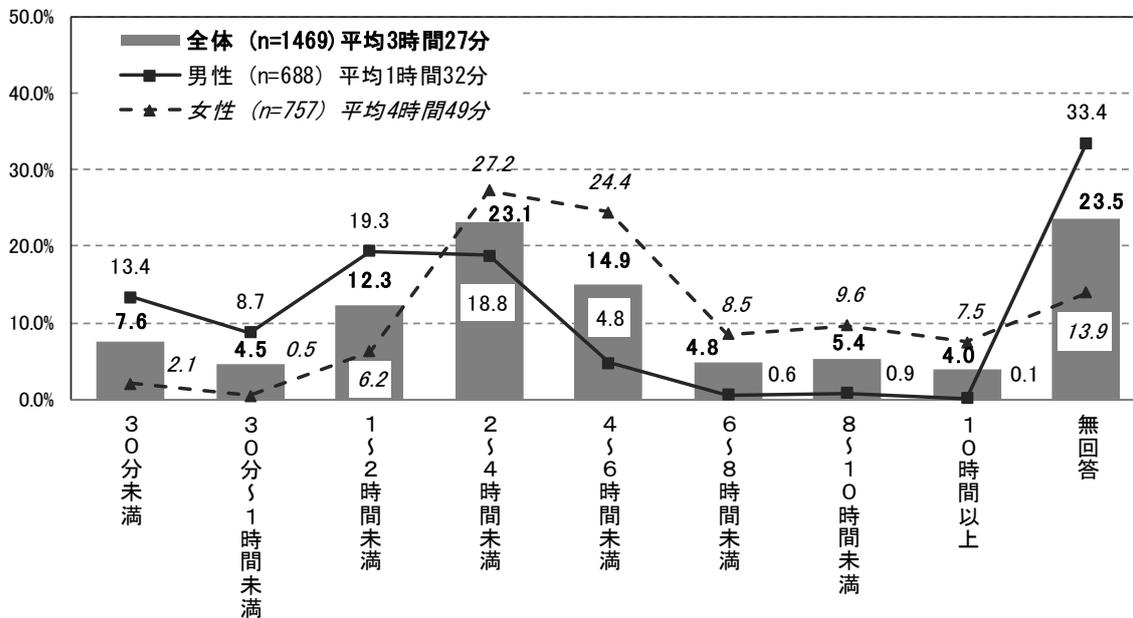


2 調査結果

1 結婚・家庭生活について

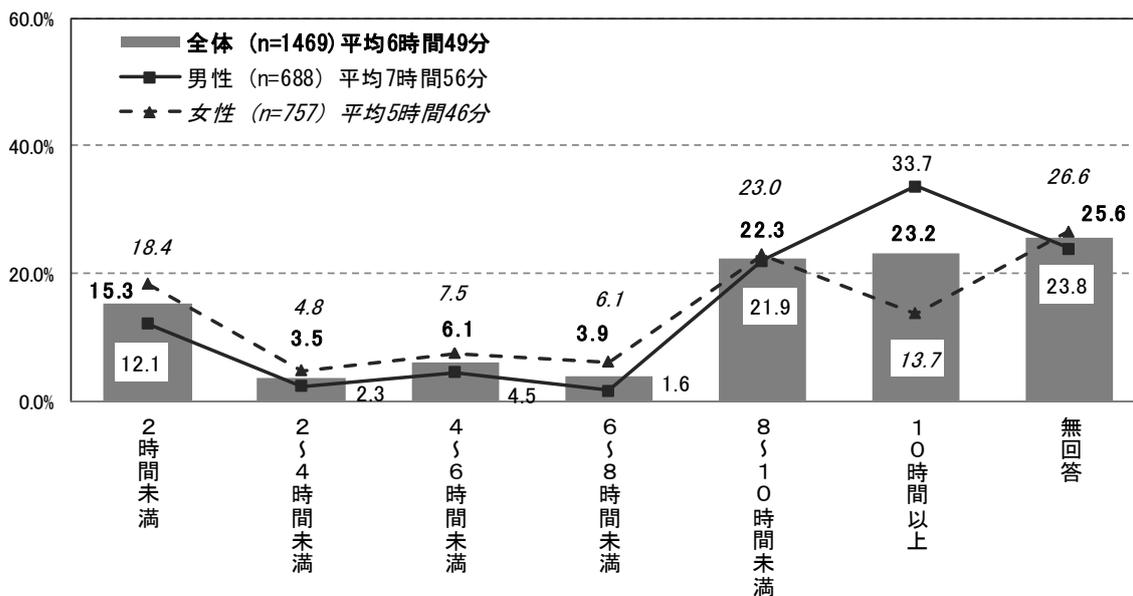
問1 あなたの平日の生活時間についてお聞きします。それぞれ平均した時間をお書き下さい。

1 家事・育児・介護などの時間



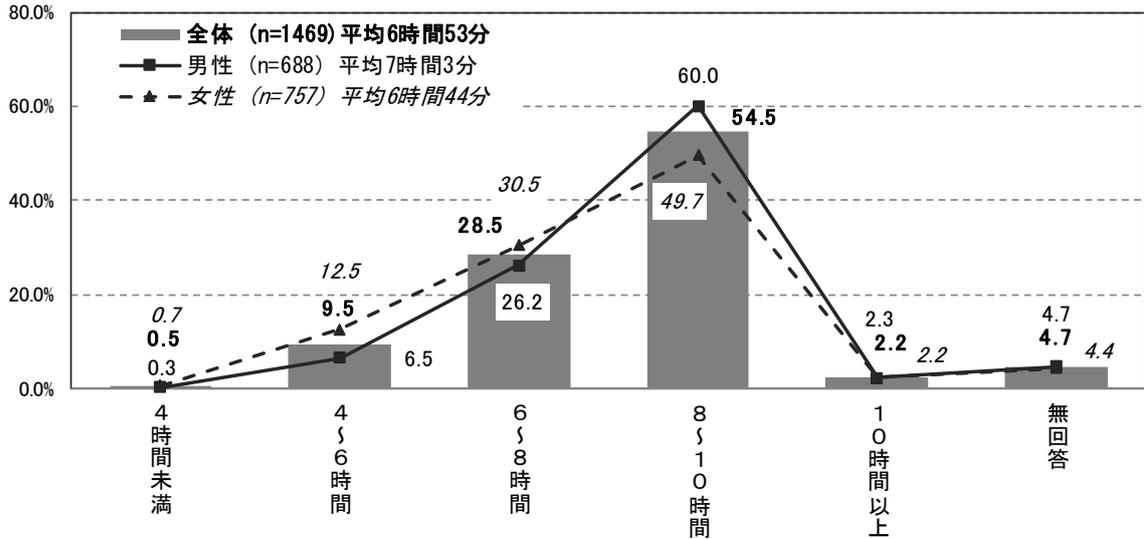
・女性が男性の約3倍となっており、平均の差は3時間以上になっている。

2 収入を得る仕事の時間



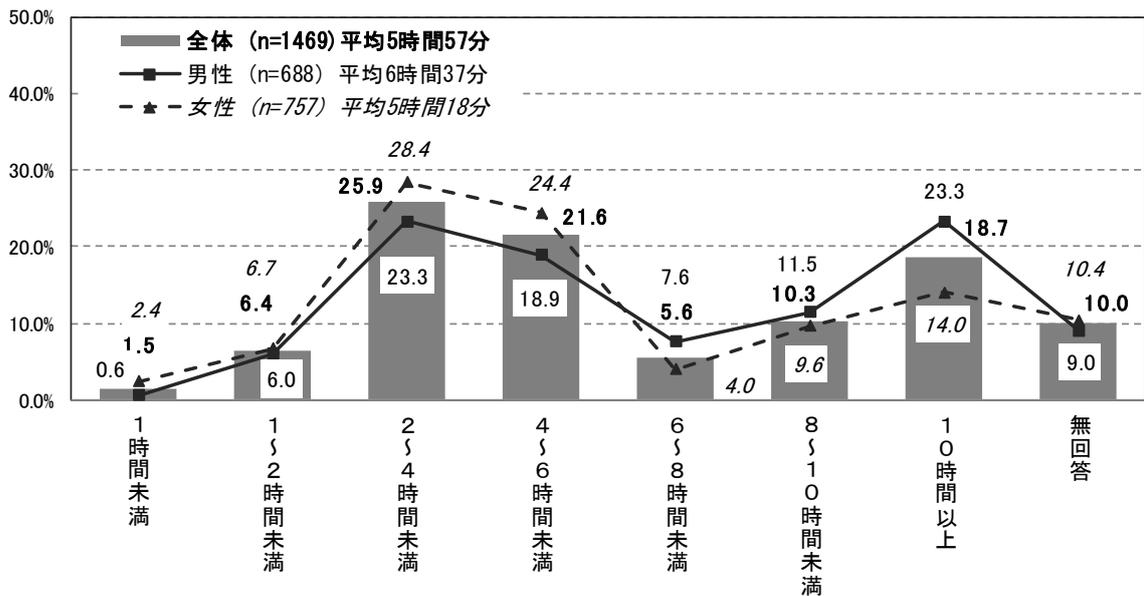
・男性の方が平均で約2時間長いという結果であった。特に「10時間以上」と回答した割合では、男性の方が女性よりも20%高かった。

3 睡眠時間



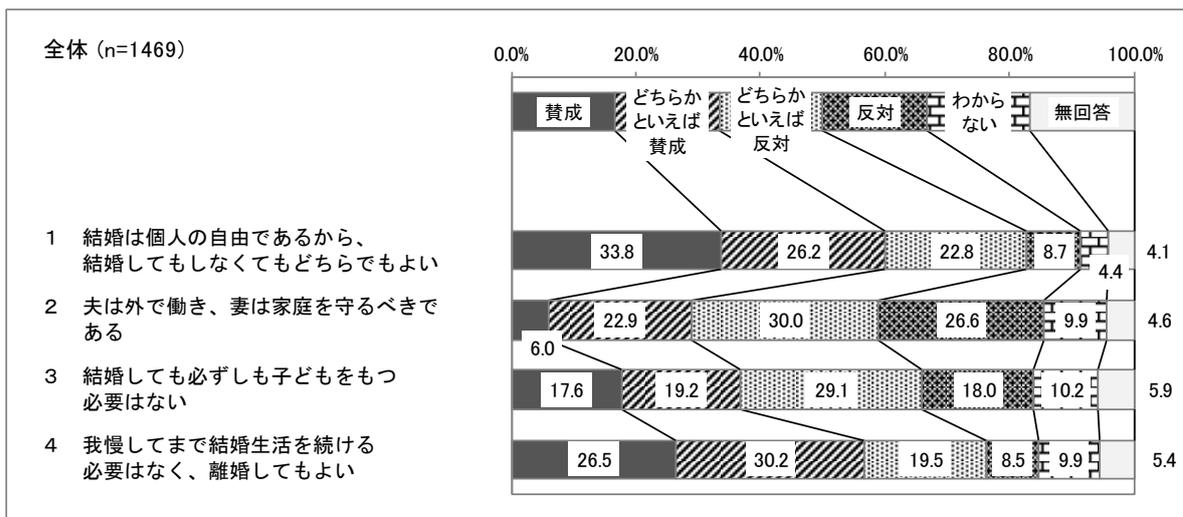
・性別による大きな違いは見られないが、若干女性の方が短いという傾向がみられる。

4 自由に使える時間

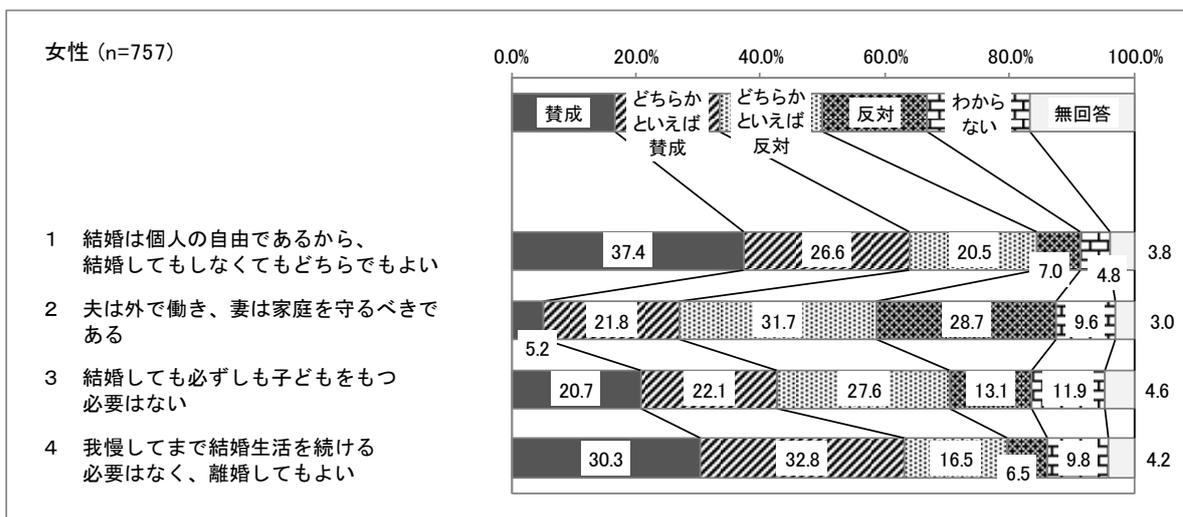
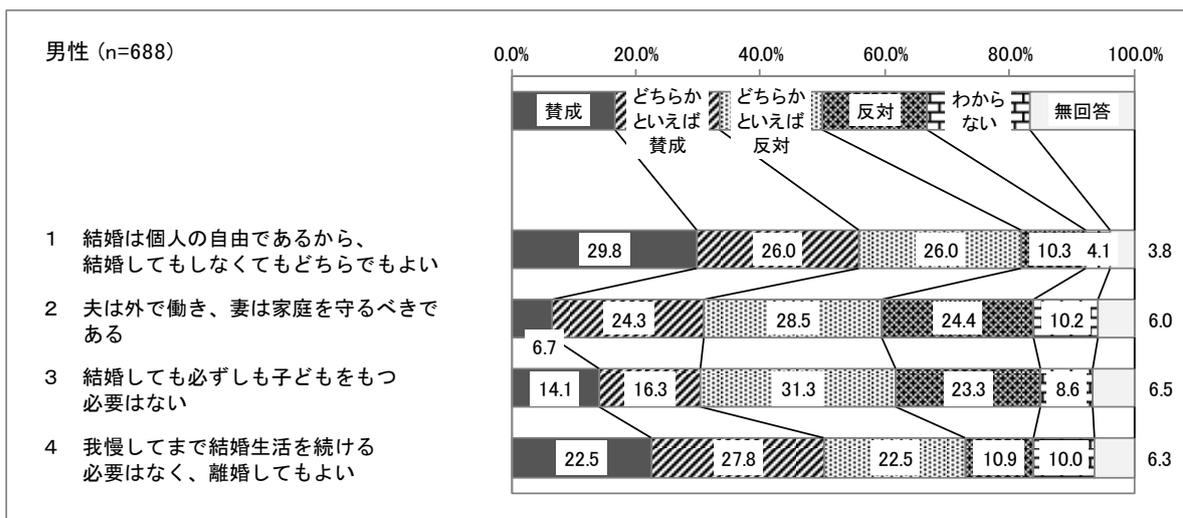


・男性の方が平均で約1時間ほど長い傾向にある。
 ・女性のピークは「2～6時間未満」であるが、男性では、女性と同じ「2～6時間未満」に加え、「10時間以上」でもう1回ピークがある。

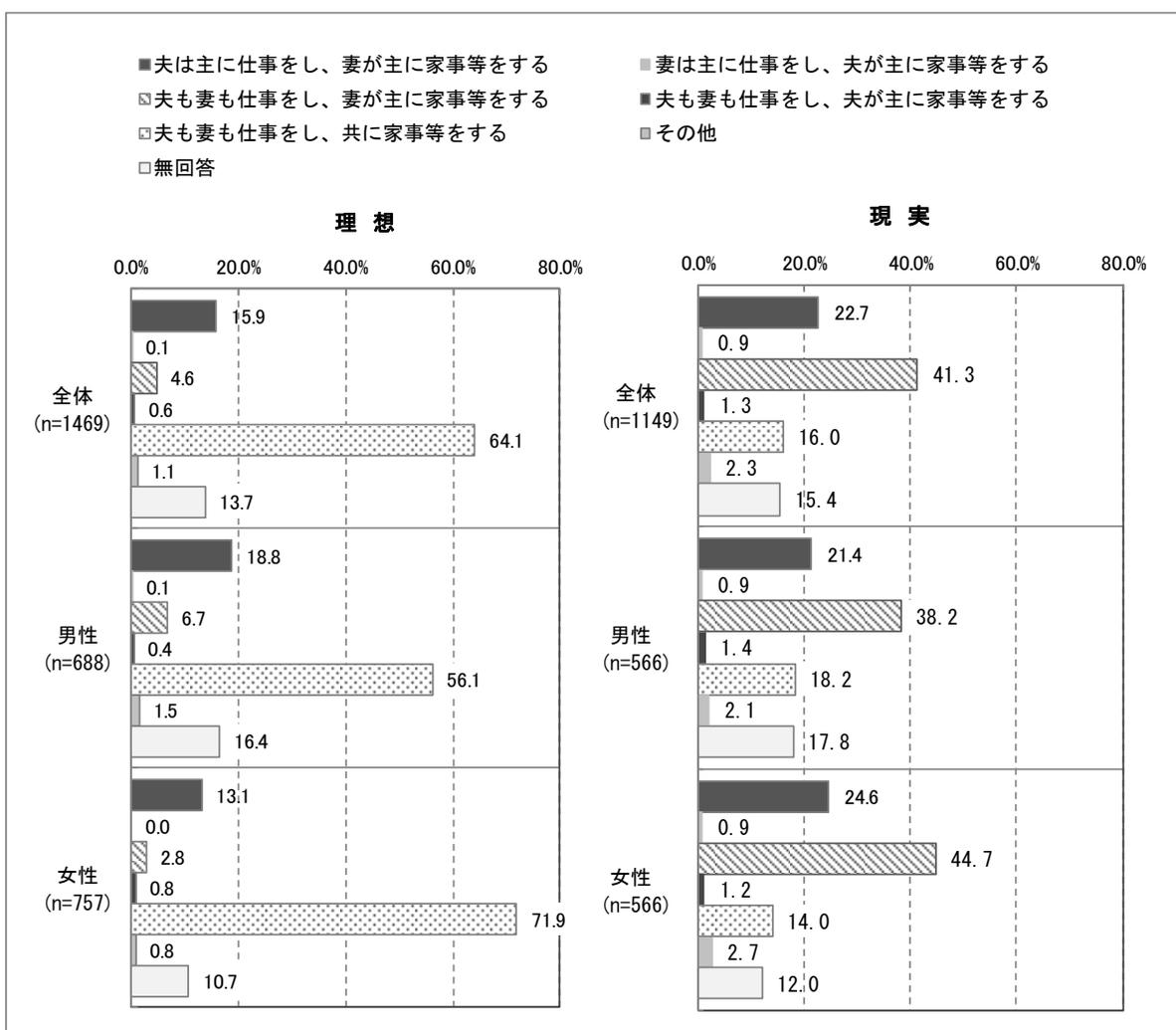
問2 結婚、家庭等について、あなたのご意見をお聞きます。



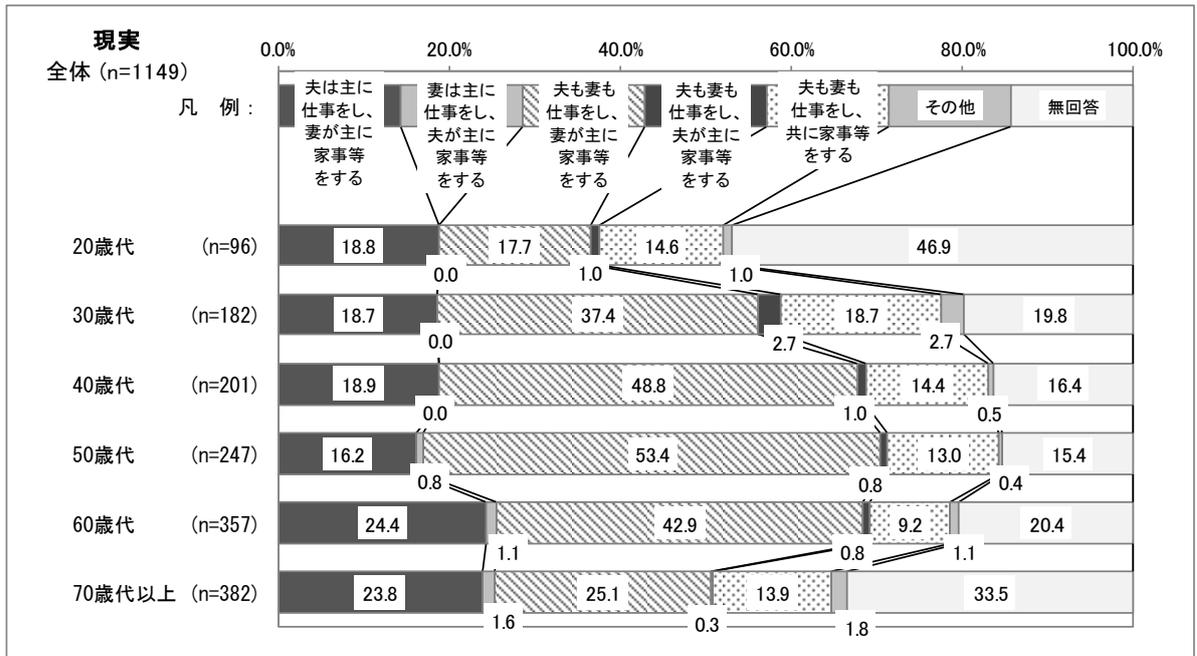
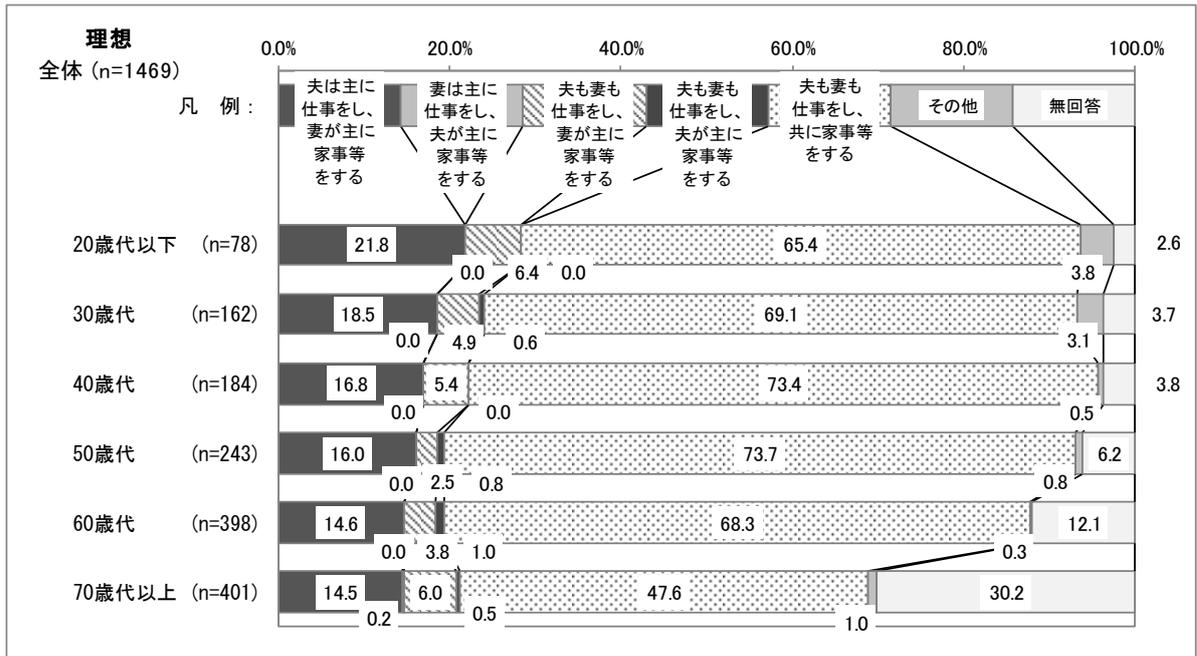
・「1 結婚」と「4 離婚」に関する事項については、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」が多いが、「2 夫と妻の役割」と「3 結婚後に子どもを持つ必要性」については、「反対」又は「どちらかといえば反対」との回答の方が多かった。
 ・性別による違いとしては、「3 結婚後に子どもを持つ必要性」に関し、必ずしも持つ必要はないに賛成若しくはどちらかといえば賛成を合わせ、性別による差は10%以上(女性42.8%、男性30.4%)であった。



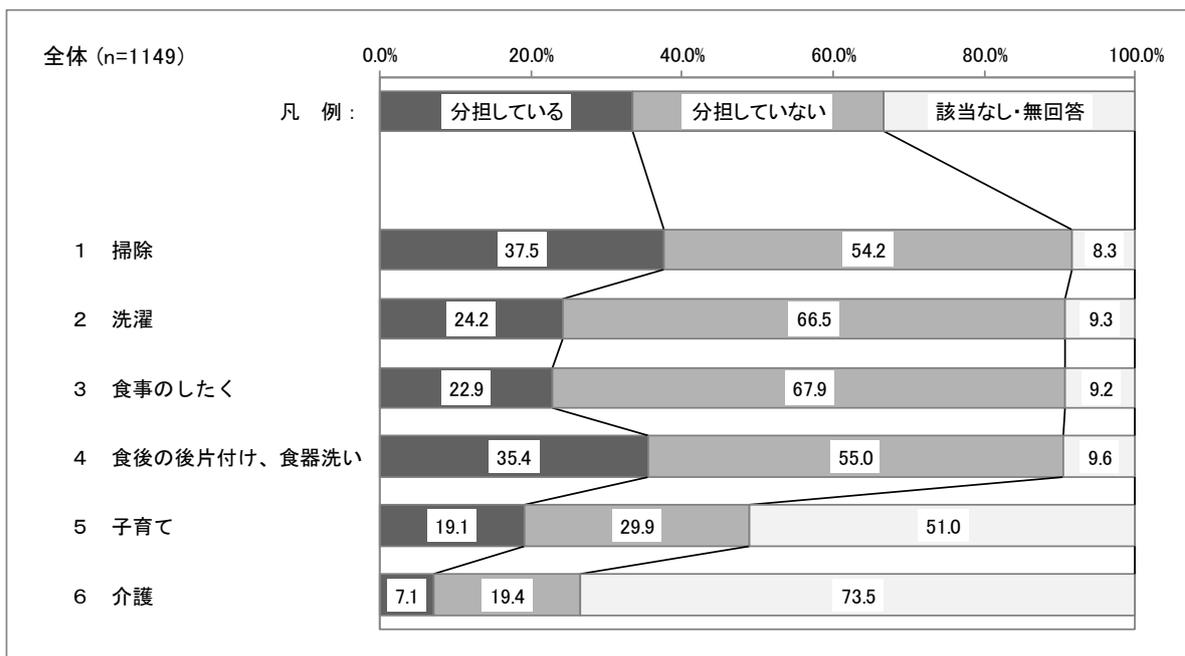
問3 家庭での夫婦の役割分担について、1～6のうち「理想」としてあなたが望ましい姿だと考えるものを1つだけ選んで○をつけてください。



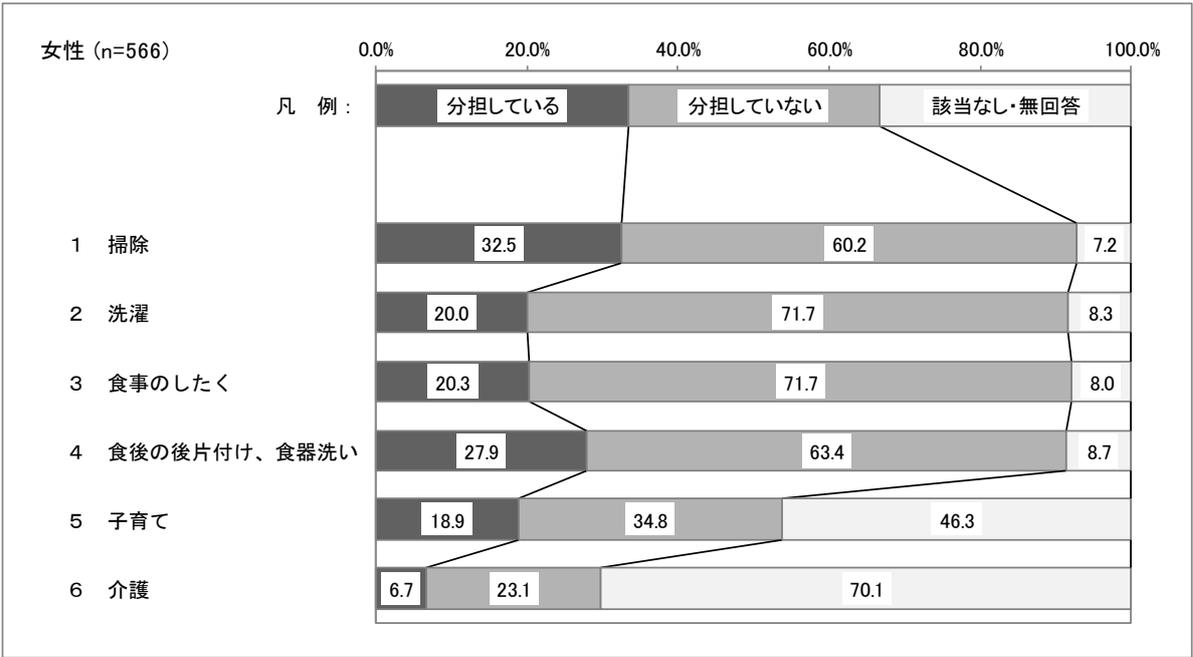
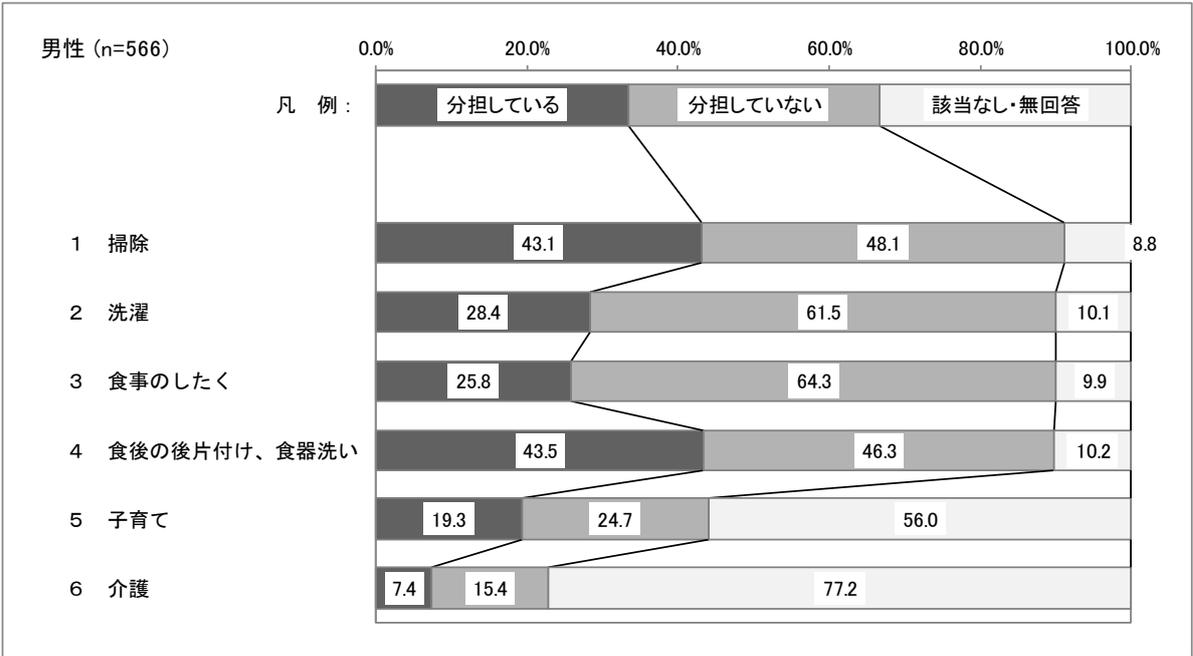
・「理想」では、「夫も妻も仕事をし、共に家事等をする」(64.1%)が半数を超えたが、「現実」では、「夫も妻も仕事をし、妻が主に家事等をする」が最も多く、男性女性とも、理想と現実には差がみられた。



問4 結婚(事実婚を含む)している方にお聞きします。あなたのご家庭では次のような家事を男性は分担していますか。

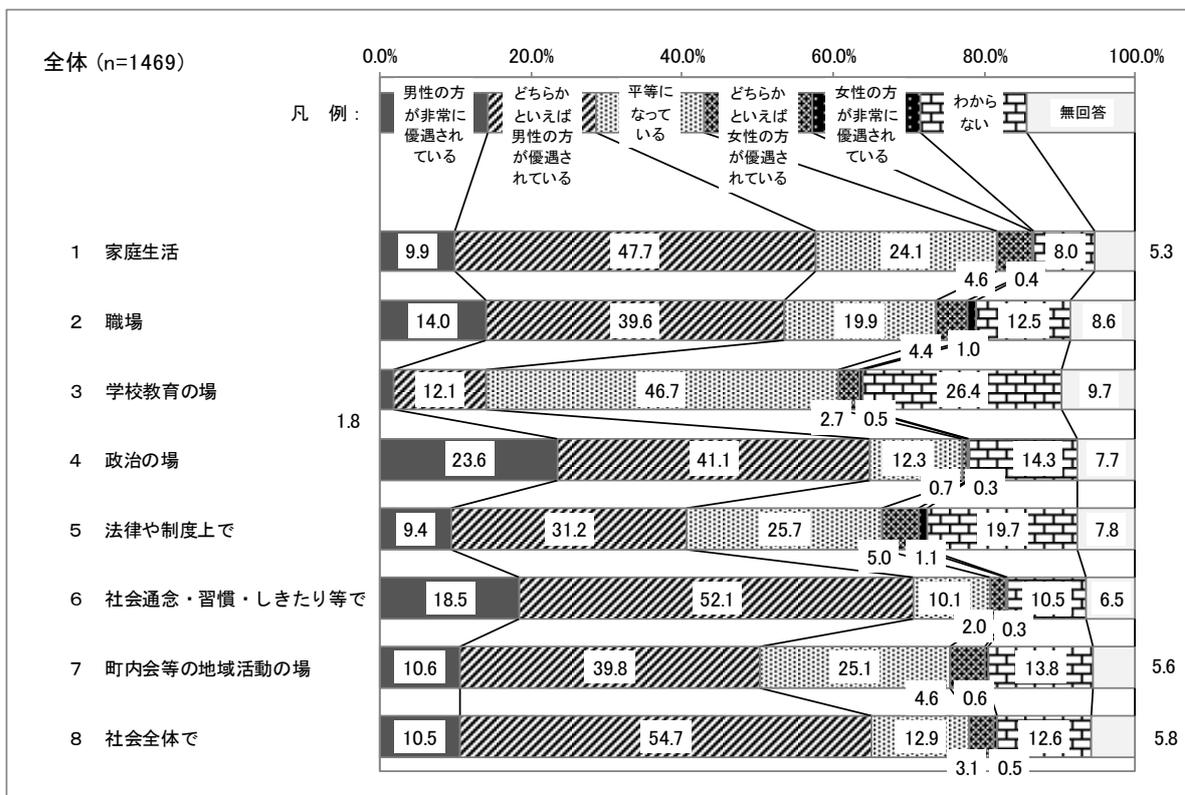


・「5 子育て」と「6 介護」を除き、いずれの項目とも「分担していない」が半数を超えた。
 ・「1 掃除」から「4 食後の後片付け、食器洗い」の4項目については、「分担している」との回答が男性に比べ女性の方が低く、意識にギャップがみられた。中でも、「4 食後の後片付け、食器洗い」について性別による差は15.6%（女性63.4%、男性46.3%）であった。

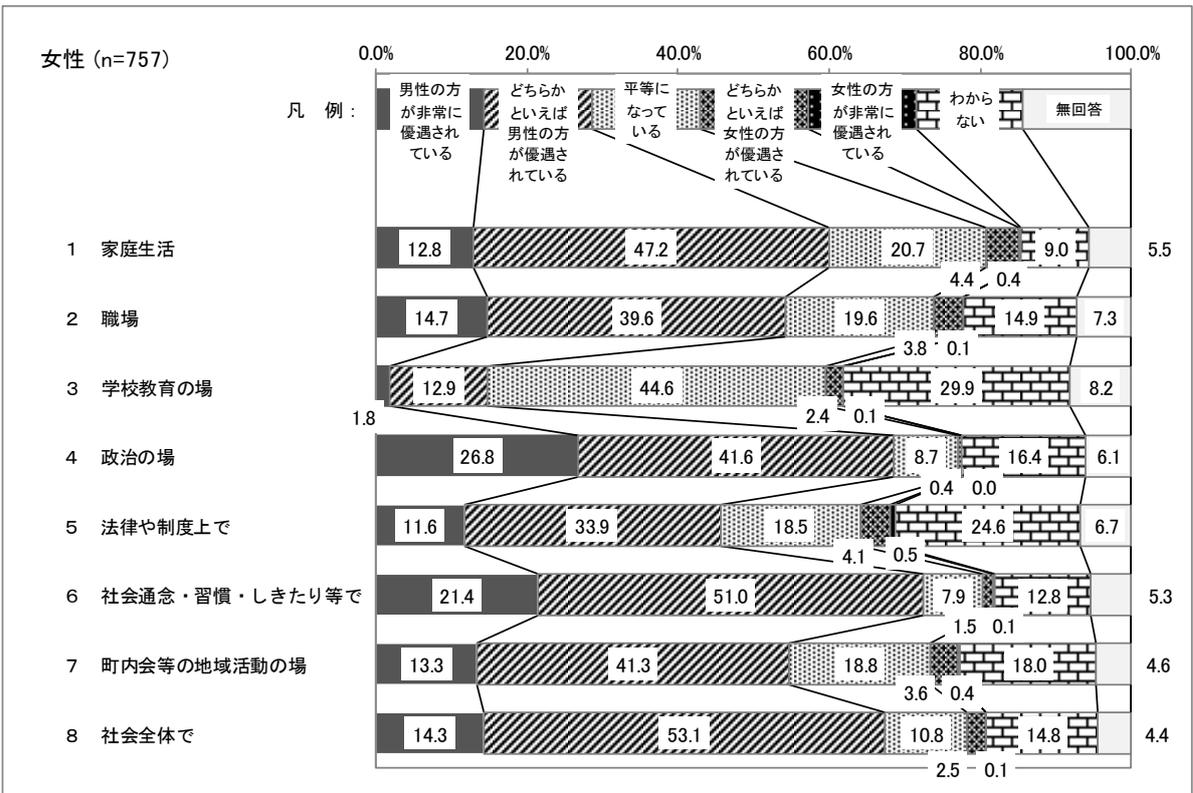
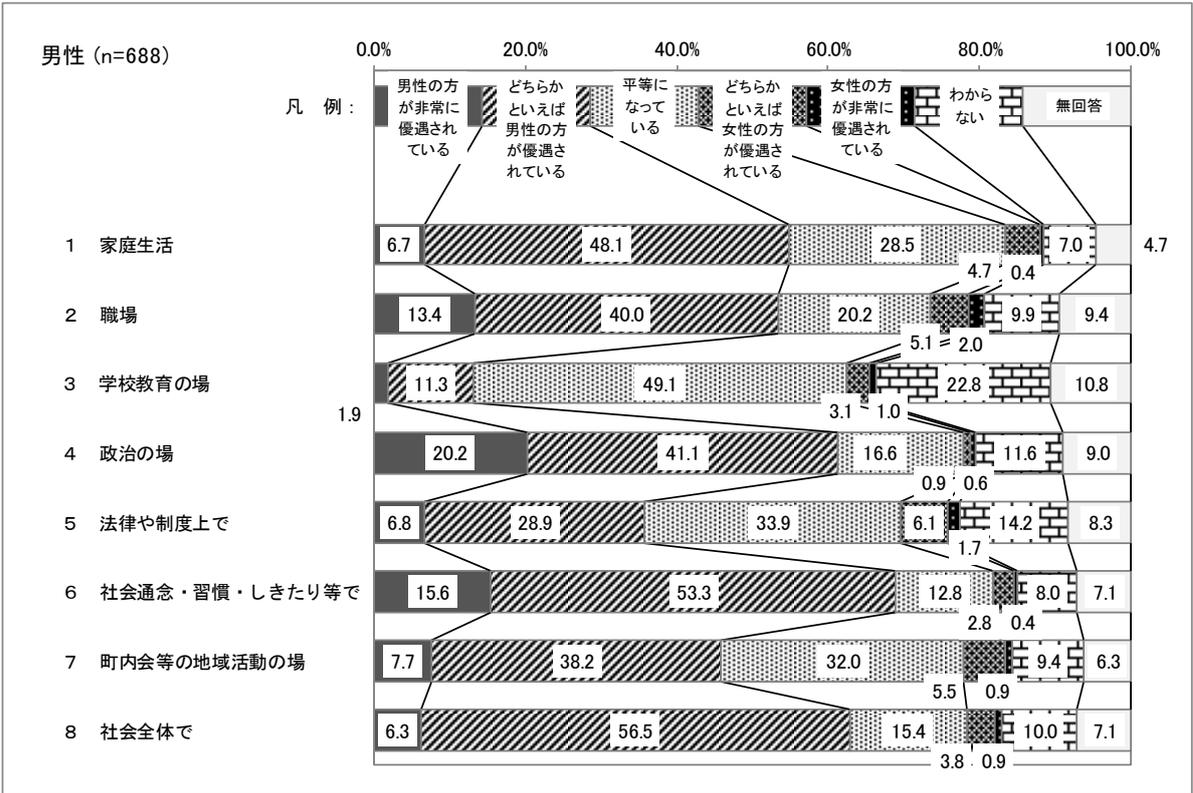


2 男女の地位の平等感について

問5 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

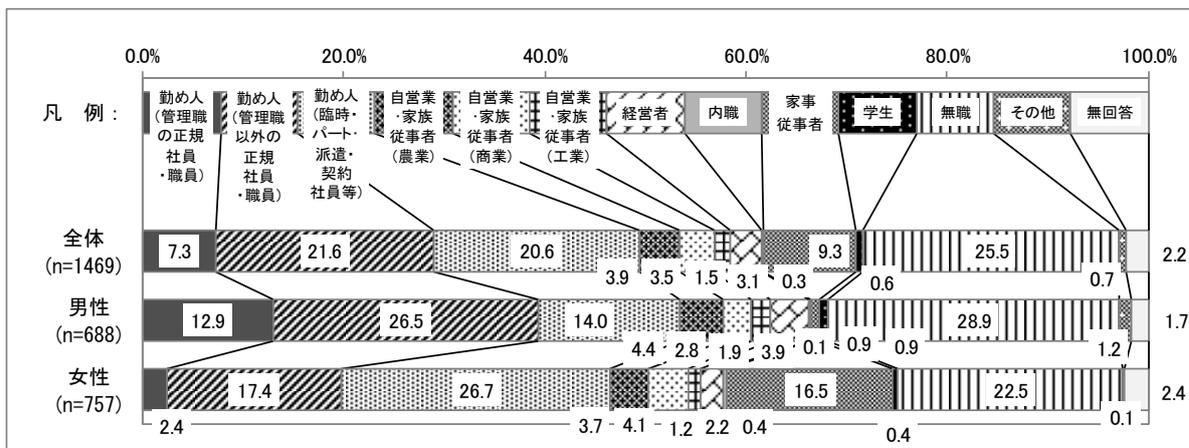


- ・「学校教育の場」での平等感は全分野の中で最も多く46.7%であったが、他の分野では10～20%台であり、中でも「社会通念・習慣・しきたり等で」の分野が最も低くなっている。
- ・「学校教育の場」以外の分野では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との回答が最も多かった。
- ・性別による違いでは、「学校教育の場」を除く全ての分野において、「男性の方が非常に優遇されている」との回答した割合は、女性の方が男性よりも多かった。



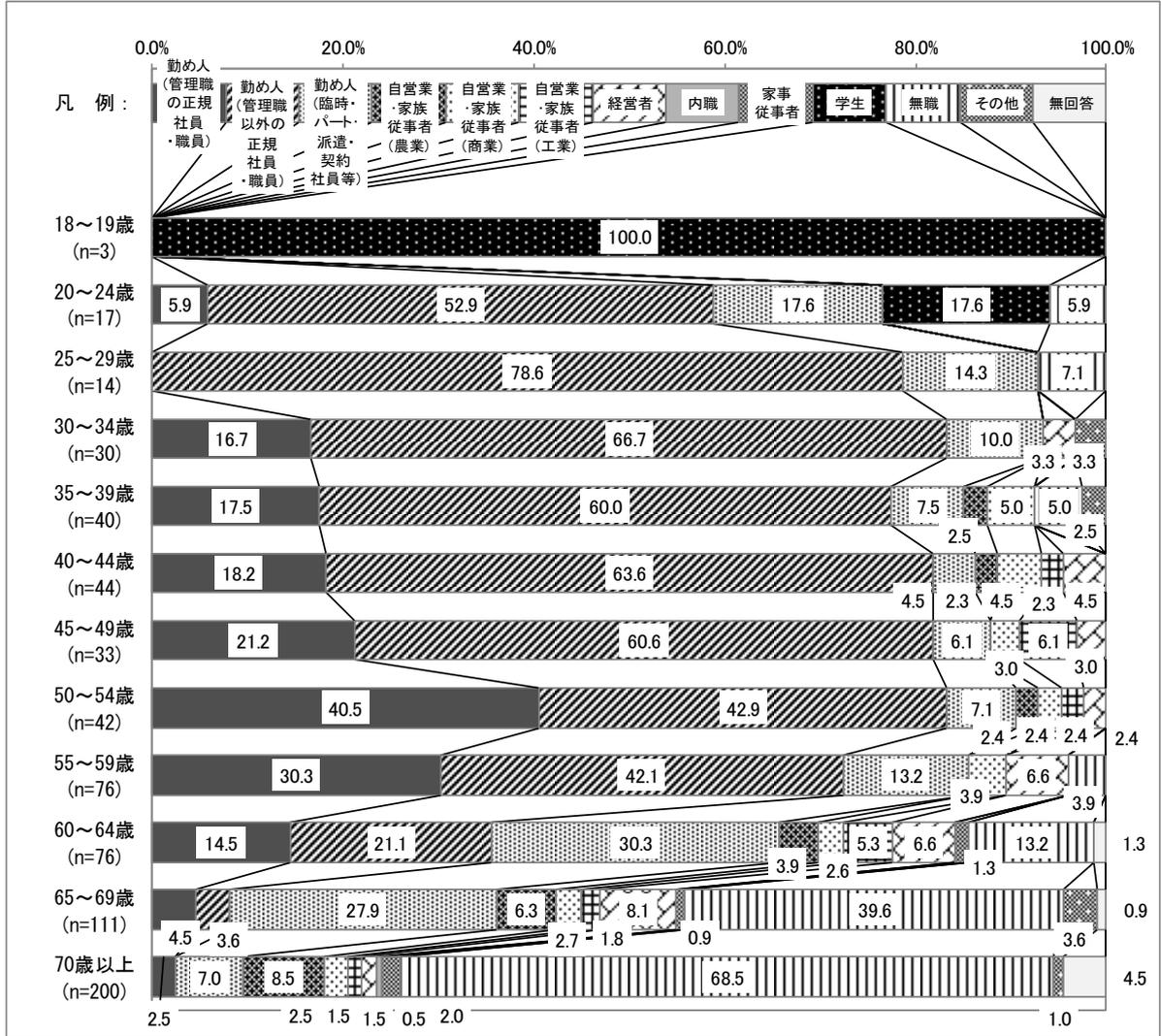
3 職業生活、女性活躍の推進について

問6 あなたは現在どのような職業にお就きですか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

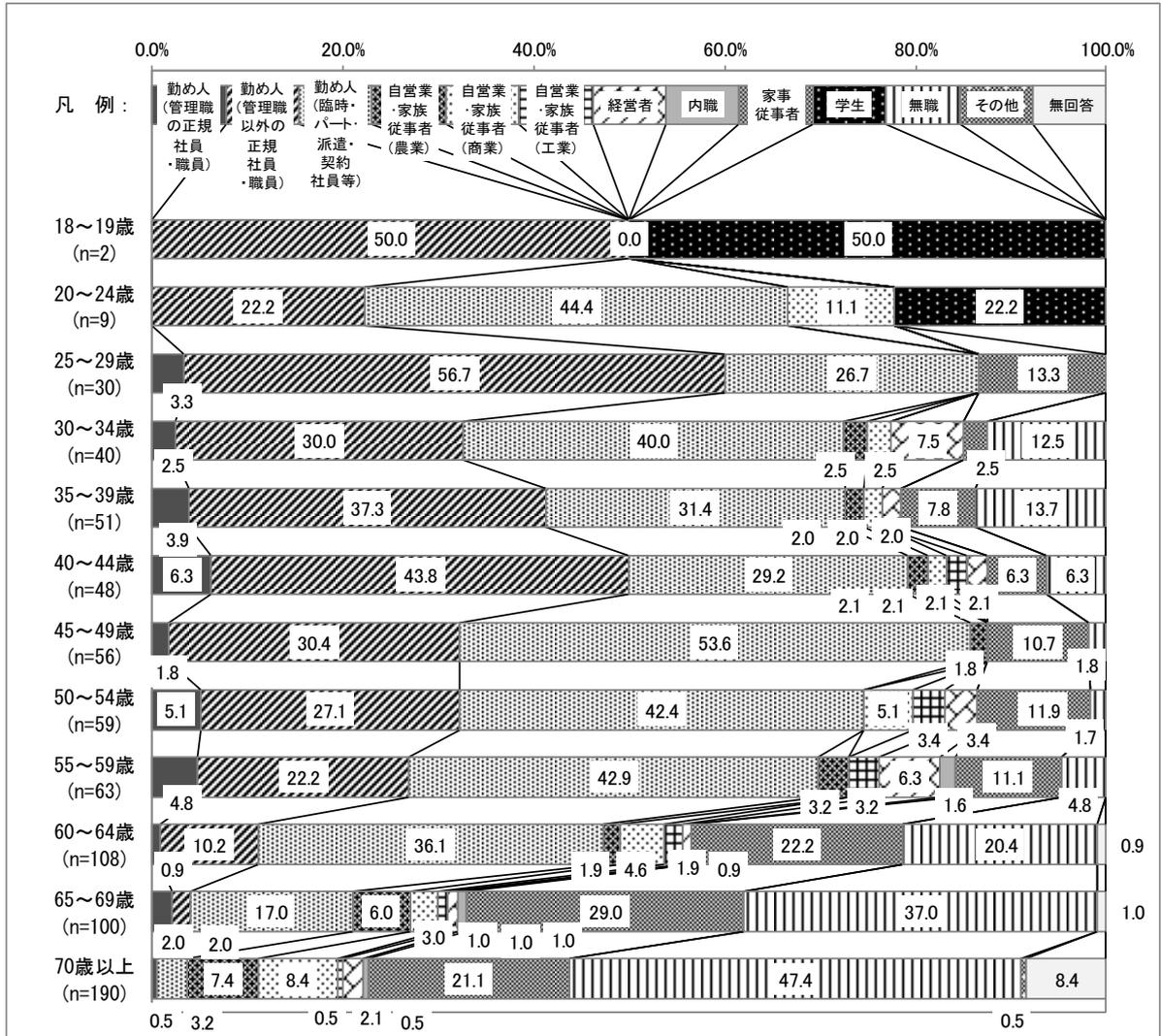


- ・全体では、「勤め人(管理職以外の正規社員・職員)」(21.6%)が最も多く、次いで「勤め人(臨時・パート・派遣・契約社員等)」(20.6%)、「家事従事者」(9.3%)の順であった。
- ・性別による内訳では、男性は「勤め人(管理職以外の正規社員・職員)」、次いで「勤め人(臨時・パート・派遣・契約社員等)」、「勤め人(管理職の正規社員・職員)」であった。女性は「勤め人(臨時・パート・派遣・契約社員等)」、次いで「勤め人(管理職以外の正規社員・職員)」、「家事従事者」の順であった。
- ・そのほか、「勤め人(管理職の正規社員・職員)」(女性2.4%、男性12.9%)、「勤め人(臨時・パート・派遣・契約社員等)」(女性26.7%、男性14.0%)、「家事従事者」(女性16.5%、男性0.9%)では、性別により10%以上の差がみられた。

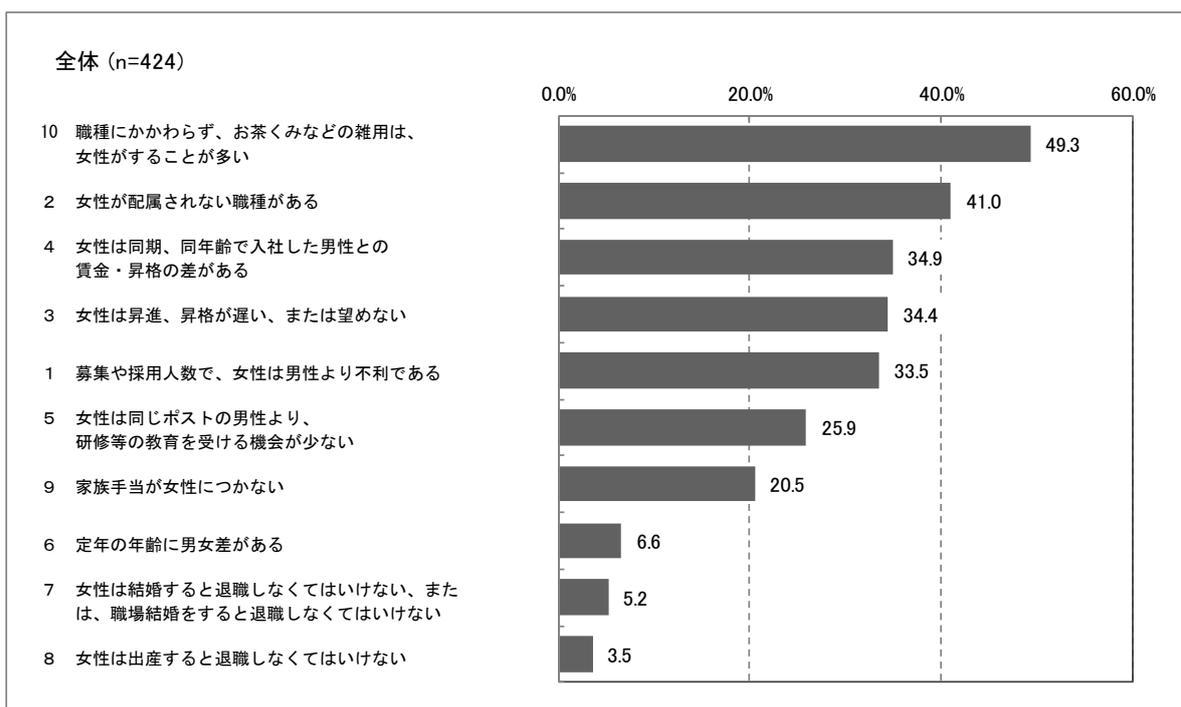
男性



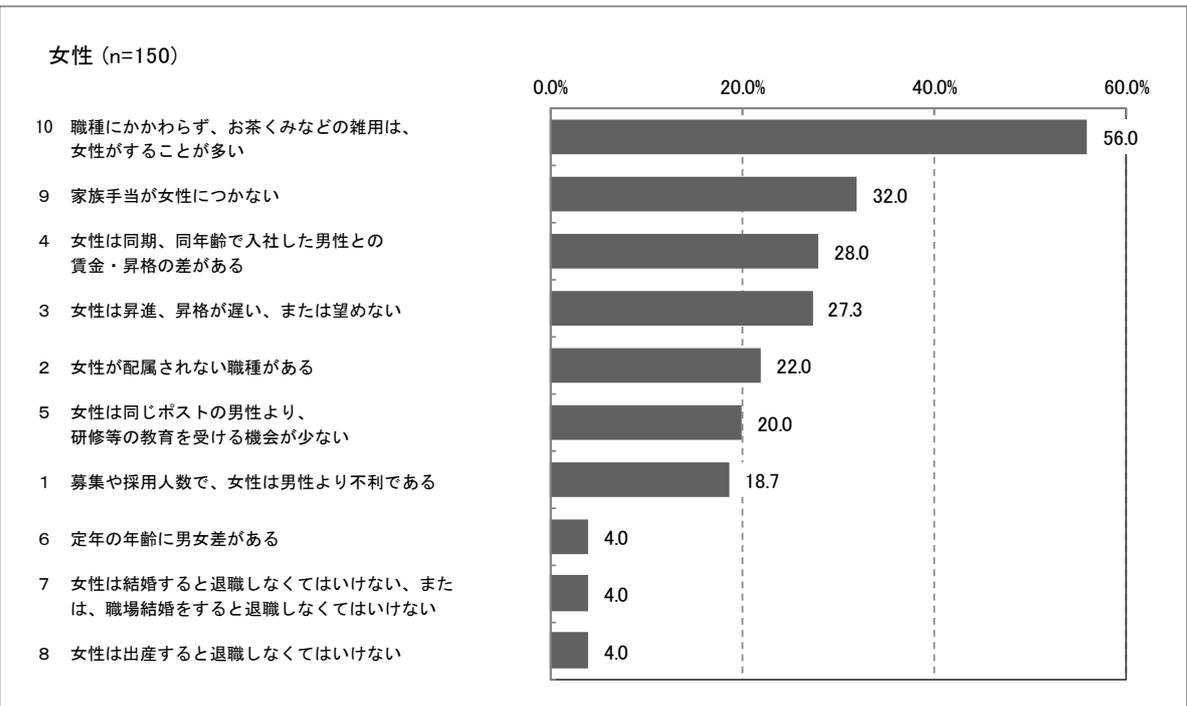
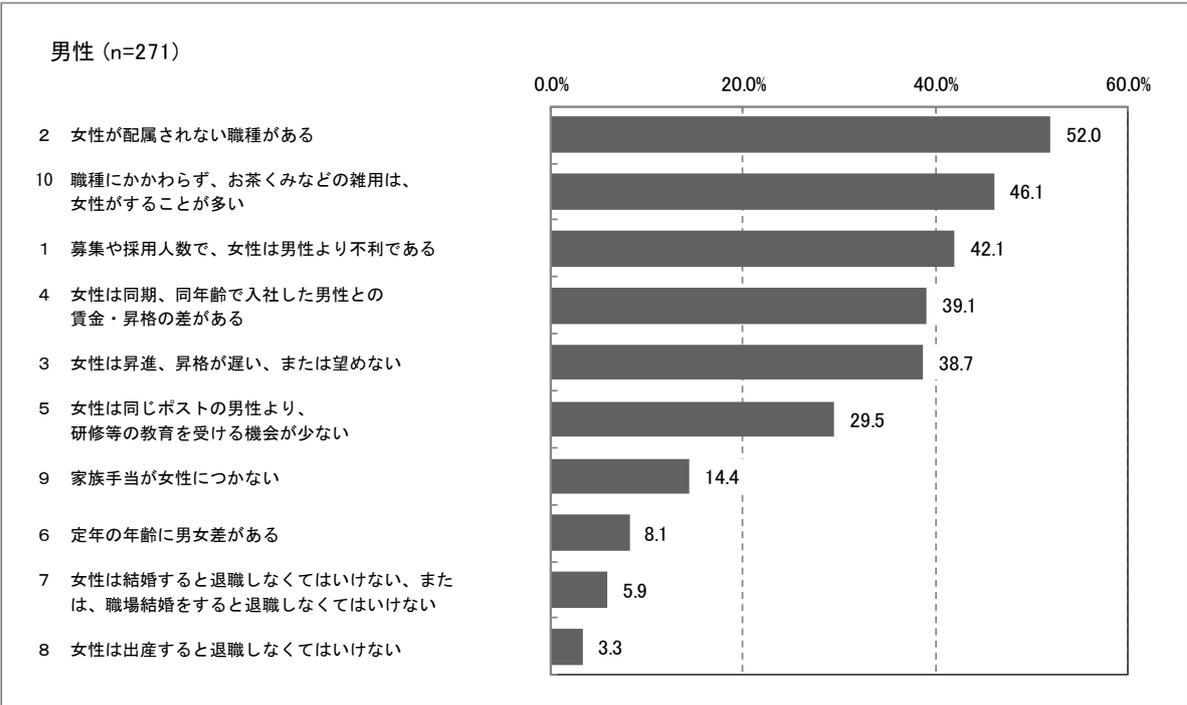
女性



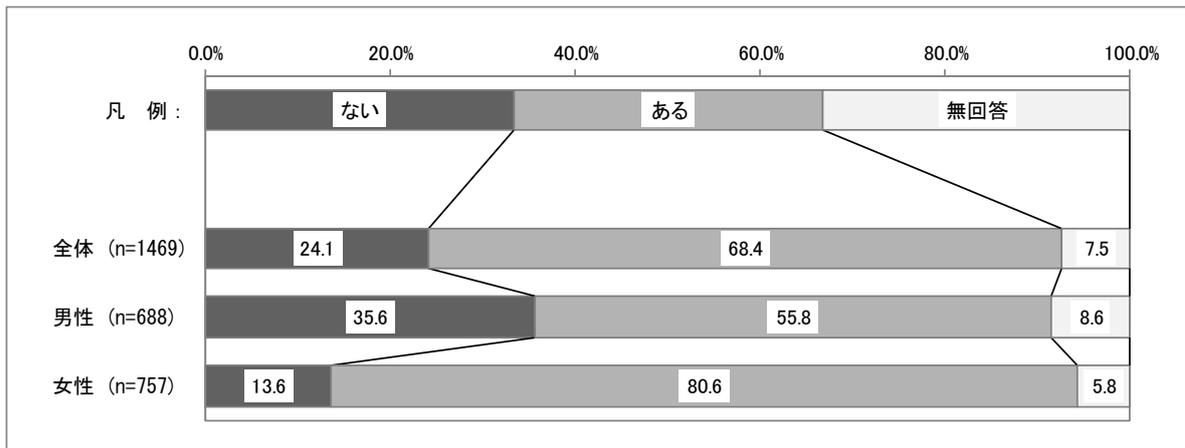
問7 (問6で「1又は2の勤め人」とお答えされた方のみお答えください。)あなたの職場では次のようなことがありますか。1～10までのそれぞれについて、1つだけ選んで○をつけてください。



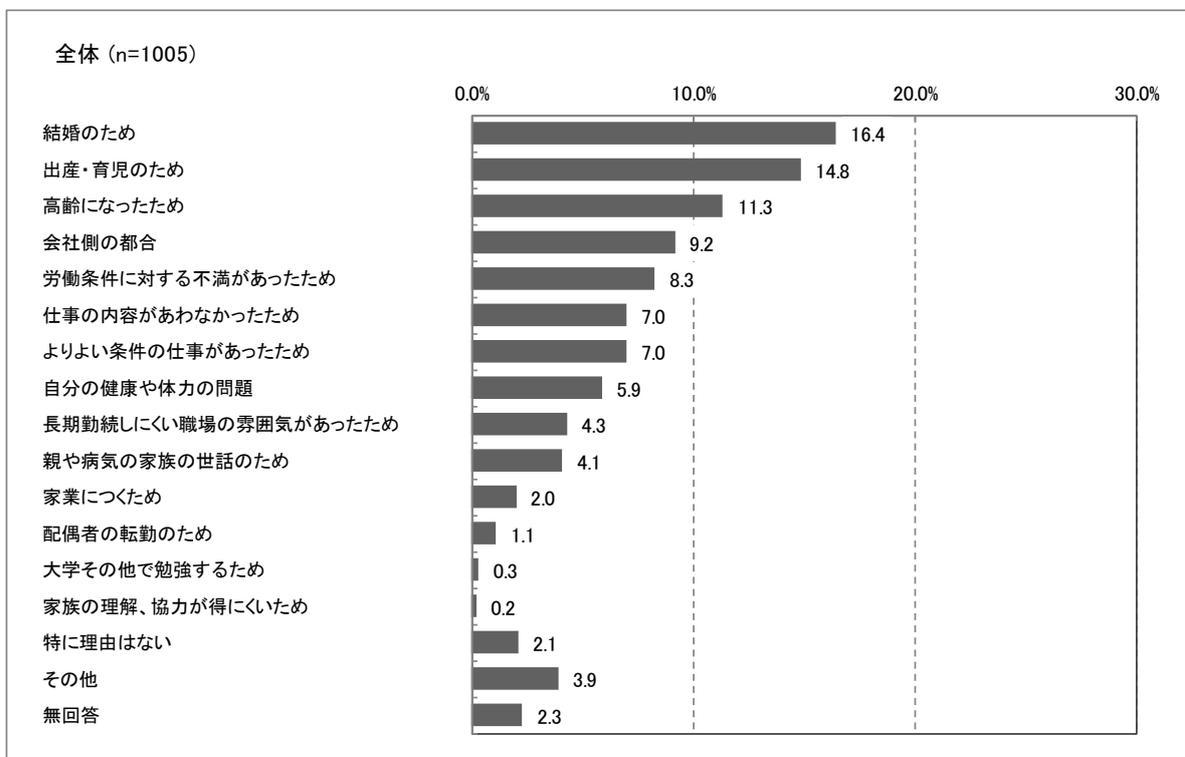
・全体では、「10 職種にかかわらず、お茶くみなどの雑用は、女性がすることが多い」(49.3%)が最も多かったが、男性では「2 女性が配属されない職種がある」(52.0%)の回答が最も多く、性別による違いがみられた。



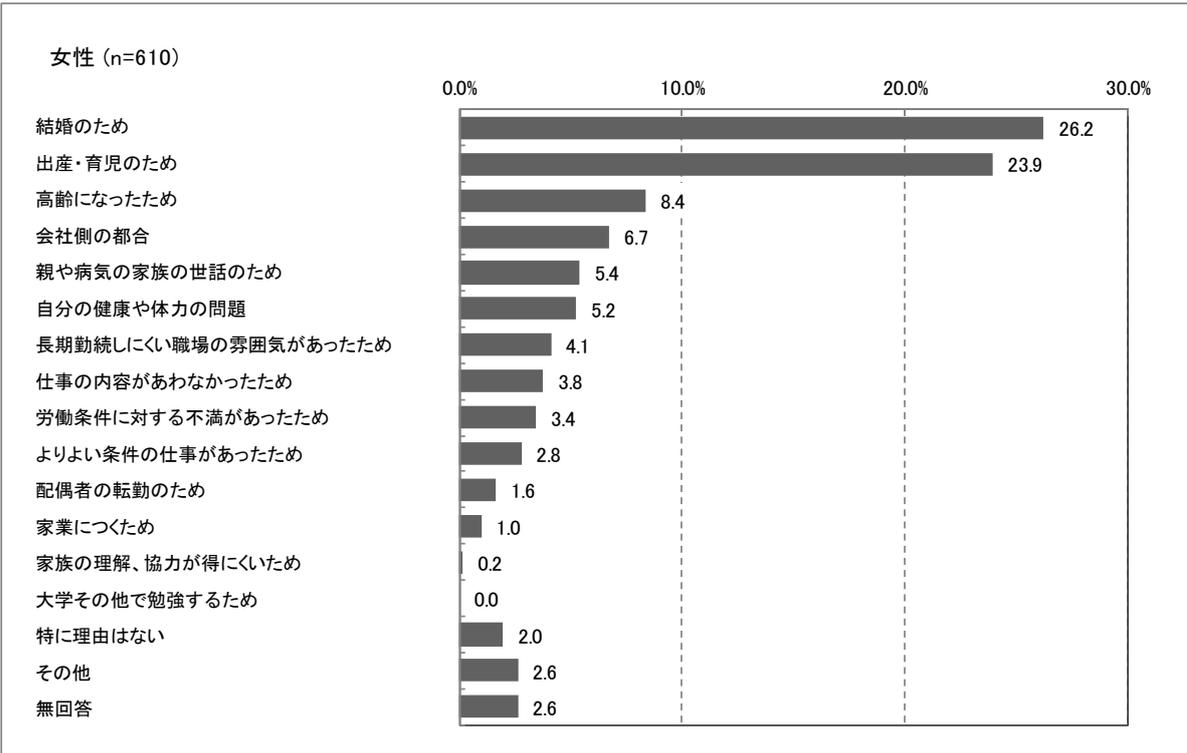
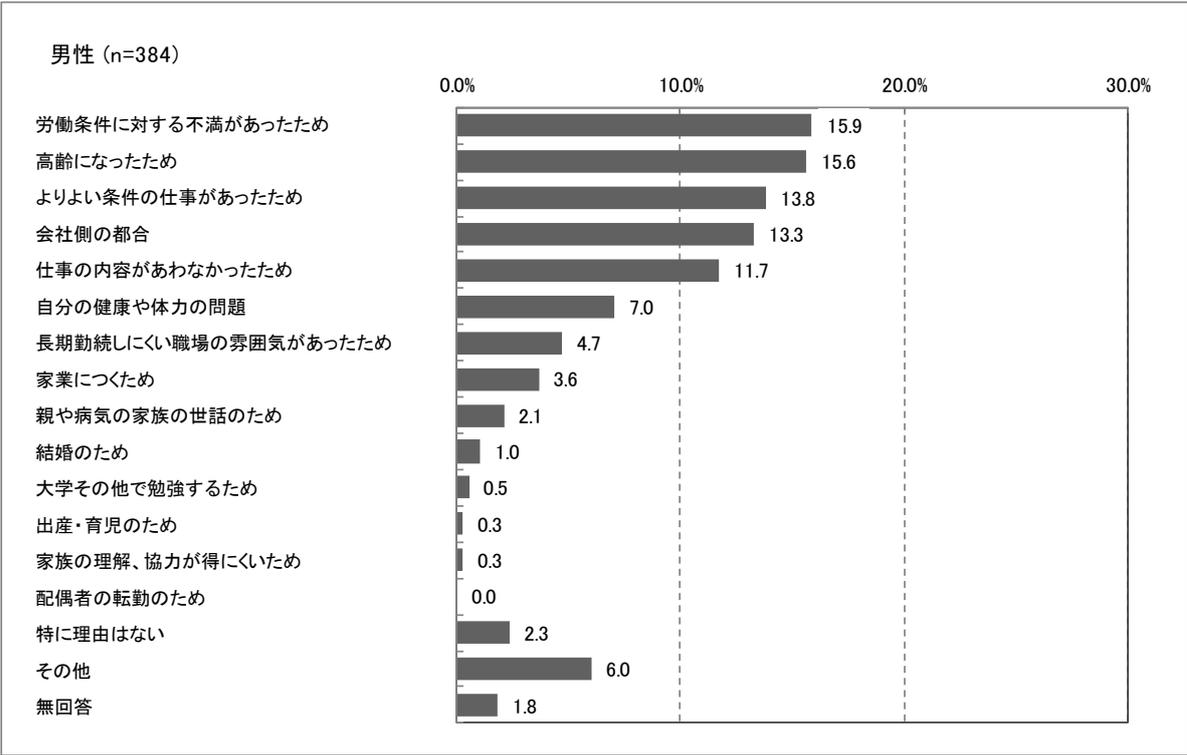
問8 あなたは、今までに仕事を辞めたり中断したり、あるいは転職したことがありますか。



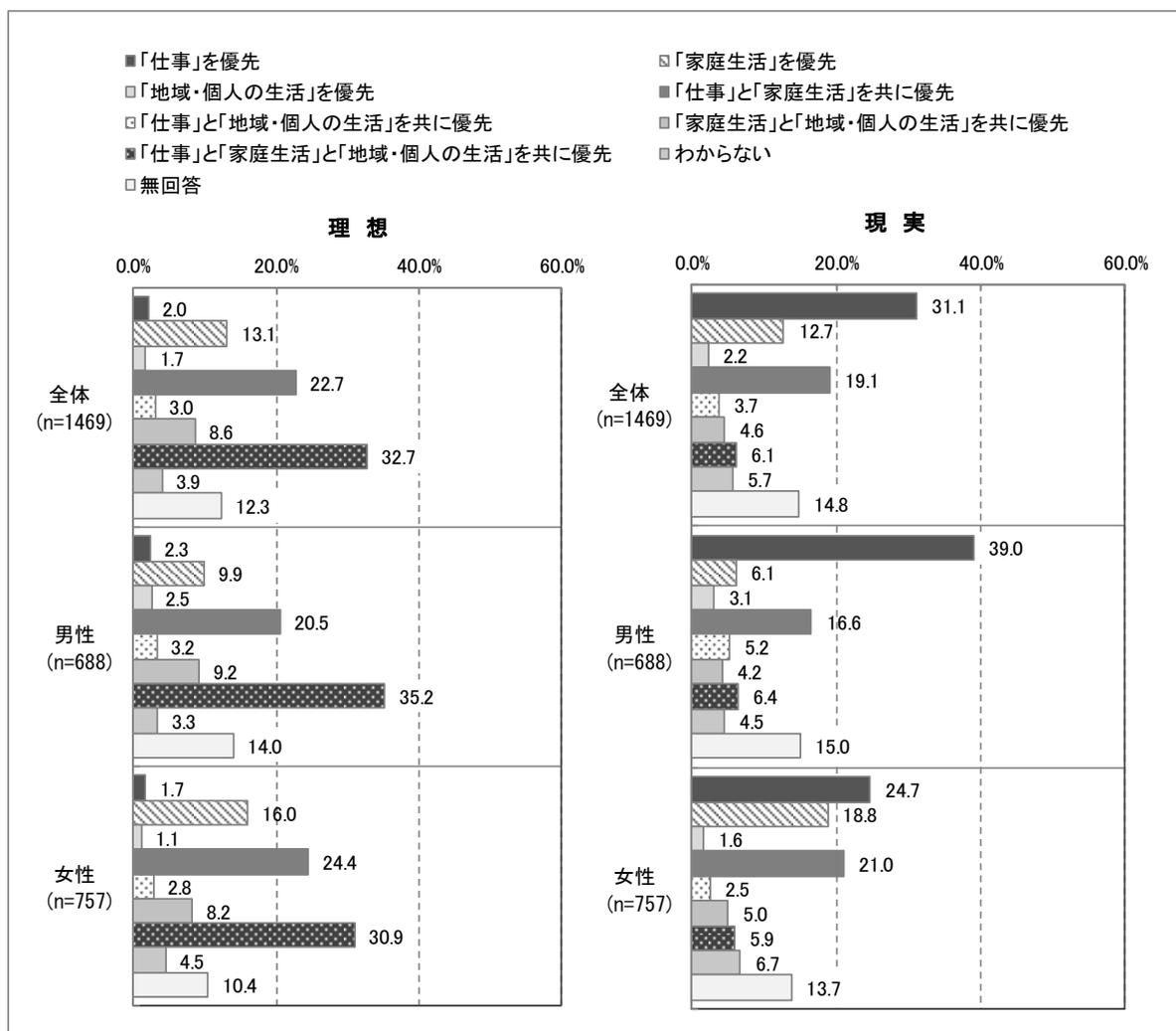
問8-1 仕事を辞めた、中断した理由



・全体では、辞職・退職又は転職した人の割合が3分の2を超えた(68.4%)ほか、女性の方が男性に比べ離職等の経験が多いという結果(女性80.6%、男性55.8%)であった。
 ・離職等の理由についても性別による差があり、女性は「結婚」や「出産・育児のため」が上位を占めているが、男性は「労働条件に不満があったため」や「よりよい条件の仕事があったため」が上位にあり、「結婚」や「出産・育児のため」は少ないという結果であった。

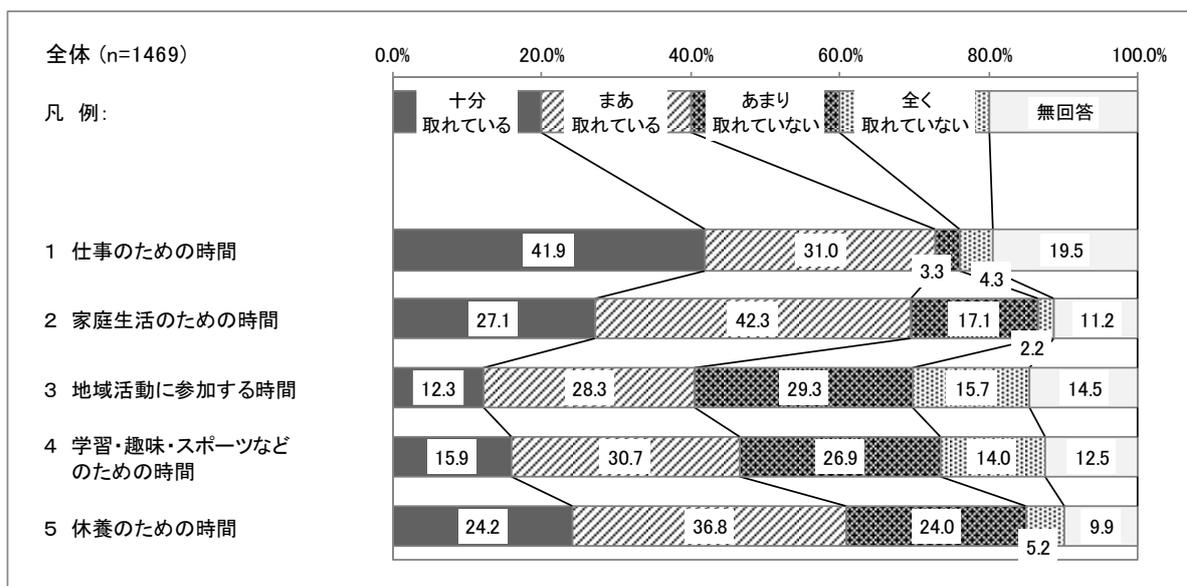


問9 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について、1～8のうちあなたが望ましい姿だと考えるものを一つ選び「理想」欄に○をつけてください。



・「理想」では32.7%と最も多かった『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先』について、「現実」では6.1%にとどまり、「理想」と「現実」には26.6%の差がみられた。
 ・「現実」で31.1%と最も多かった『「仕事」を優先』については、「理想」では2.0%にとどまっており、「理想」と「現実」には29.1%の差がみられた。

問10 あなたの生活では、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツなど」、「休養」の時間は十分に取れていますか。

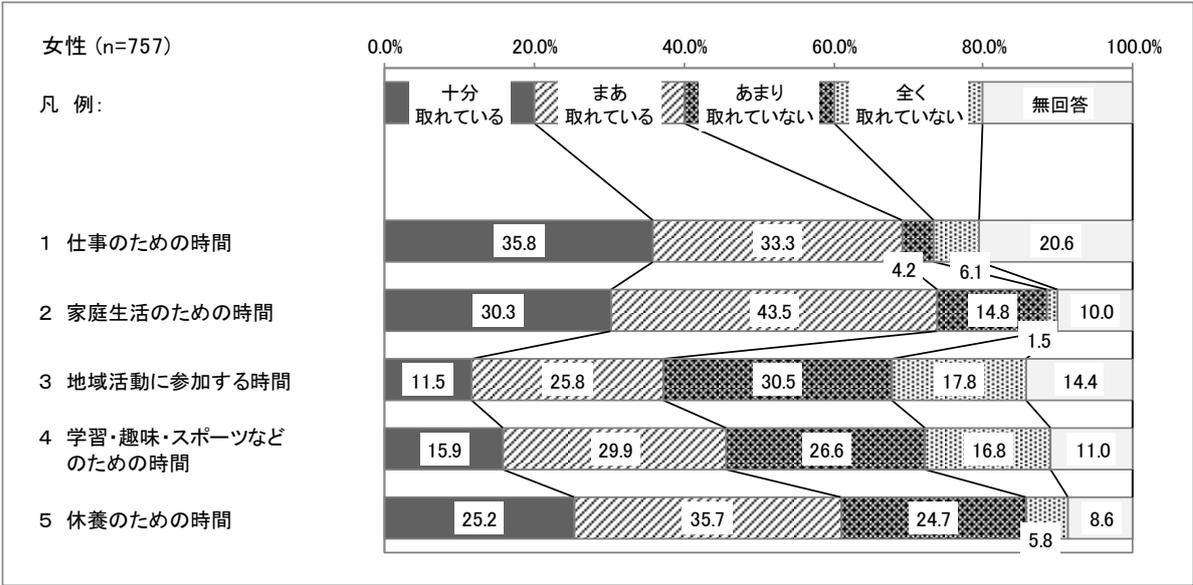
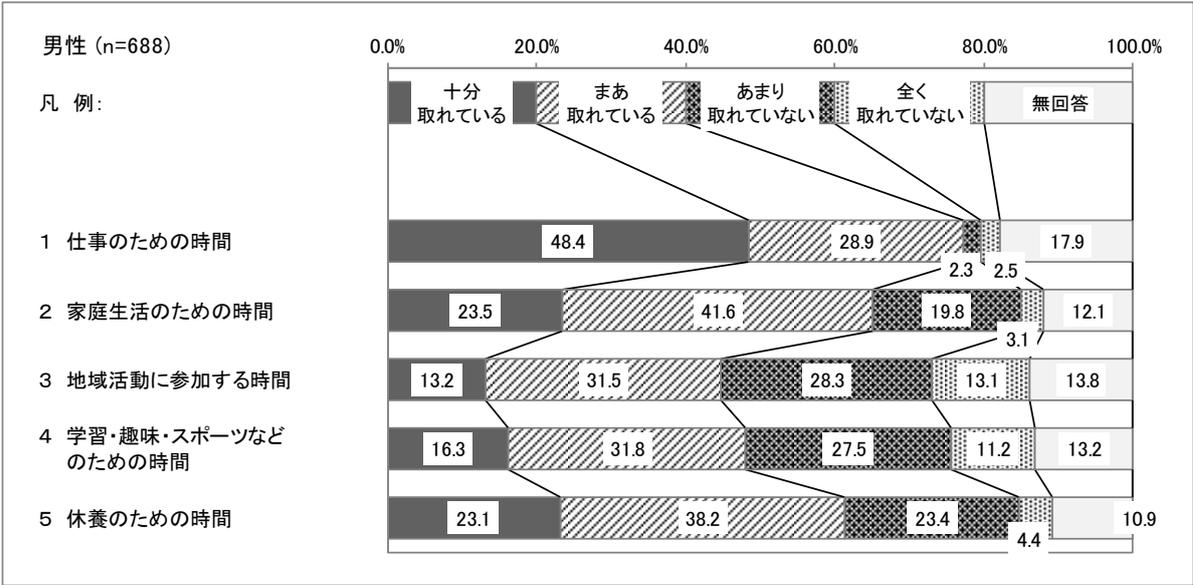


・「十分取れている」割合が最も多かった項目は、「1 仕事のための時間」(41.9%)の1項目のみであり、最も少なかった項目は「3 地域活動に参加する時間」(12.3%)であった。

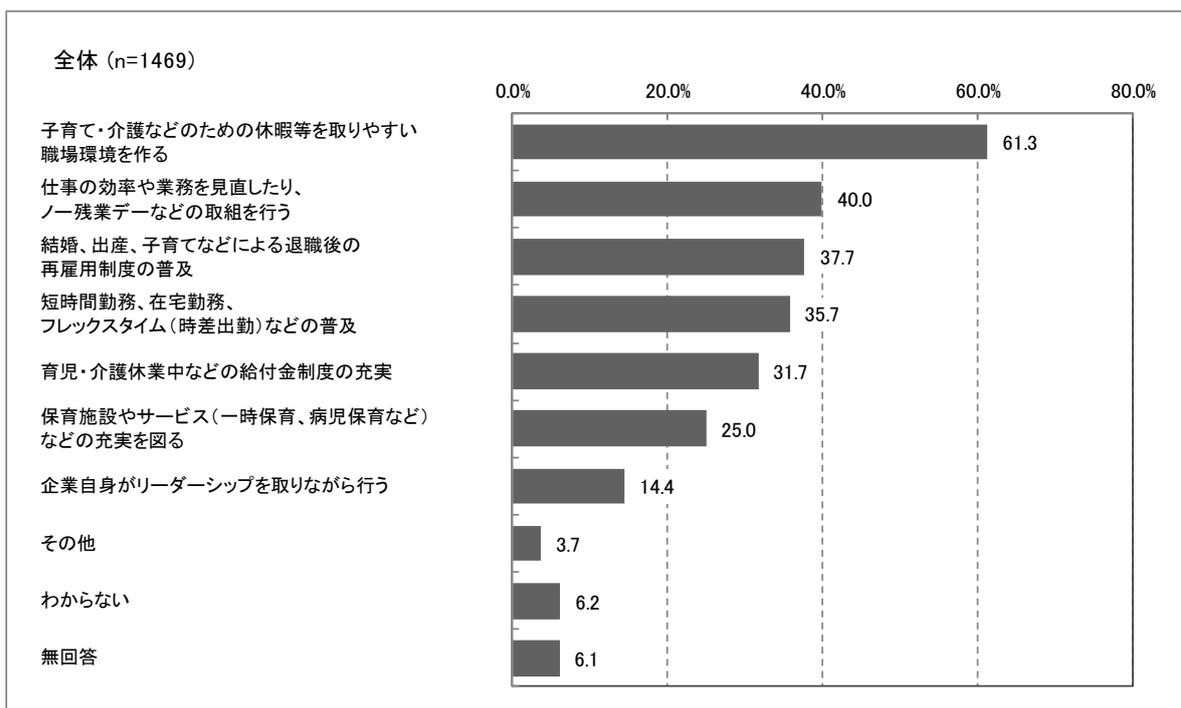
・「3 地域活動に参加する時間」と「4 学習・趣味・スポーツなどのための時間」の2項目については、「全く取れていない」がそれぞれ10%を超えた。

・「十分取れている」と「まあ取れている」の合計と、「全く取れていない」と「あまり取れていない」の合計を比較したところ、「3 地域活動に参加する時間」の1項目のみ、「十分な時間が取れていない」との回答の方が多かった。

・性別による大きな違いはみられなかった。

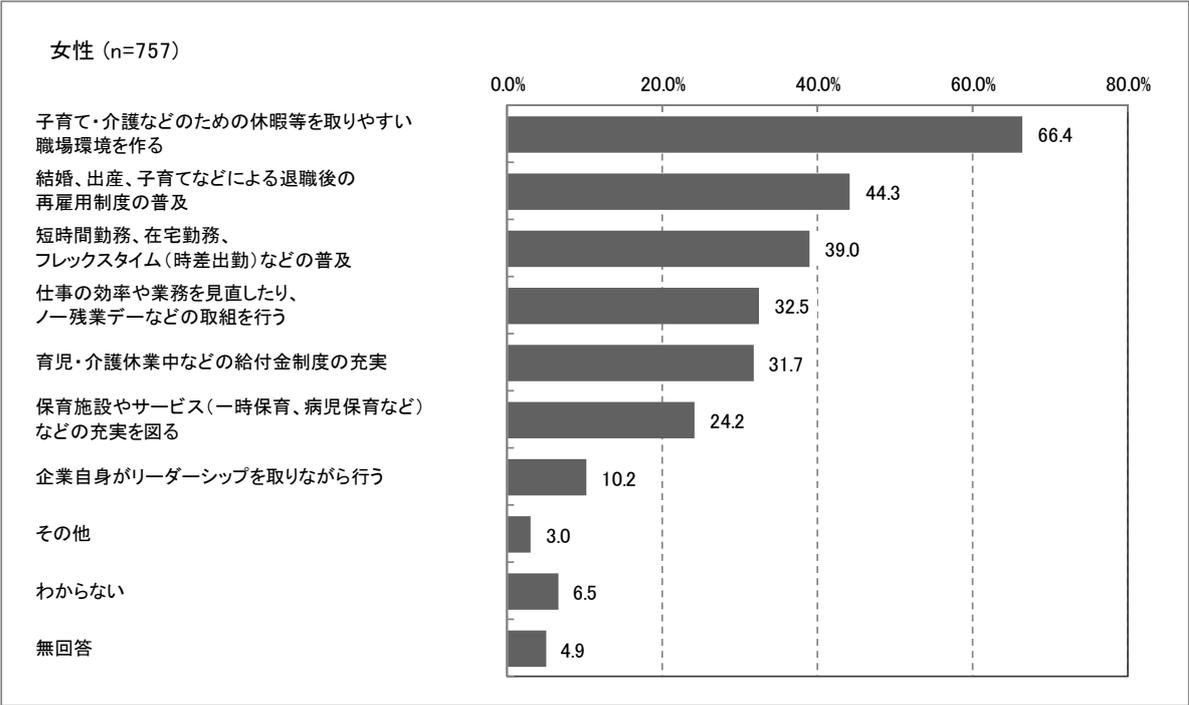
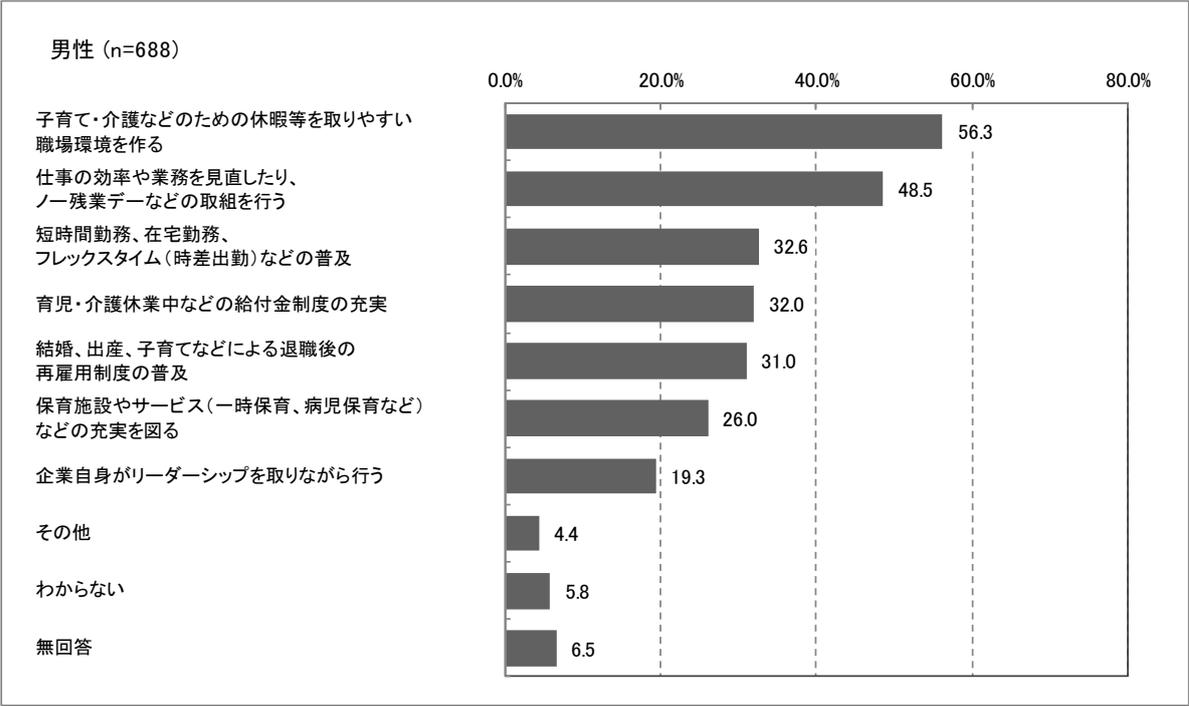


問11 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス※)の実現のためにどのようなことが必要だと思いますか。主なものを3つを選んでQをつけてください。

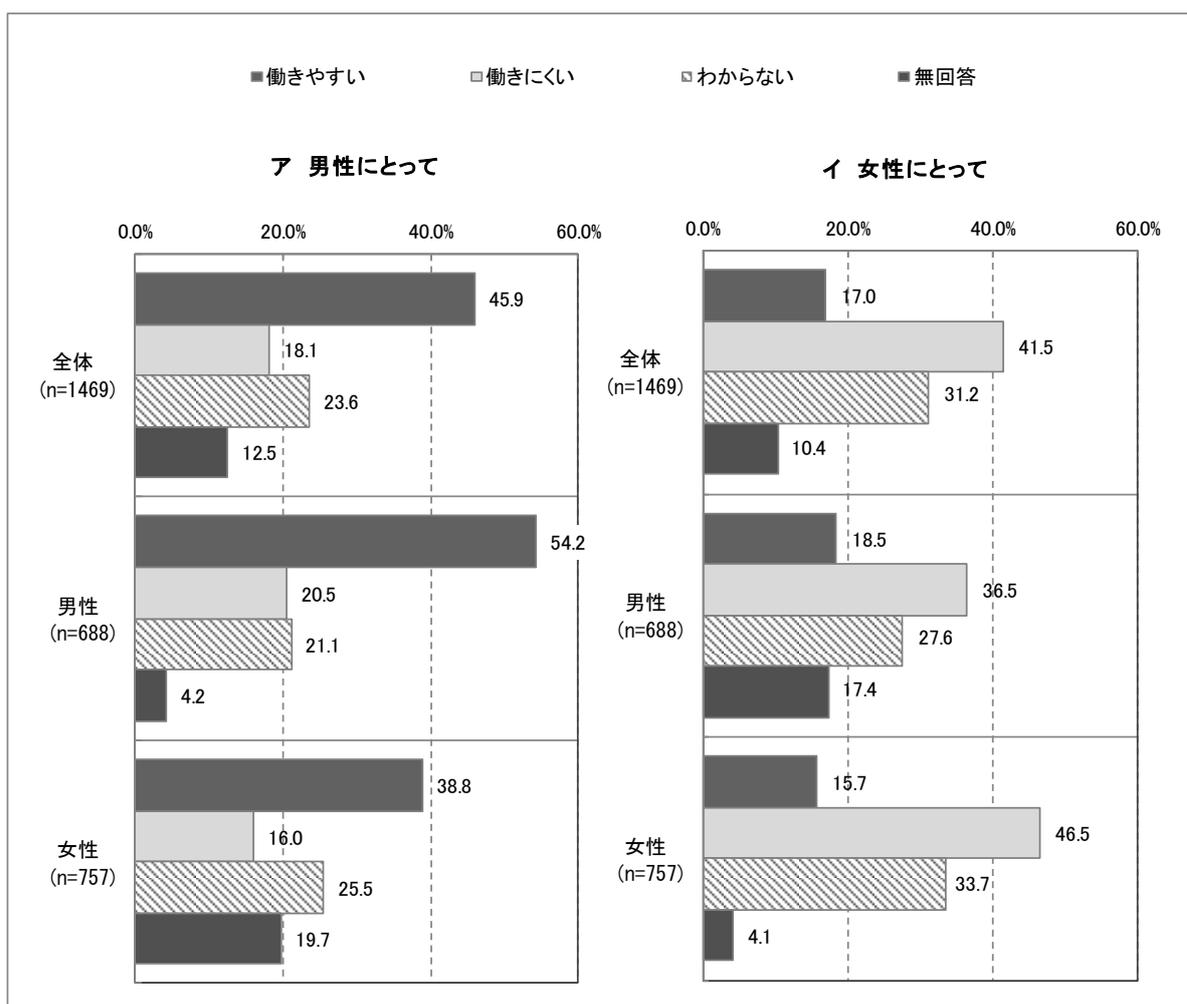


・「子育て・介護などのための休暇等を取りやすい職場環境を作る」(61.3%)が最も多く、次いで「仕事の効率や業務を見直したり、ノー残業デーなどの取組を行う」(40.0%)、「結婚、出産、子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」(37.7%)の順となり、5項目で30.0%を超えた。

・全体と男性で2番目となった「仕事の効率や業務を見直したり、ノー残業デーなどの取組を行う」については、女性では4番目であり、女性の2番目は「結婚、出産、子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」で、性別による差がみられた。

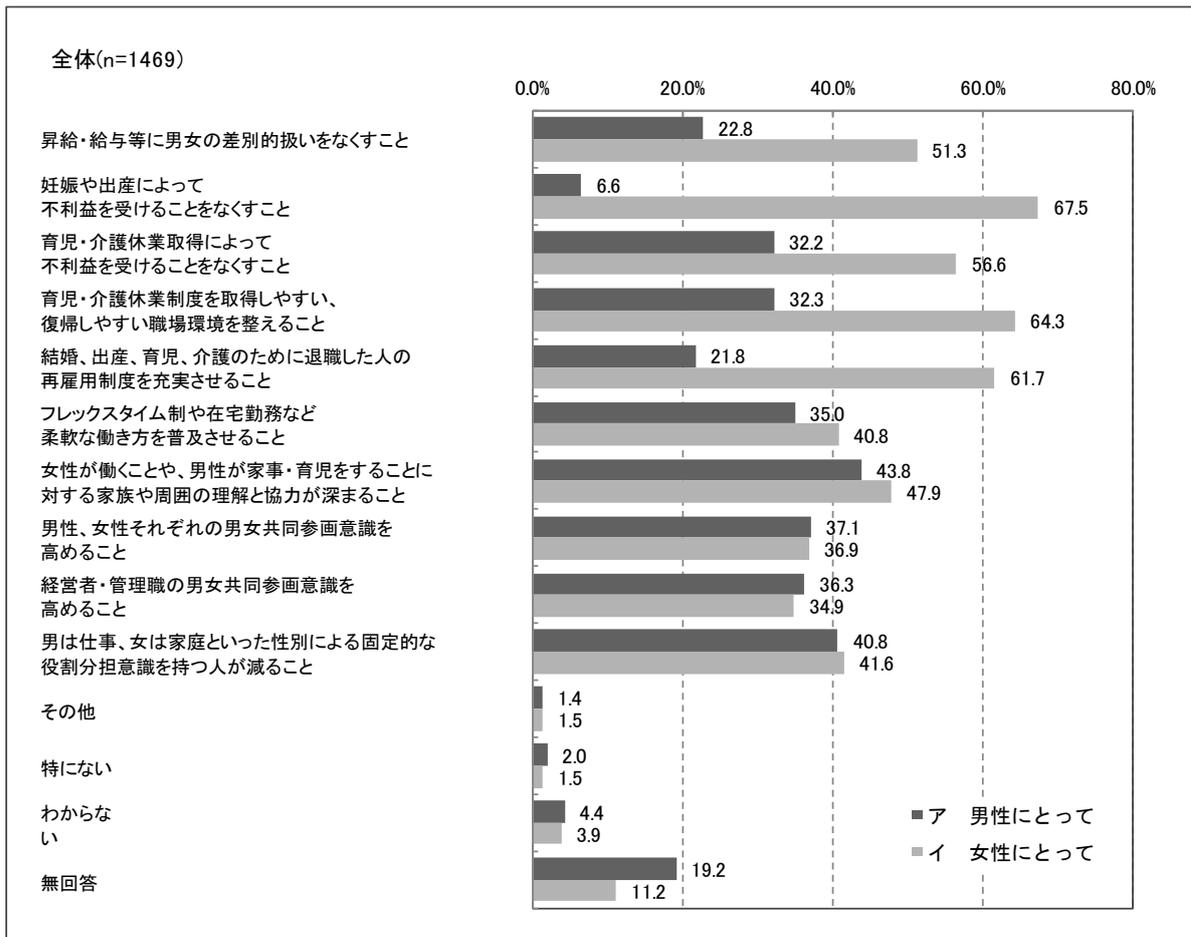


問12 あなたは、現在の社会は「男性」及び「女性」にとって働きやすい環境にあると思いますか(男性、女性それぞれについて、1つだけ選んで○をつけてください)



・男性にとって「働きやすい」との回答は、全体で45.9%(女性38.8%、男性54.2%)であったが、女性にとって「働きやすい」との回答では、全体で17.0%(女性15.7%、男性18.5%)にとどまり、男性女性とも、女性にとっては「働きにくい」と感じる割合が多かった。

問13 働きやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。

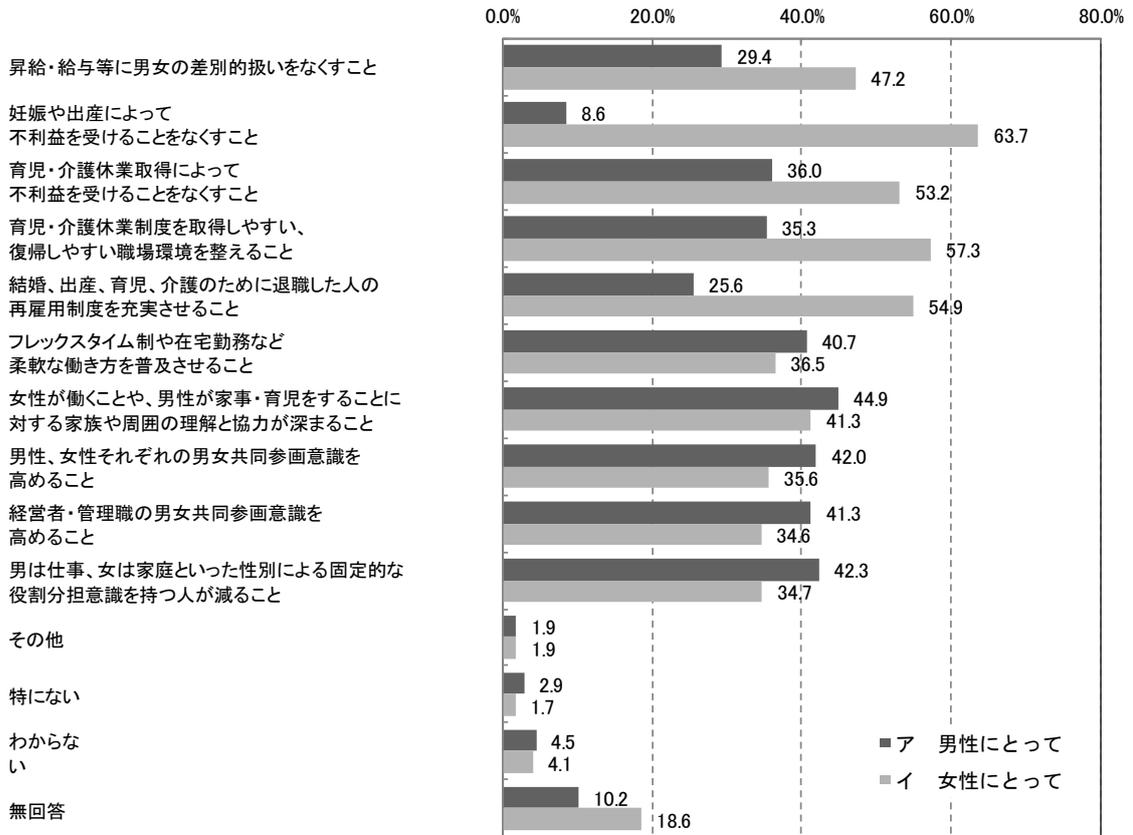


・男性にとっては、「女性が働くことや、男性が家事・育児をすることに対する家族や周囲の理解と協力が深まること」(43.8%)が最も多く、次いで「男は仕事、女は家庭といった性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減ること」(40.8%)、「男性、女性それぞれの男女共同参画意識を高めること」(37.1%)の順であった。

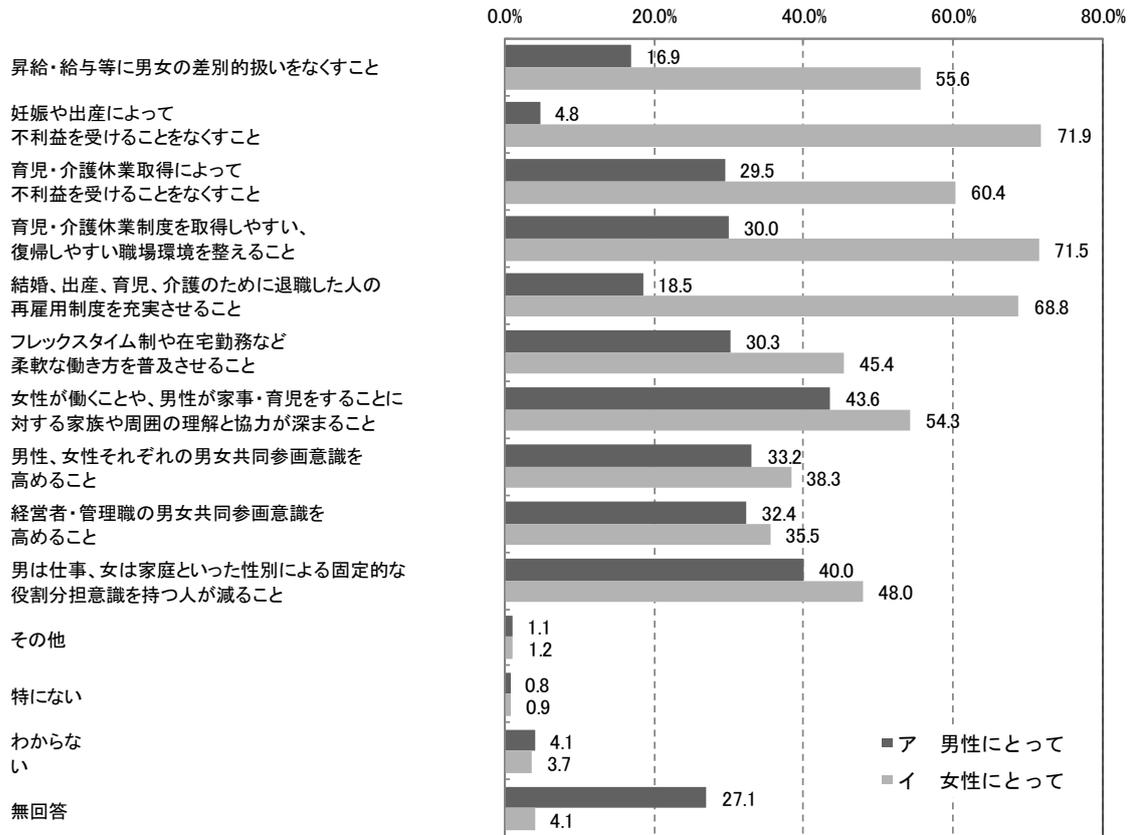
・女性にとっては、「妊娠や出産によって不利益を受けることをなくすこと」(67.5%)が最も多く、次いで「育児・介護休業制度を取得しやすい、復帰しやすい職場環境を整えること」(64.3%)、「結婚、出産、育児、介護のために退職した人の再雇用制度を充実させること」(61.7%)の順であった。

・働きやすい環境をつくるに当たり必要なことに関し、「女性にとって必要なこと」としては、「妊娠・出産・育児・介護等」に関する項目への意見が多かった。

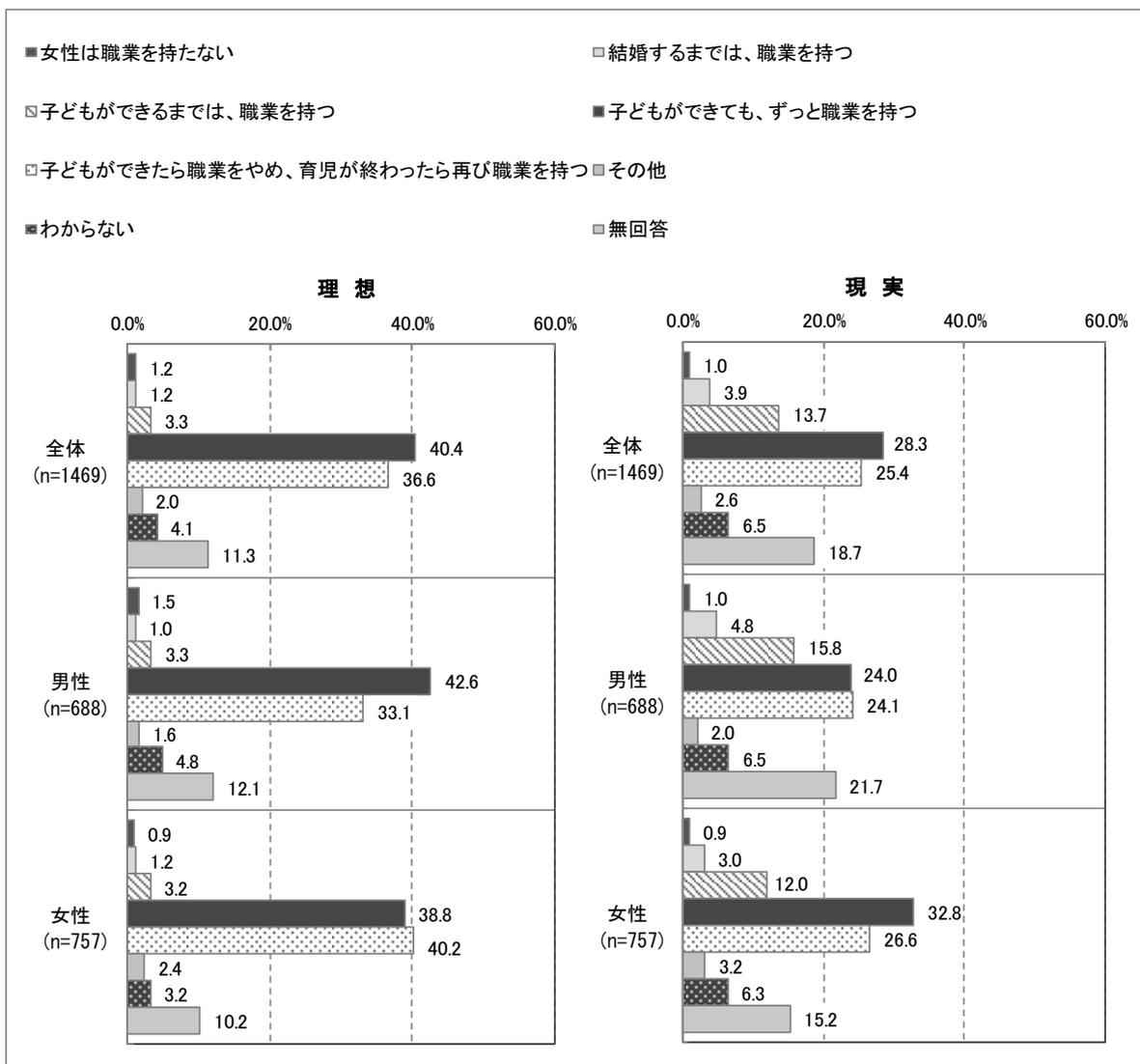
男性(n=688)



女性(n=757)

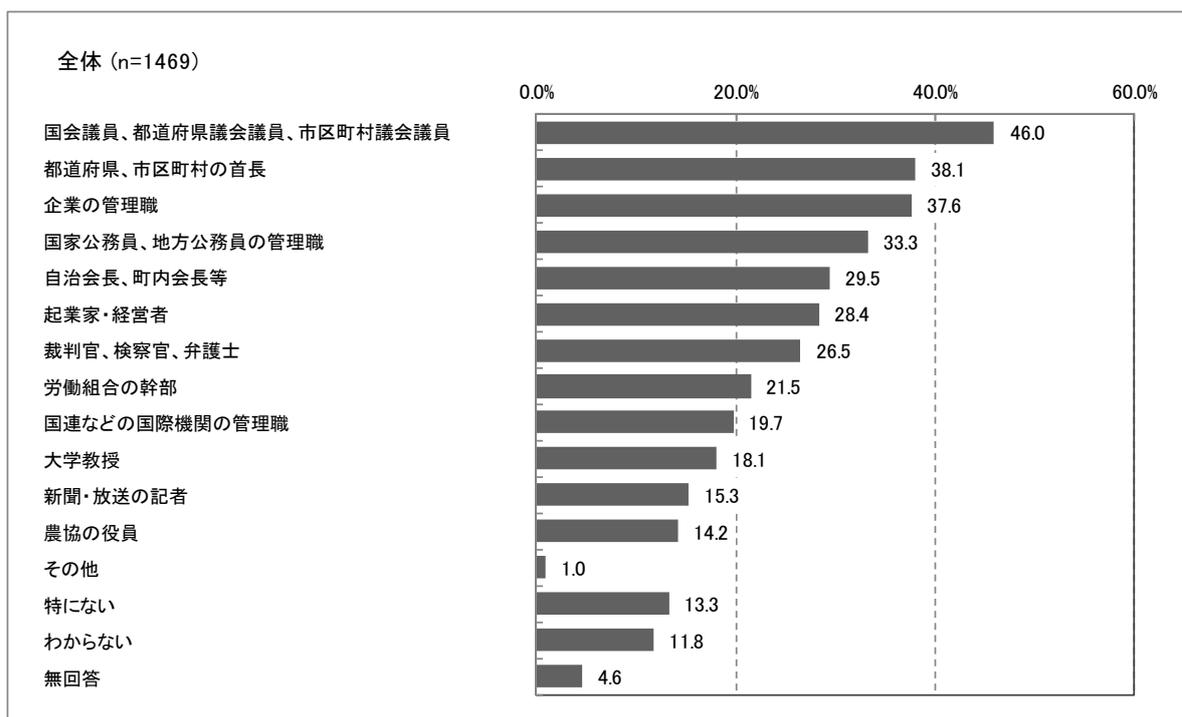


問14 女性が職業を持つことについて、1～7のうち「理想」としてあなたが望ましい姿だと考えるもの1つだけ選んで○をつけてください。また、あなたの経験や今後の予定、身近な女性で「現実」として最も近いもの1つだけ選んで○をつけてください。

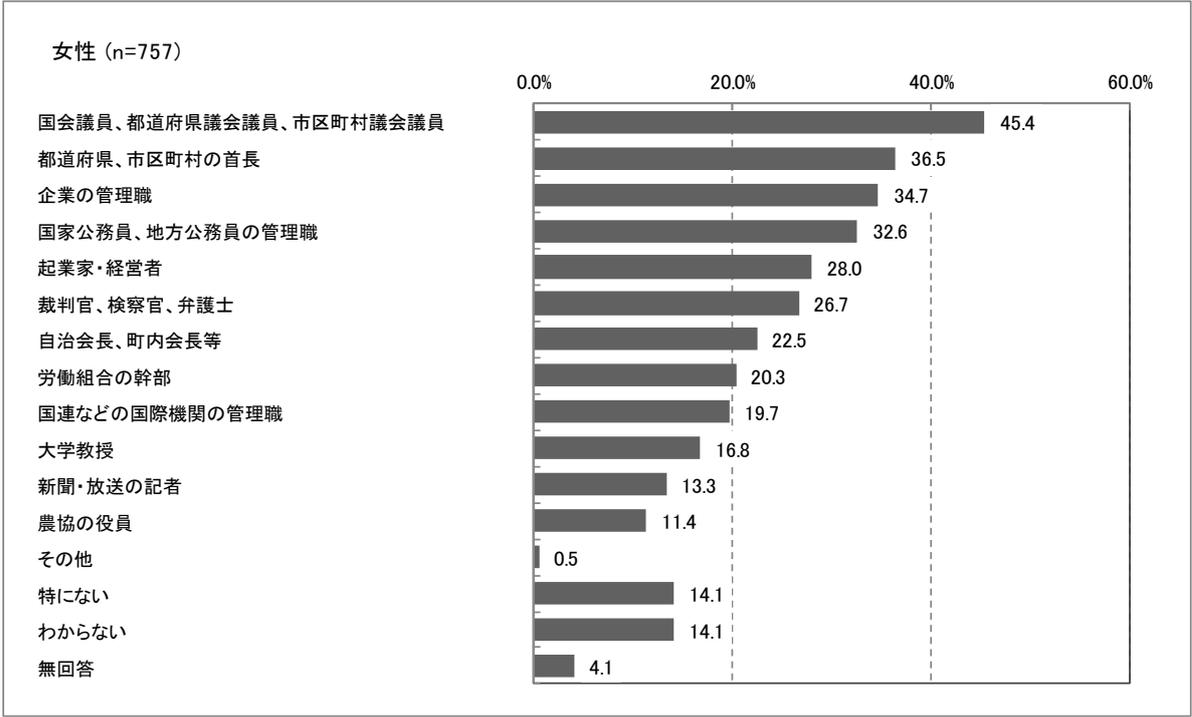
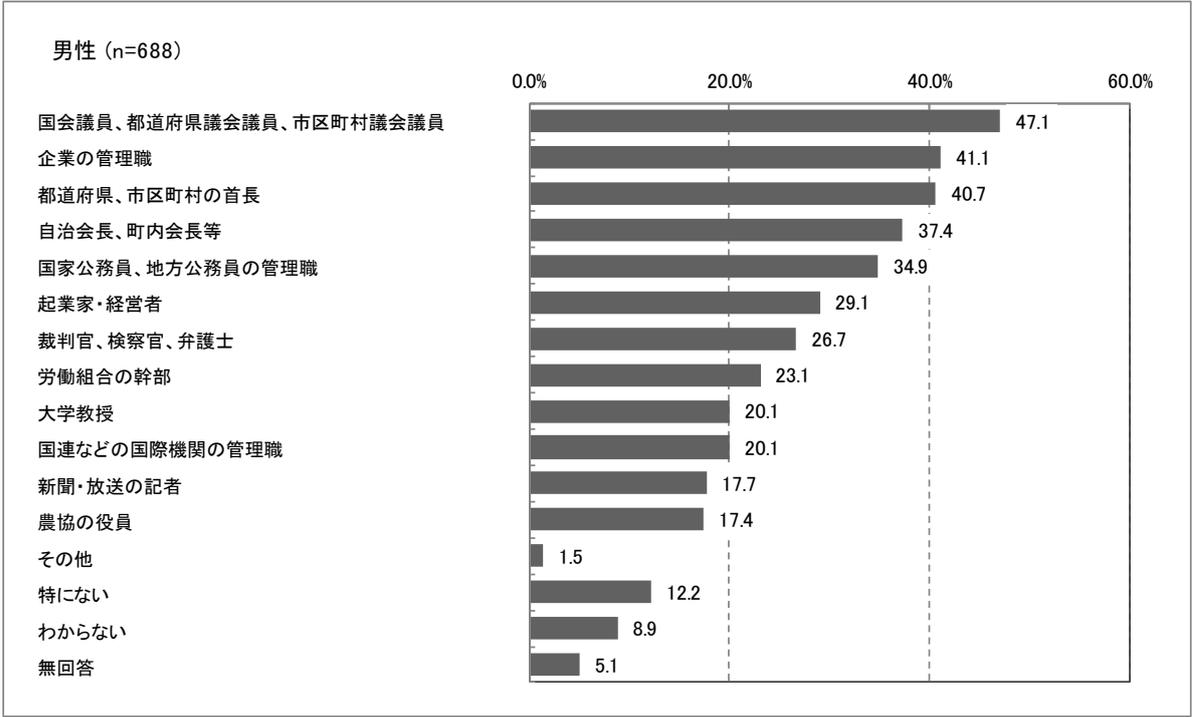


・「理想」では、「子どもができて、ずっと職業を持つ」(40.4%)が最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、育児が終わったら再び職業を持つ」(36.6%)の順であった。
 ・「現実」では、「理想」と同じ順であったが、「子どもができて、ずっと職業を持つ」「子どもができたら職業をやめ、育児が終わったら再び職業を持つ」の2項目とも「理想」の数値からは減少し、その分「理想」で4番目の「子どもができるまでは、職業を持つ」の割合が多くなる傾向がみられた。

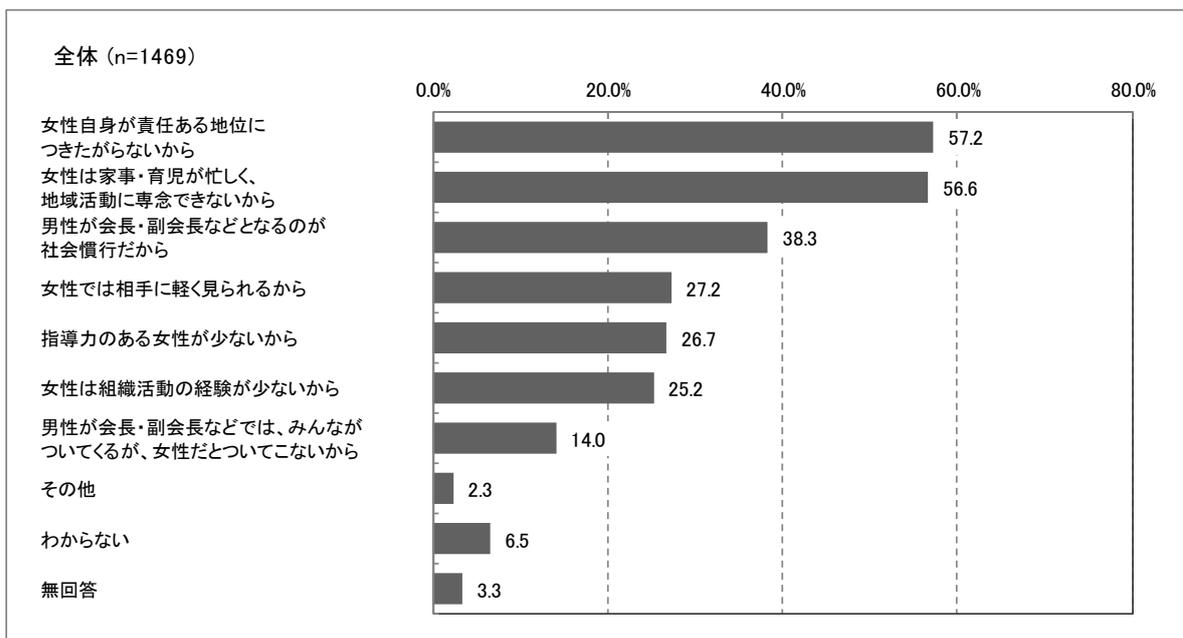
問15 あなたが、次にあげるような職業や役職において今後女性が増えるほうがよいと思うのはどれですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



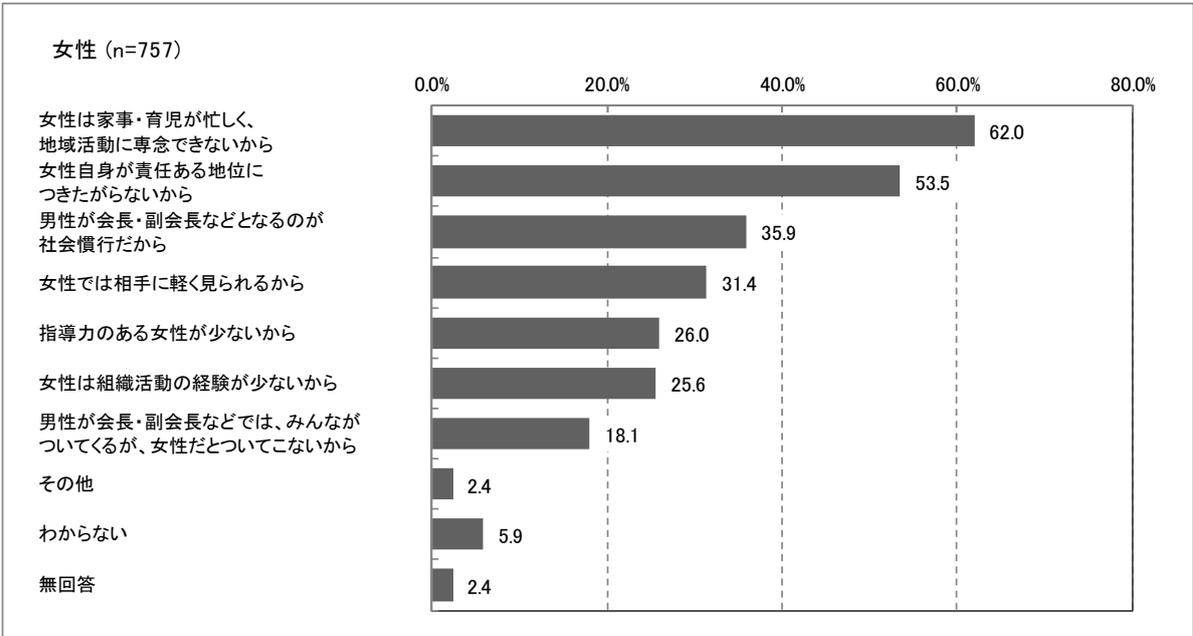
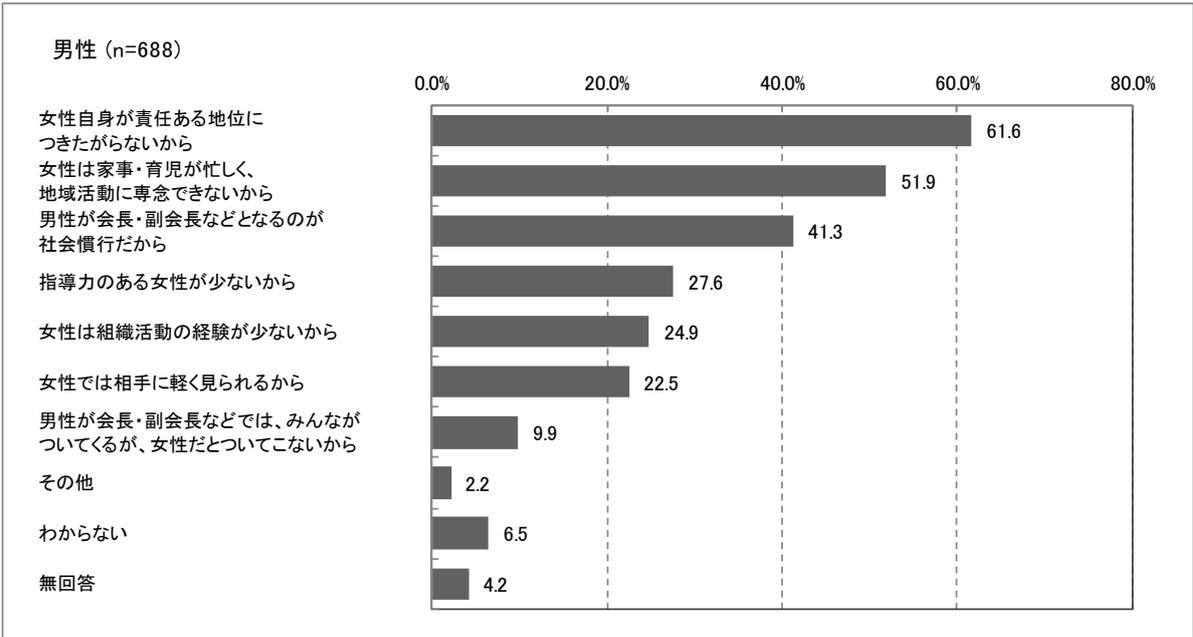
・「国会議員、都道府県議会議員、市区町村議会議員」(46.0%)が最も多く、次いで「都道府県、市区町村の首長」(38.1%)、「企業の管理職」(37.6%)の順となり、政治家が上位を占めた。
 ・性別による違いでは、男性女性とも「国会議員、都道府県議会議員、市区町村議会議員」が最も多かったが、2番目は女性が全体と同じ「都道府県、市区町村の首長」であったのに対し、男性は「企業の管理職」であった。



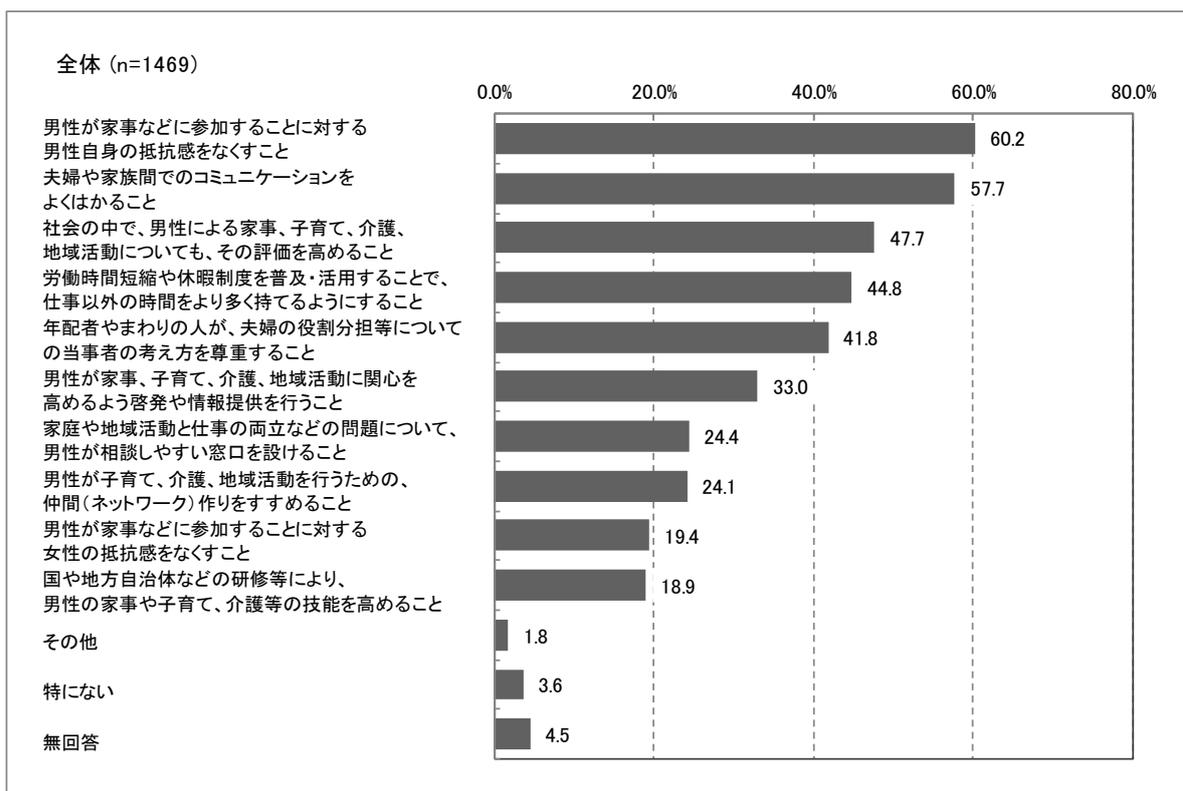
問16 PTAや町内会などの地域団体の役員の長に女性が就くことの妨げとなっている主な原因は何だと思いますか。主なものを3つを選んで○をつけてください。



・全体では、「女性自身が責任ある地位につきたがらないから」(57.2%)が最も多く、次いで「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」(56.6%)、「男性が会長・副会長などとなるのが社会慣行だから」(38.3%)の順であった。
 ・性別による違いでは、男性は全体同様に「女性自身が責任ある地位につきたがらないから」が最も多かったのに対し、女性は2番目であった。なお、女性で最も多かった項目は、全体の2番目である「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」であった。



問17 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

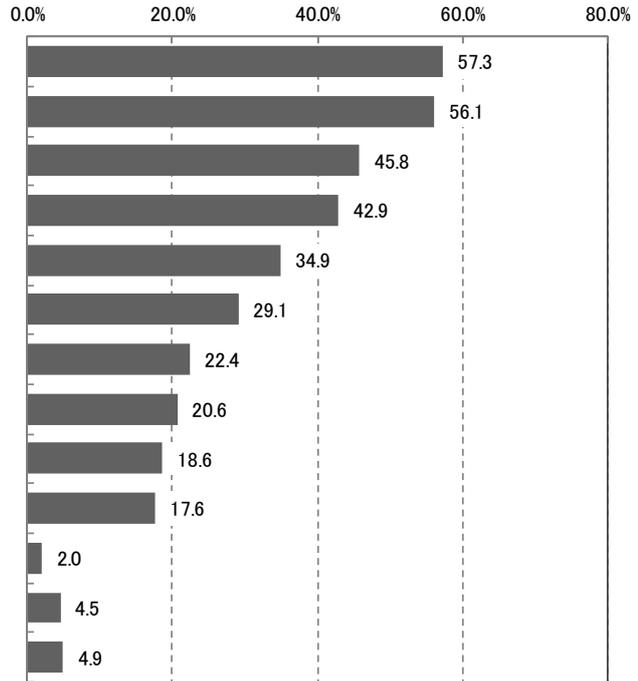


・「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(60.2%)が最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(57.7%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(47.7%)の順であった。

・性別による違いでは、女性は全体同様に「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(64.5%)が最も多かったのに対し、男性は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(57.3%)が最も多かく違いがみられた。

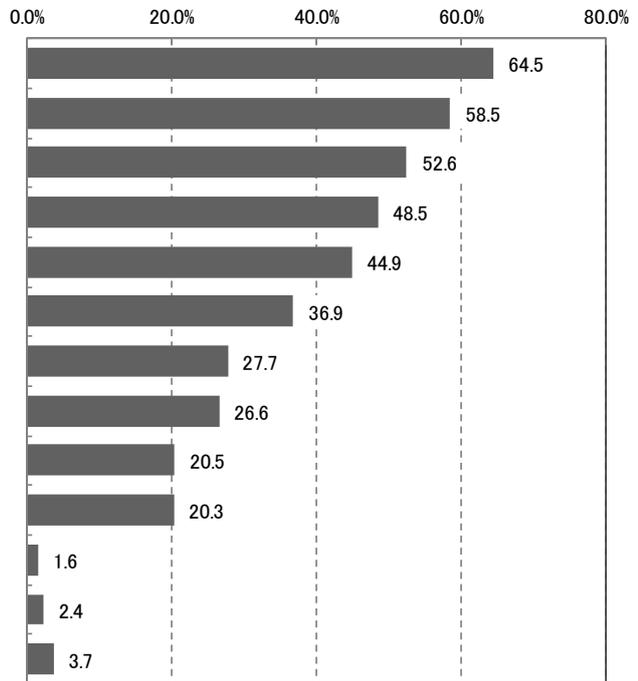
男性 (n=688)

- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 男性が子育て、介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
- 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- その他
- 特になし
- 無回答

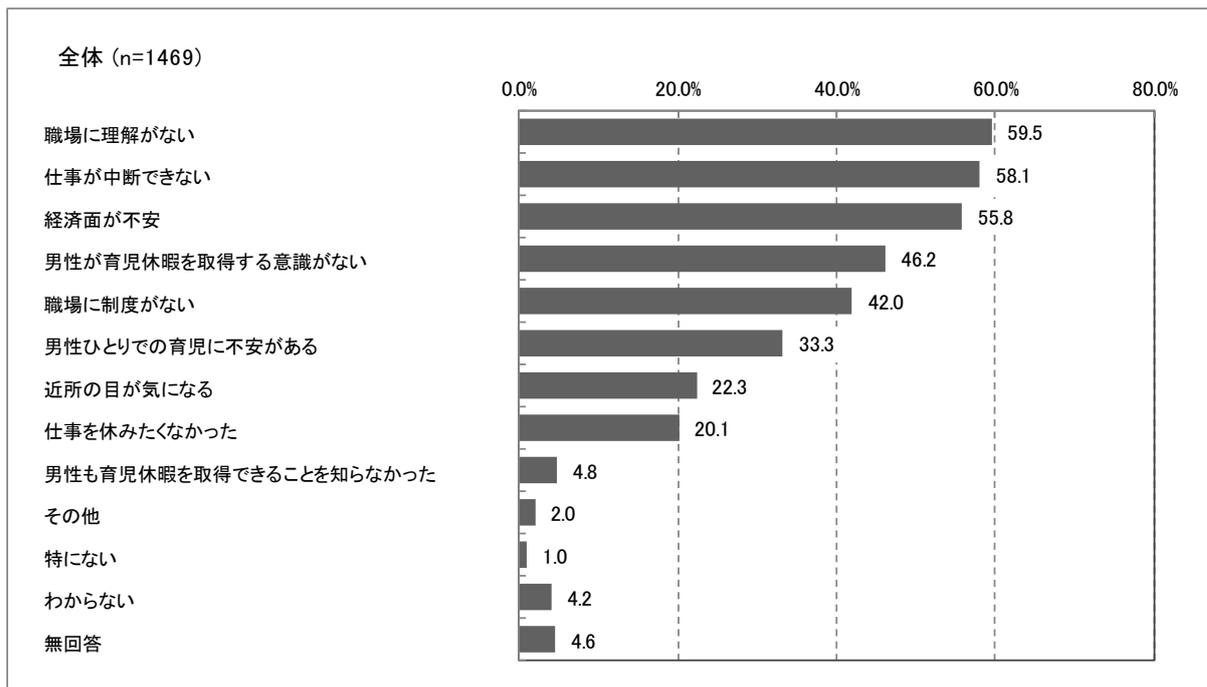


女性 (n=757)

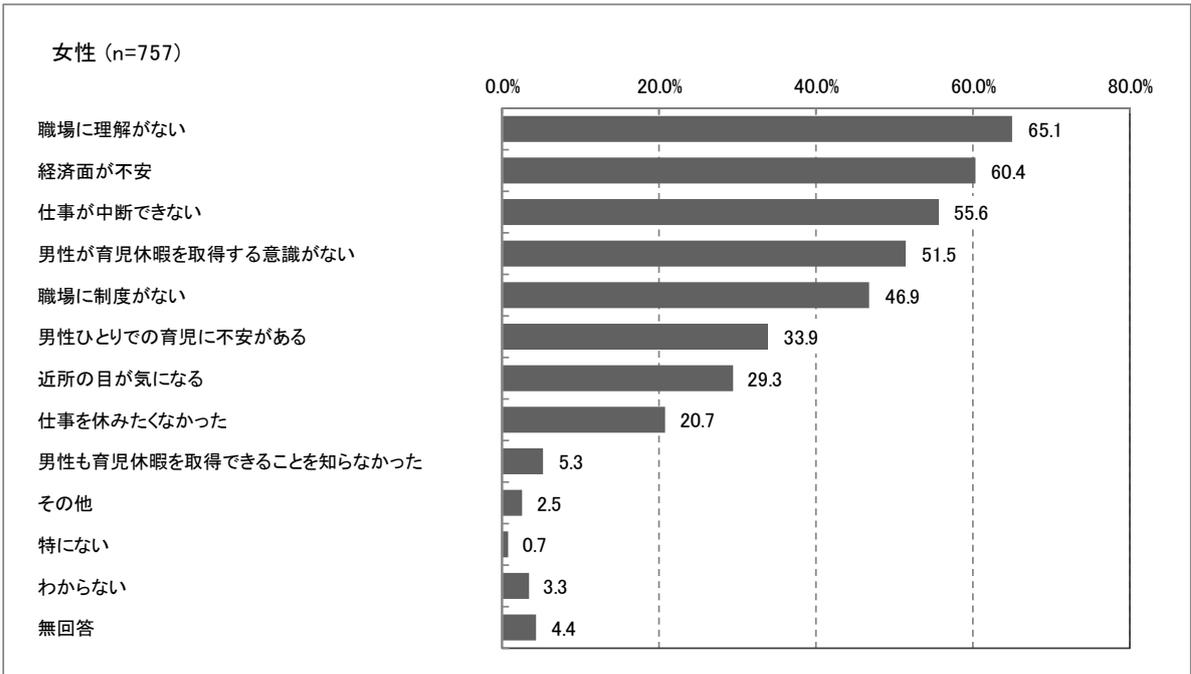
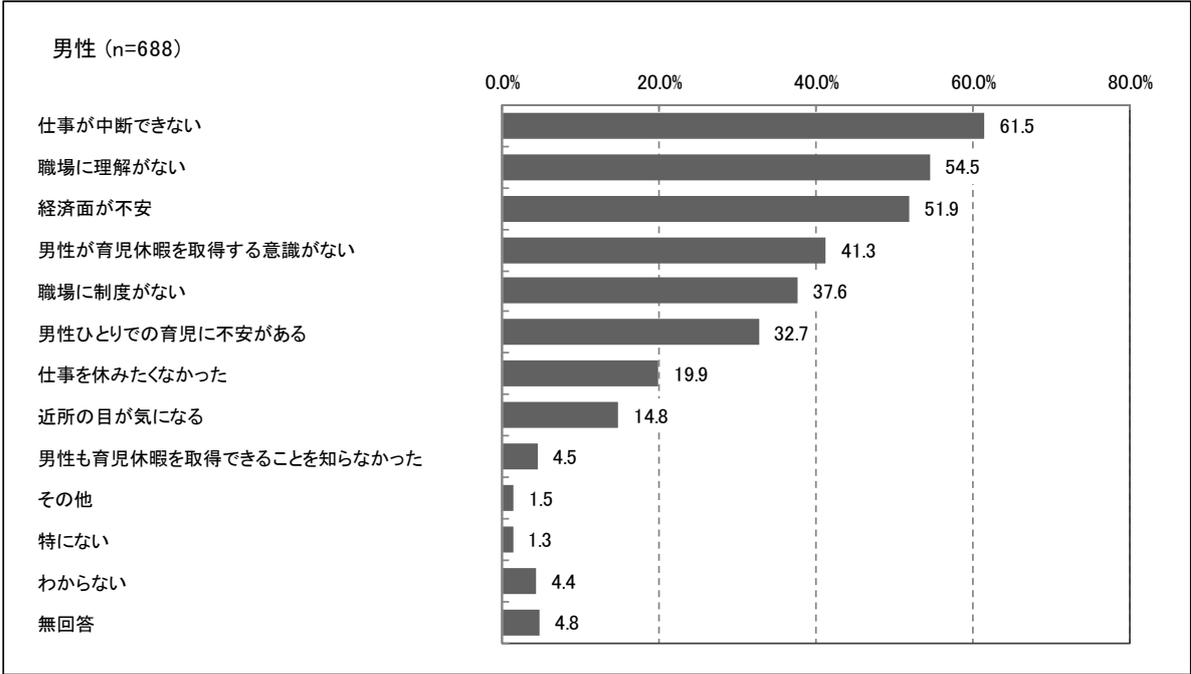
- 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 男性が子育て、介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
- 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- その他
- 特になし
- 無回答



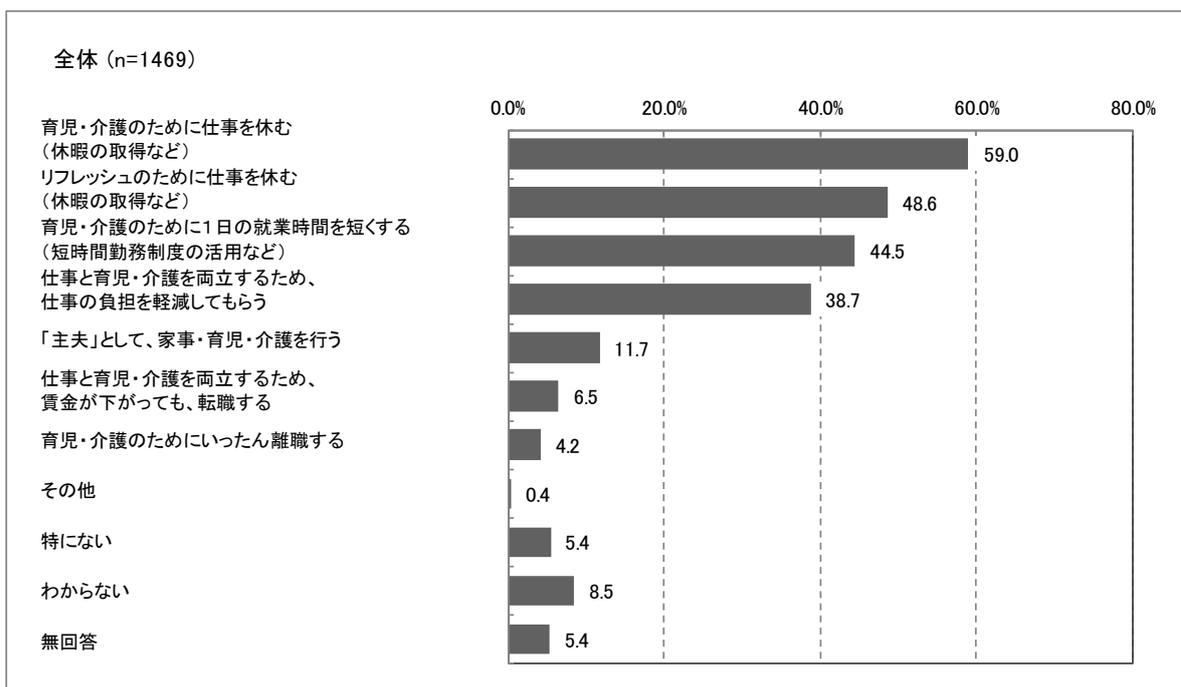
問18 男性が育児休業(休暇)を取得しづらい(しない)理由として考えられるもの全てに○をつけてください。



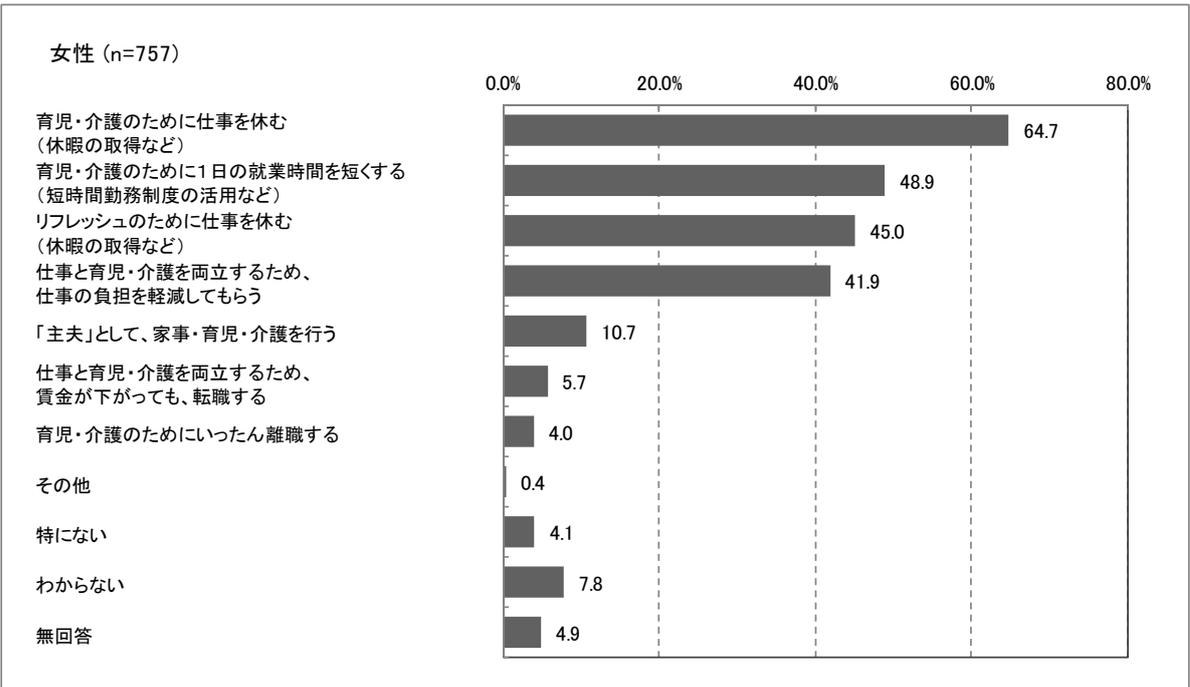
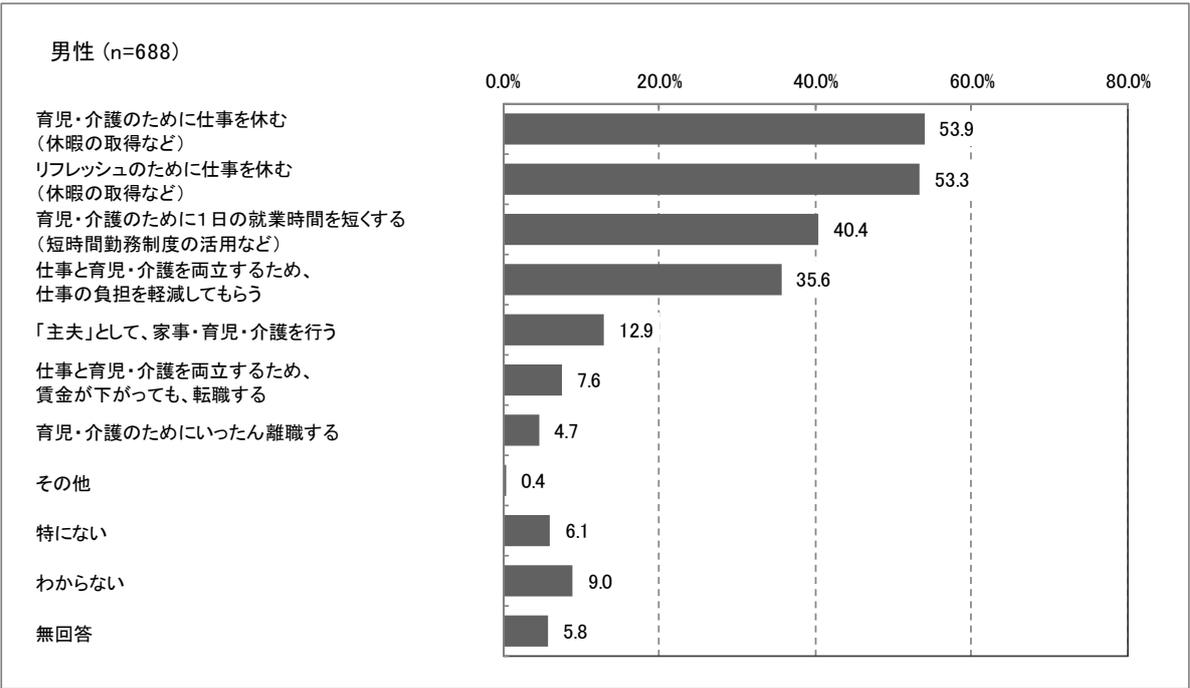
・「職場に理解がない」(59.5%)が最も多く、次いで「仕事が中断できない」(58.1%)、「経済面が不安」(55.8%)の順であった。
 ・順位に若干の違いはあるものの、性別による大きな違いはみられない。



問19 「男性」が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか？当てはまるもの全てに○をつけてください。

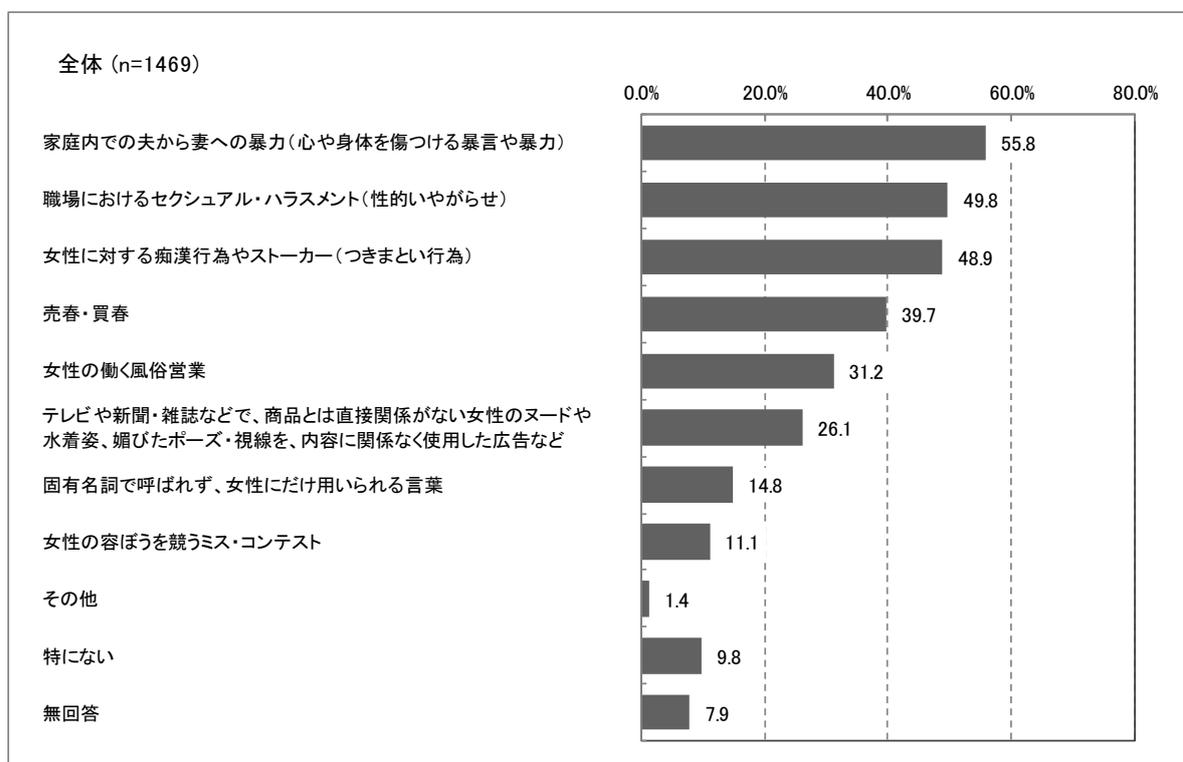


・「育児・介護のために仕事を休む(休暇の取得など)」(59.0%)が最も多く、次いで「リフレッシュのために仕事を休む(休暇の取得など)」(48.6%)、「育児・介護のために1日の就業時間を短くする(短時間勤務制度の活用など)」(44.5%)の順であった。
 ・性別による大きな違いはないものの、全体で最も多かった「育児・介護のために仕事を休む(休暇の取得など)」については、男性よりも女性の方が約10%高かった。(女性64.7%、男性53.9%)

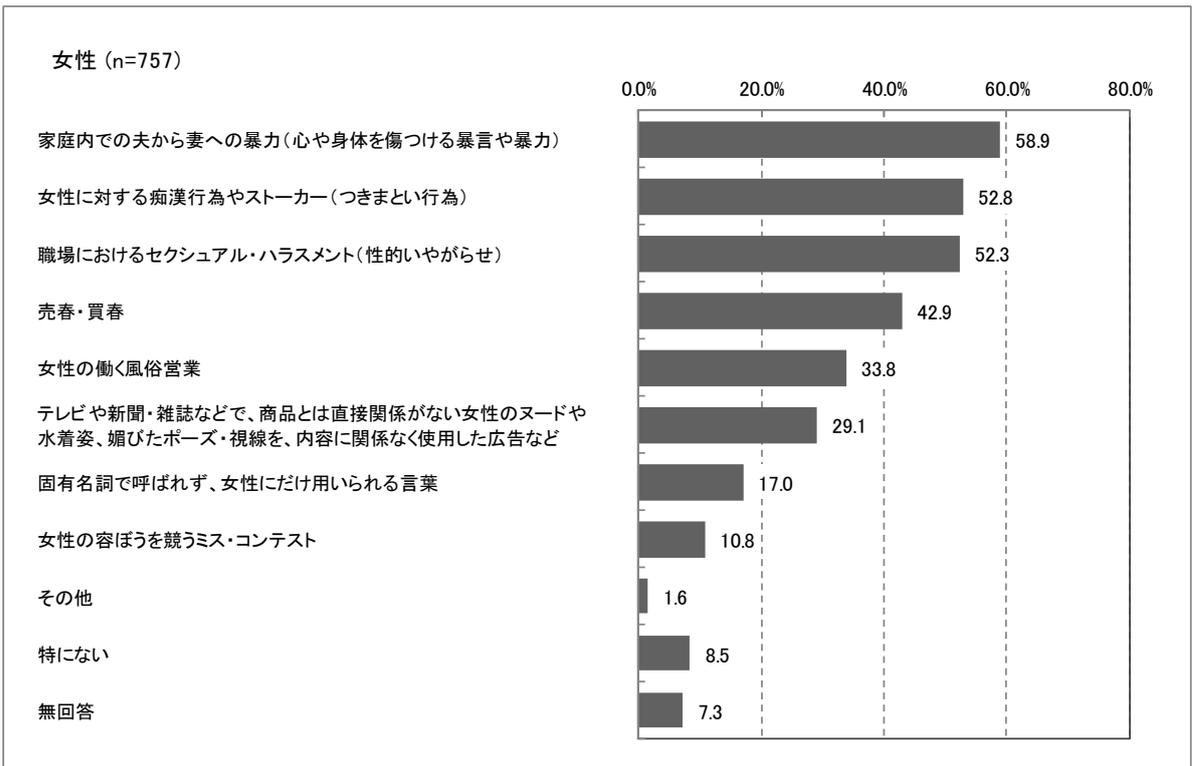
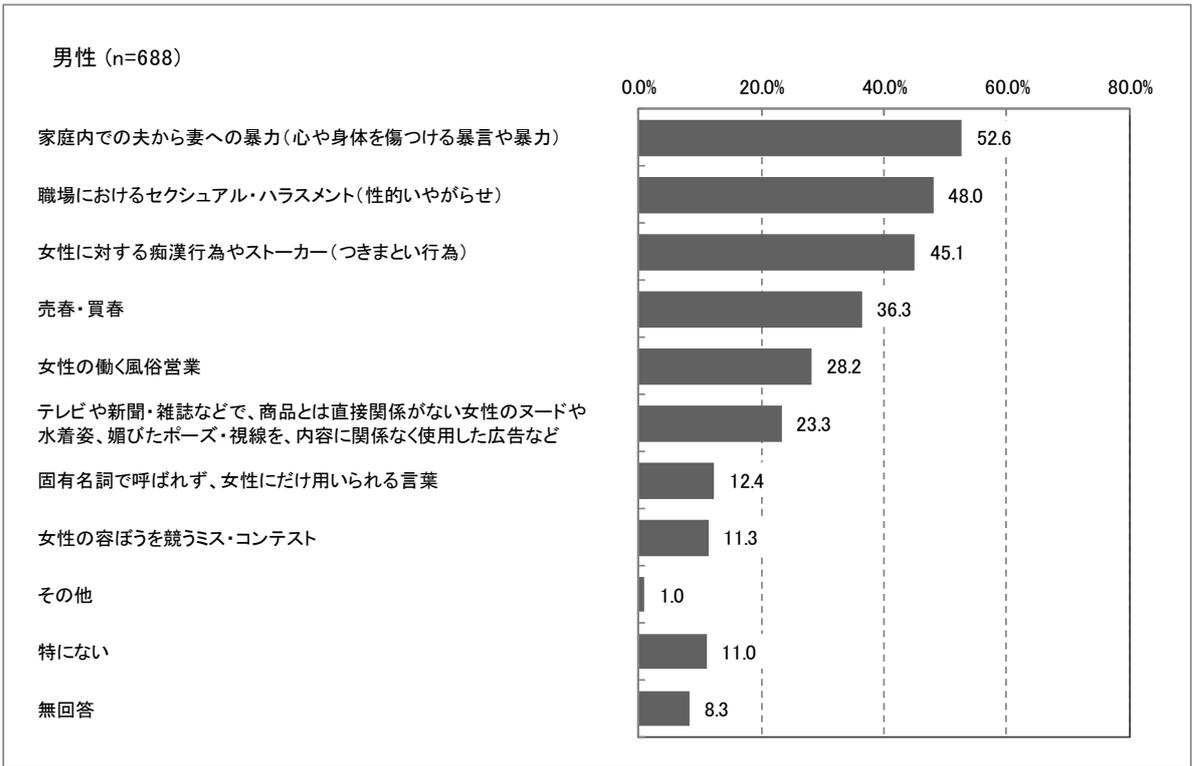


4 男女の人権、DVについて

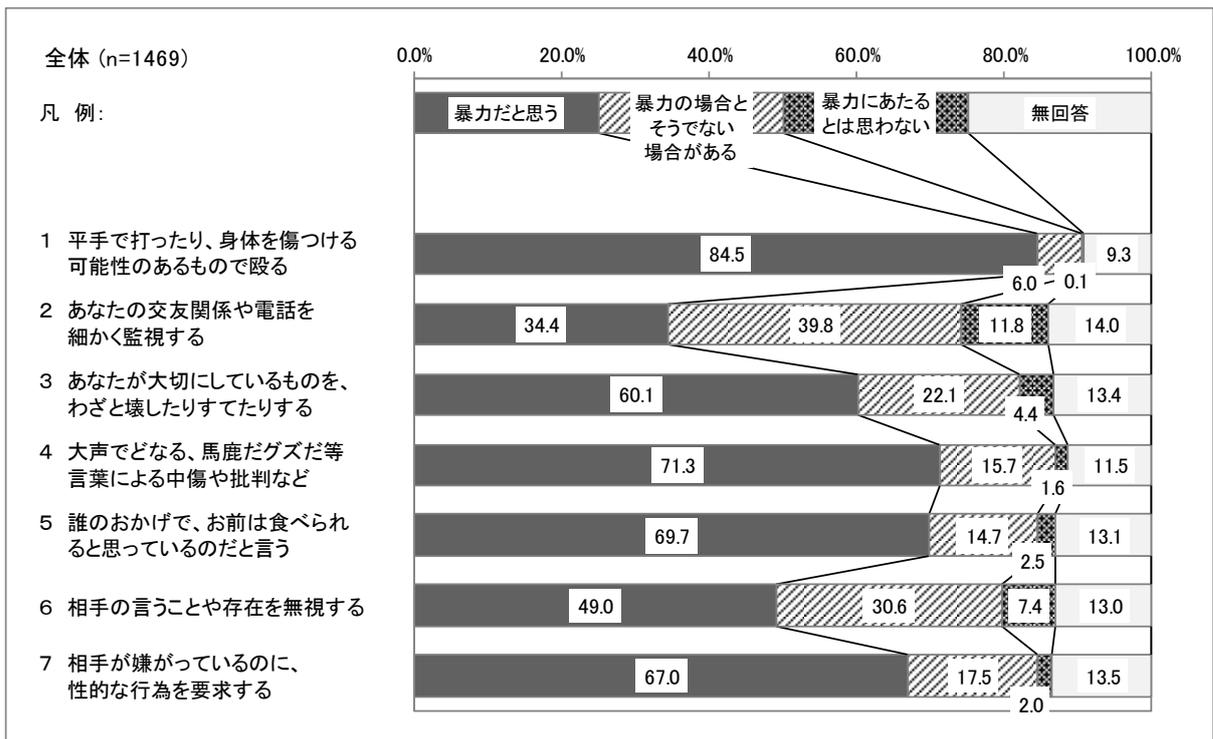
問20 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてでしょうか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



・「家庭内での夫から妻への暴力(心や身体を傷つける暴言や暴力)」(55.8%)が最も多く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(49.8%)、「女性に対する痴漢行為やストーカー(つきまとい行為)」(48.9%)の順であった。
 ・性別による大きな違いはなく、男性女性とも、女性の人権が尊重されていないと感じるものとして「家庭内での夫から妻への暴力(心や身体を傷つける暴言や暴力)」を挙げる割合が最も多かった。

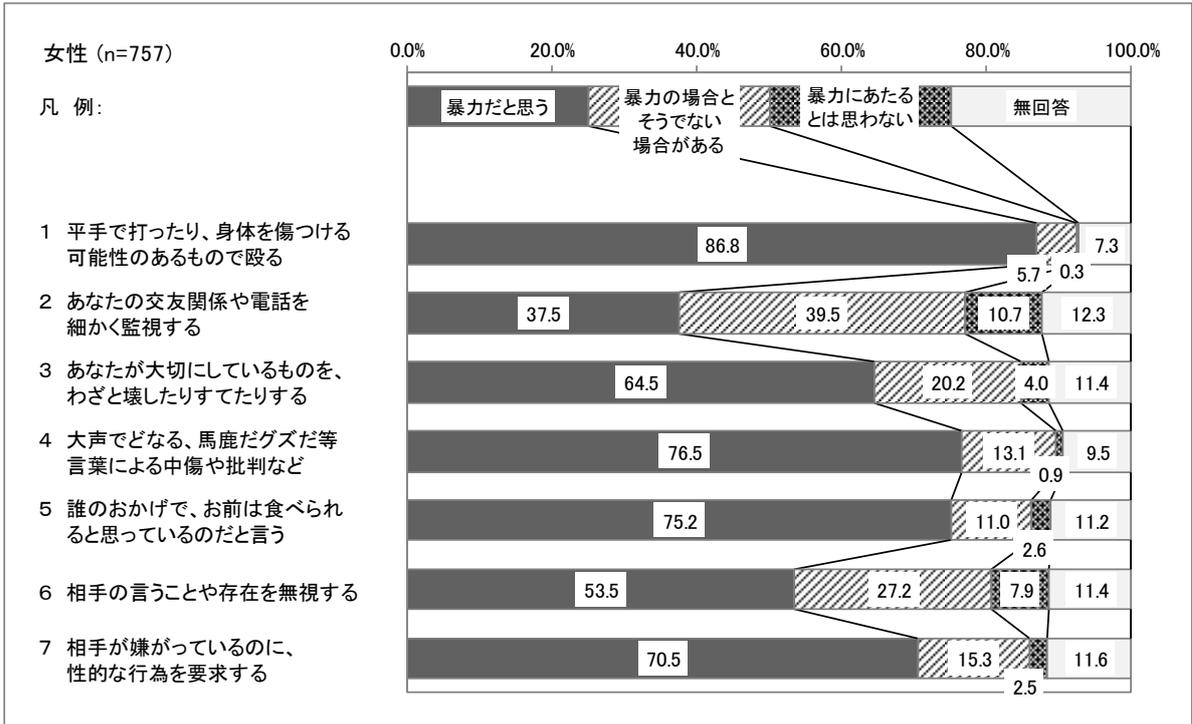
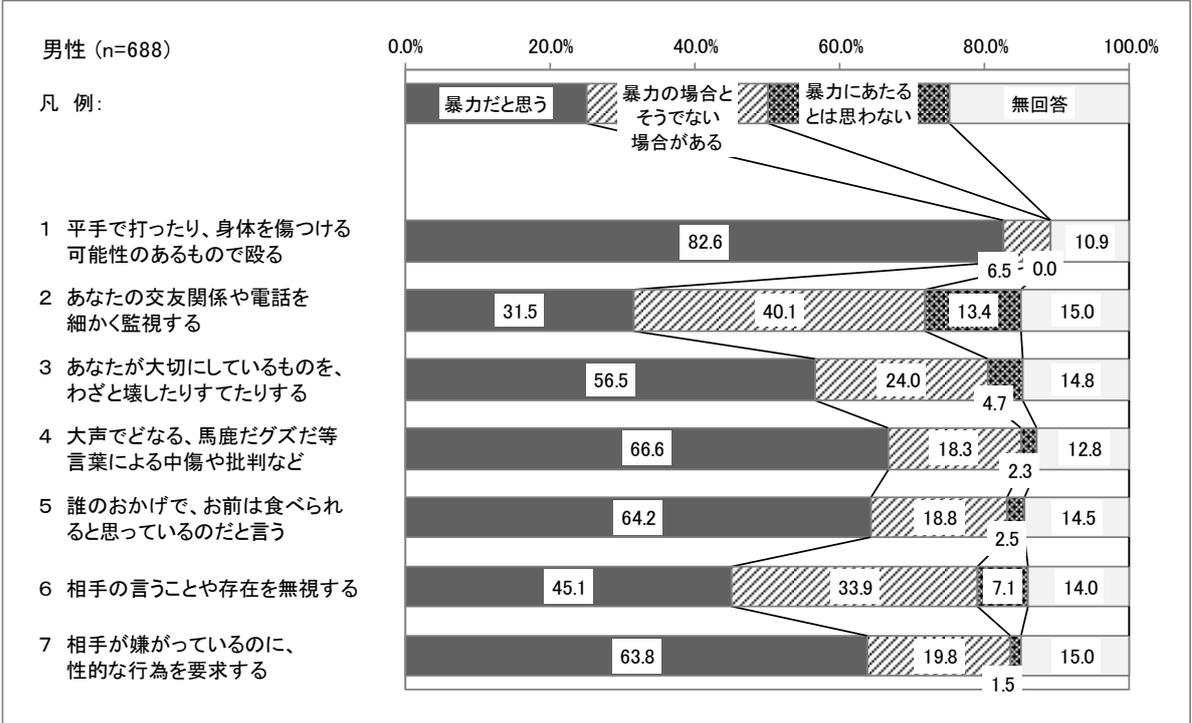


問21 あなたは、次のようなことが夫婦間又は交際相手間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。

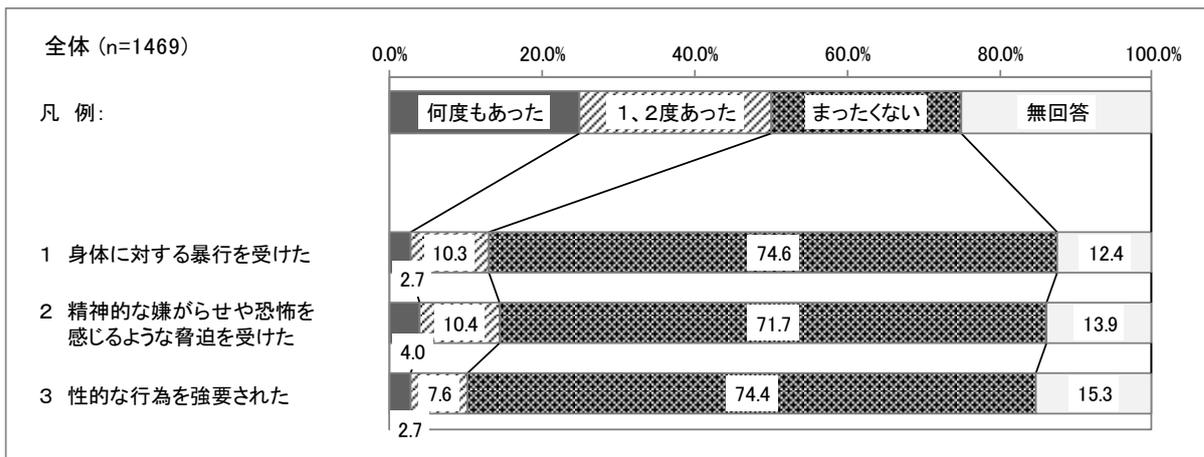


・7項目のうち、「2 あなたの交友関係や電話を細かく監視する」(34.4%)と「6 相手の言うことや存在を無視する」(49.0%)の2項目を除く5項目において、60%以上が「暴力だと思う」との回答であった。

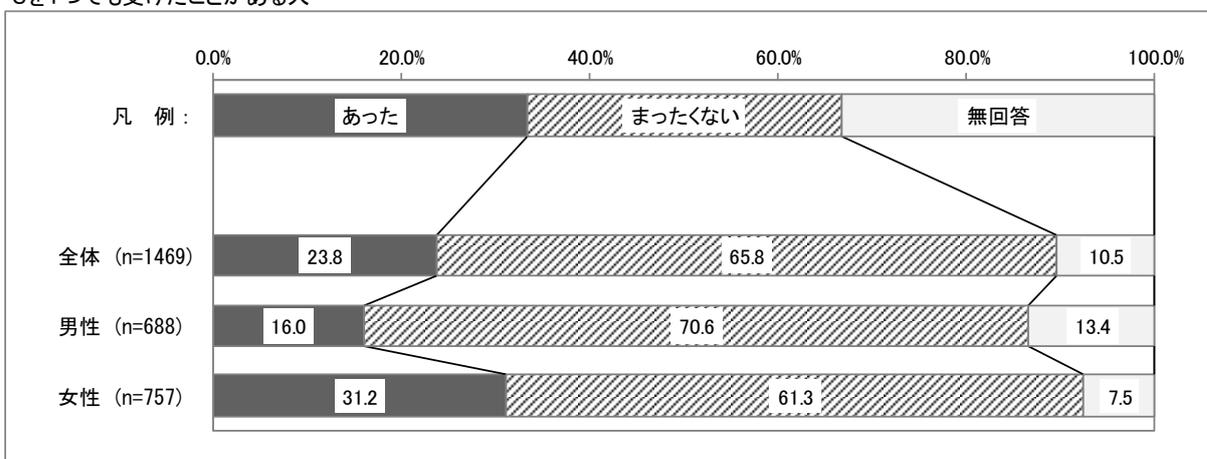
・性別による大きな差はないが、「暴力だと思う」との割合の平均は女性の方が高かった。(女性66.4%、男性58.6%)



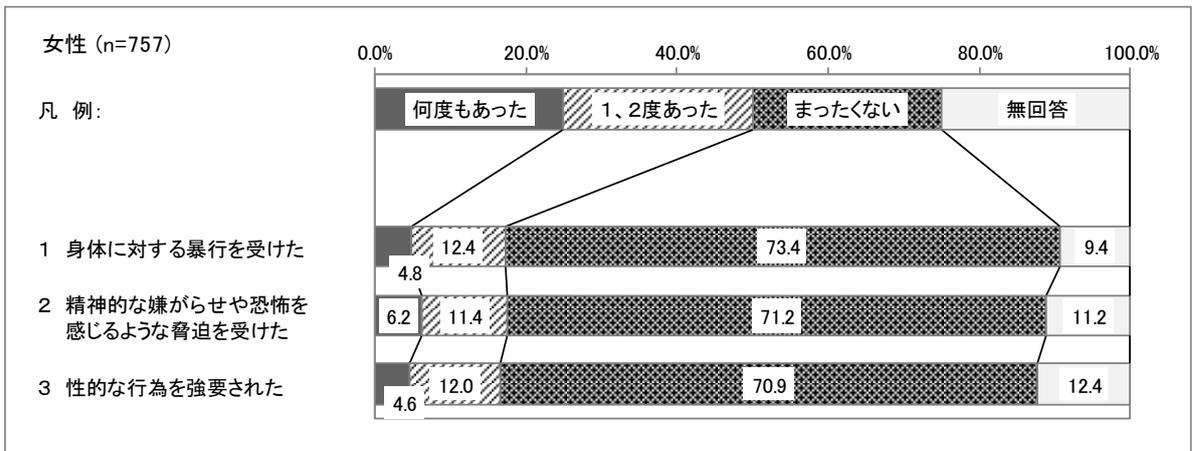
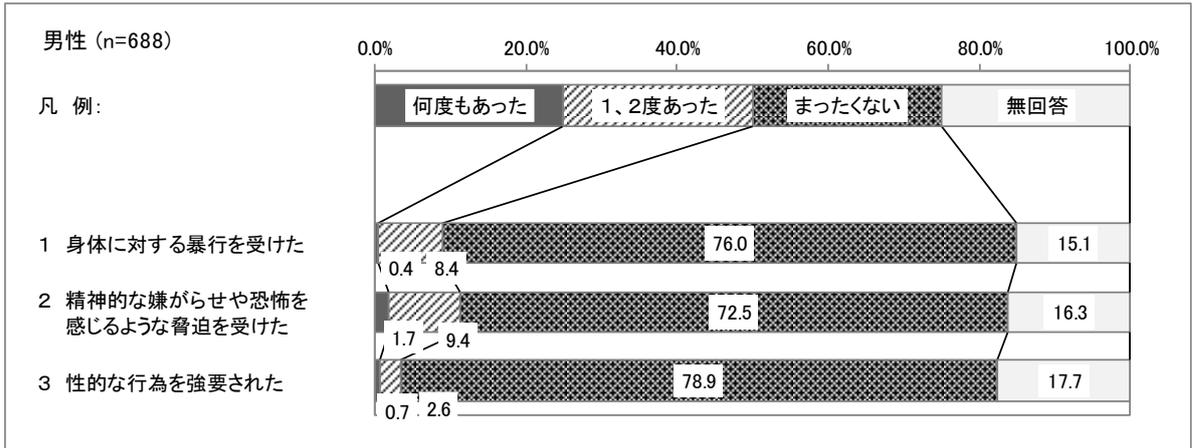
問22 あなたは、元配偶者を含む夫婦間又は交際相手間で次のような暴力を受けたことがありますか。



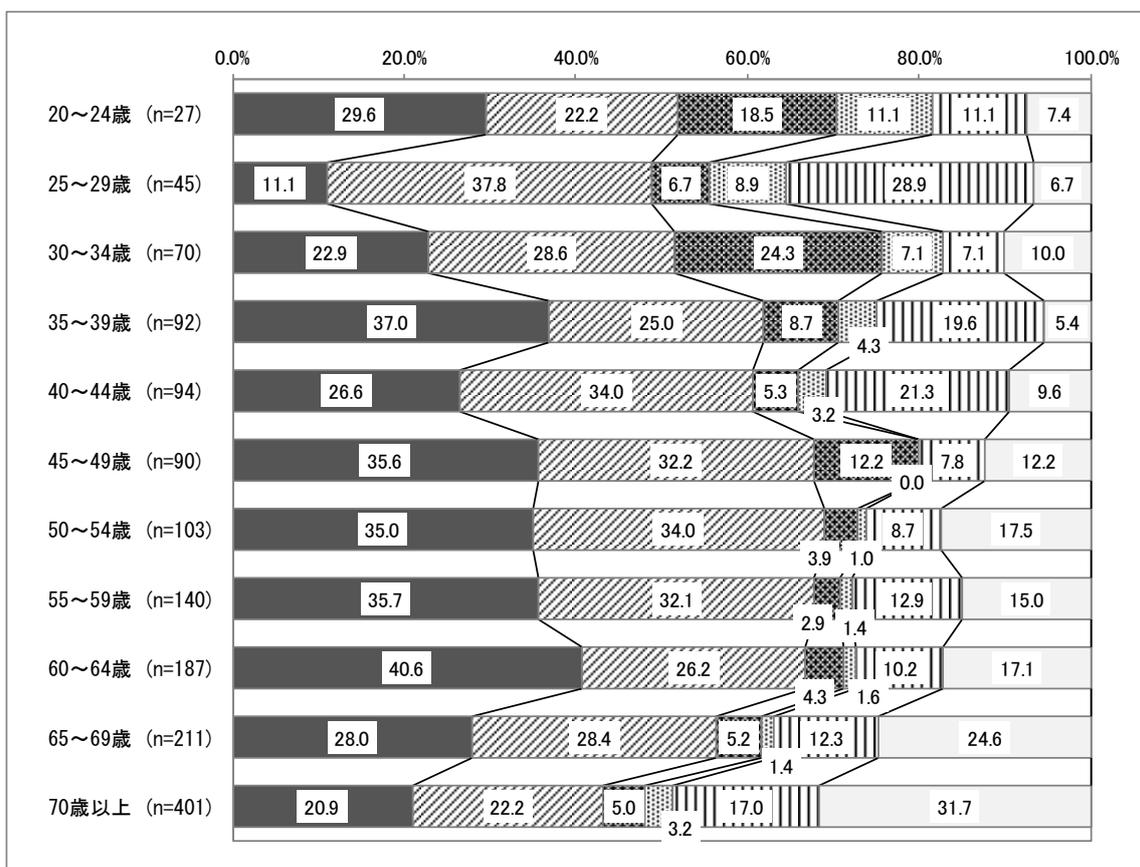
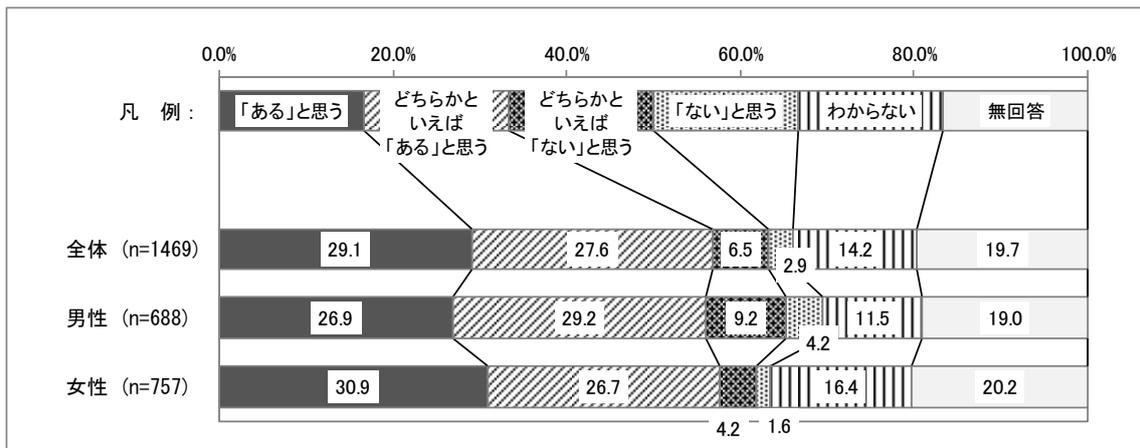
1～3を1つでも受けたことがある人



・3項目とも、「まったくくない」が70%以上を占めたものの、「1、2度あった」と「何度もあった」の合計では、10%以上が「1～3の暴力を受けたことがある」との結果であった。
 ・「1～3の暴力を受けたことがある」を性別で比較した場合、男性が16.0%で、女性が31.2%と男性の約2倍であり、数は女性より少ないものの男性に対する暴力もみられた。

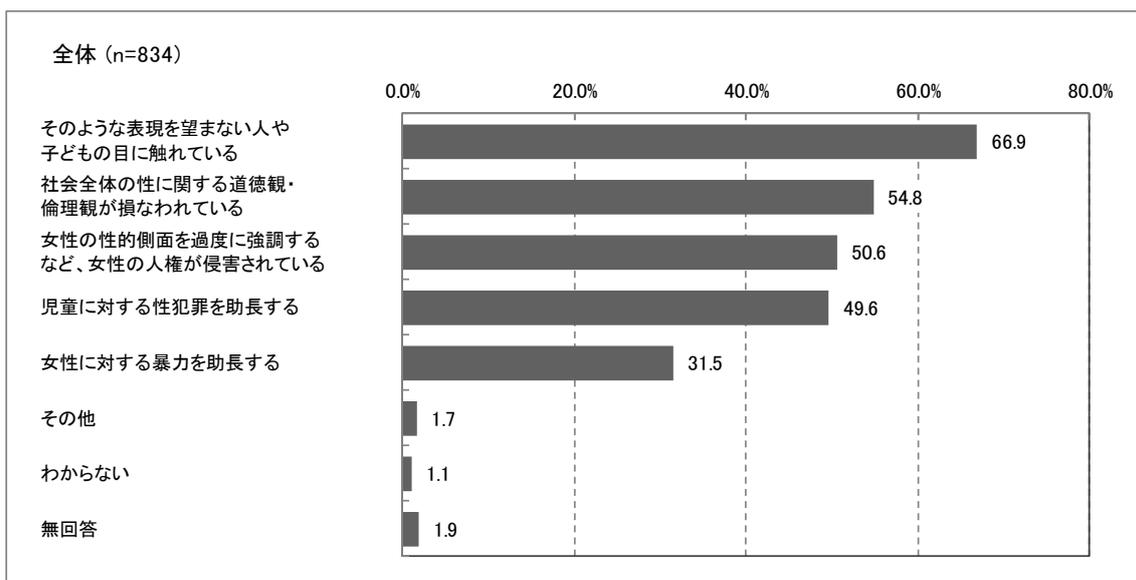


問23 あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、問題があると思いますか。

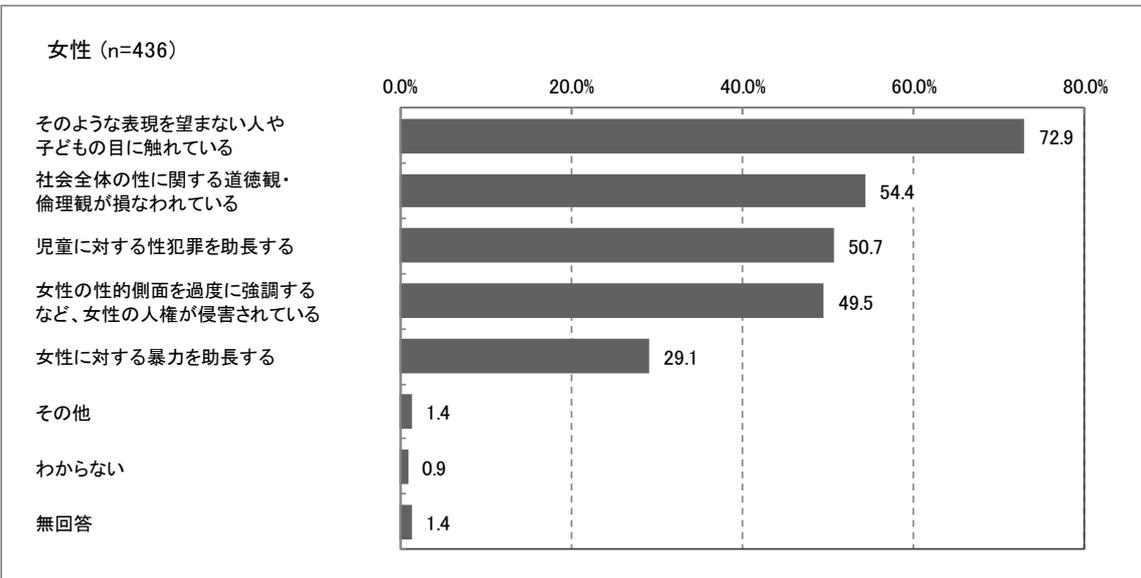
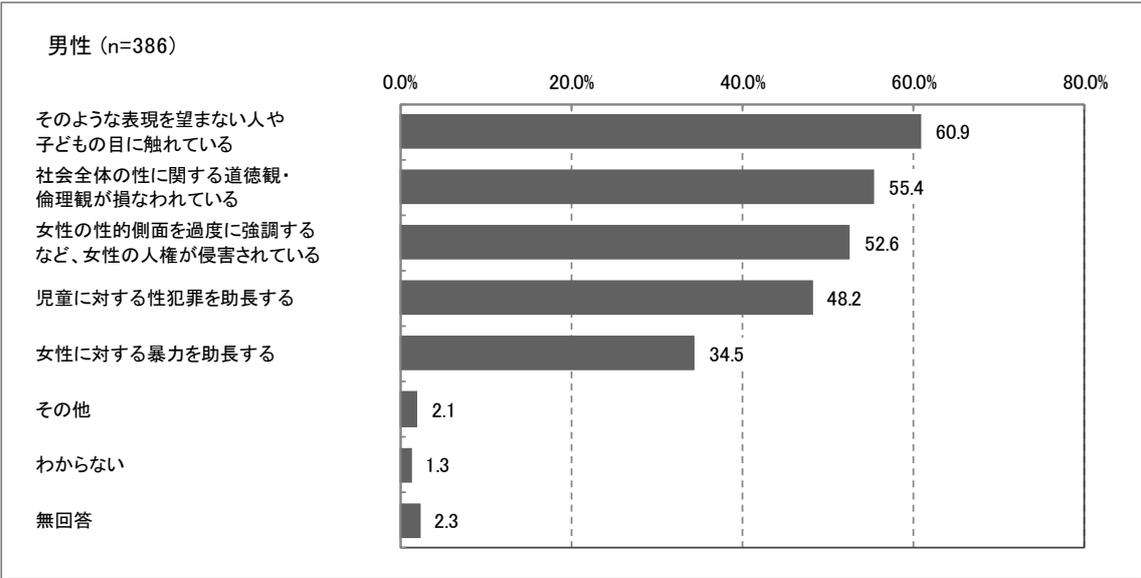


・メディアにおける性・暴力表現について問題があると思う割合が、男性女性とも『「ある」と思う』と『どちらかといえば「ある」と思う』の合計で半数を超えた。
 ・年代別の違いでは、20～24歳及び30～34歳において『「ない」と思う』と『どちらかといえば「ない」と思う』の合計で30%前後となり、他の年代より高い傾向にあった。

問23（問23で1又は2とお答えされた方のみお答えください。）テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。

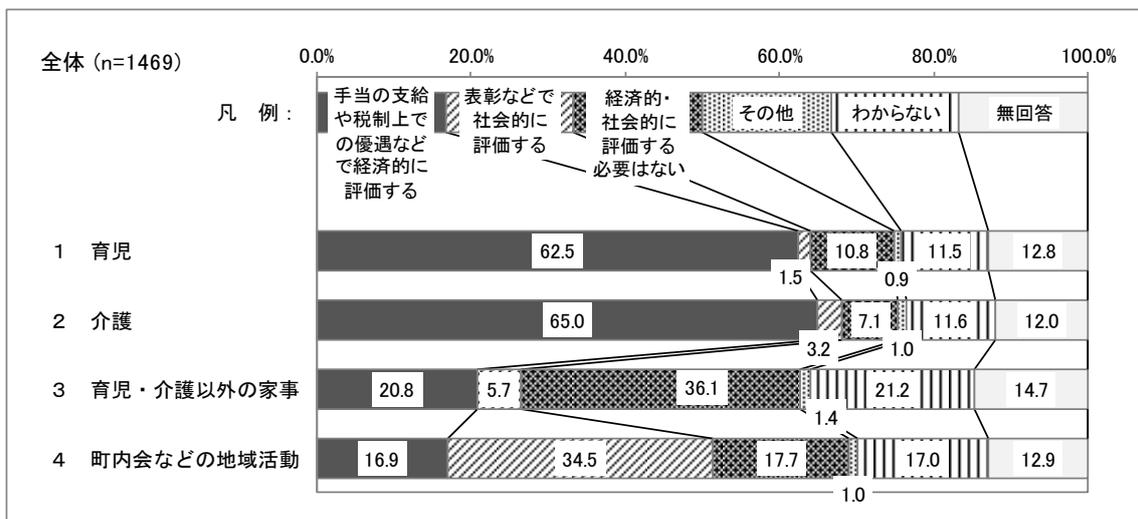


・5項目のうち、「女性に対する暴力を助長する」を除き、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」ほか4項目では、半数以上若しくはほぼ半数の人が問題点として挙げている。
 ・性別による違いでは、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」と回答した割合は、女性の方が男性よりも12.0%高く(女性72.9%、男性60.9%)なっている。

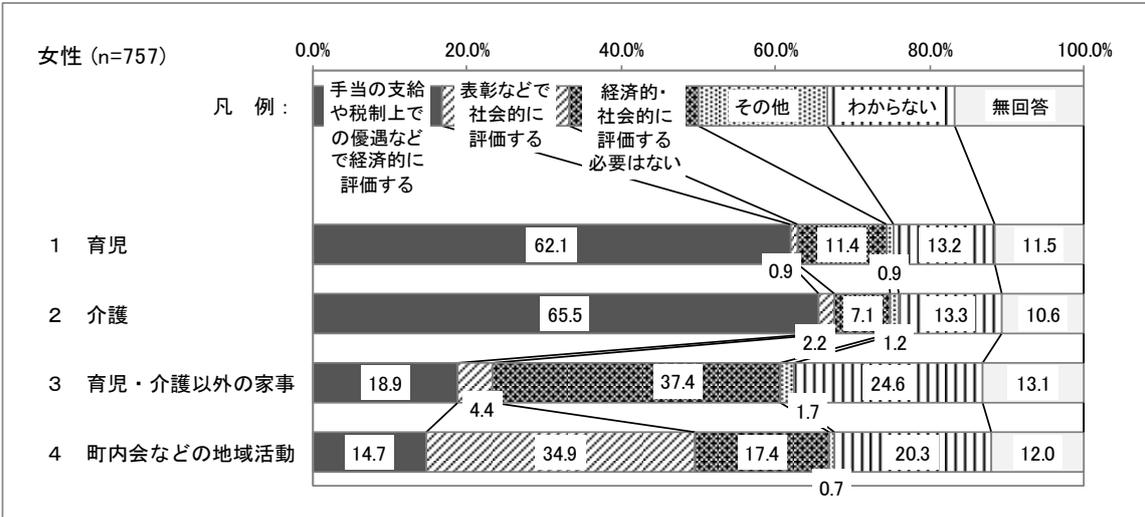
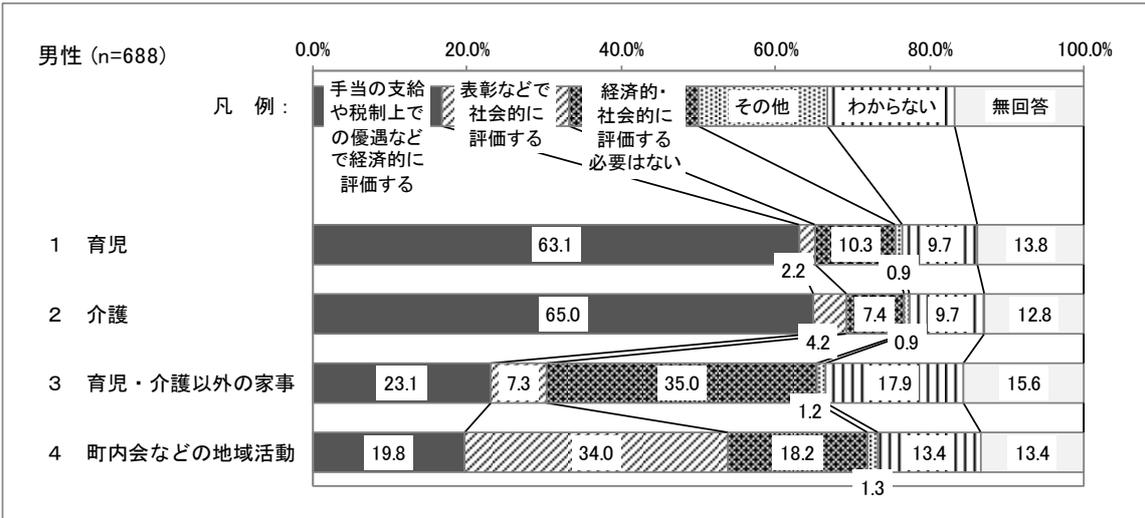


5 男女共同参画社会に関すること全般

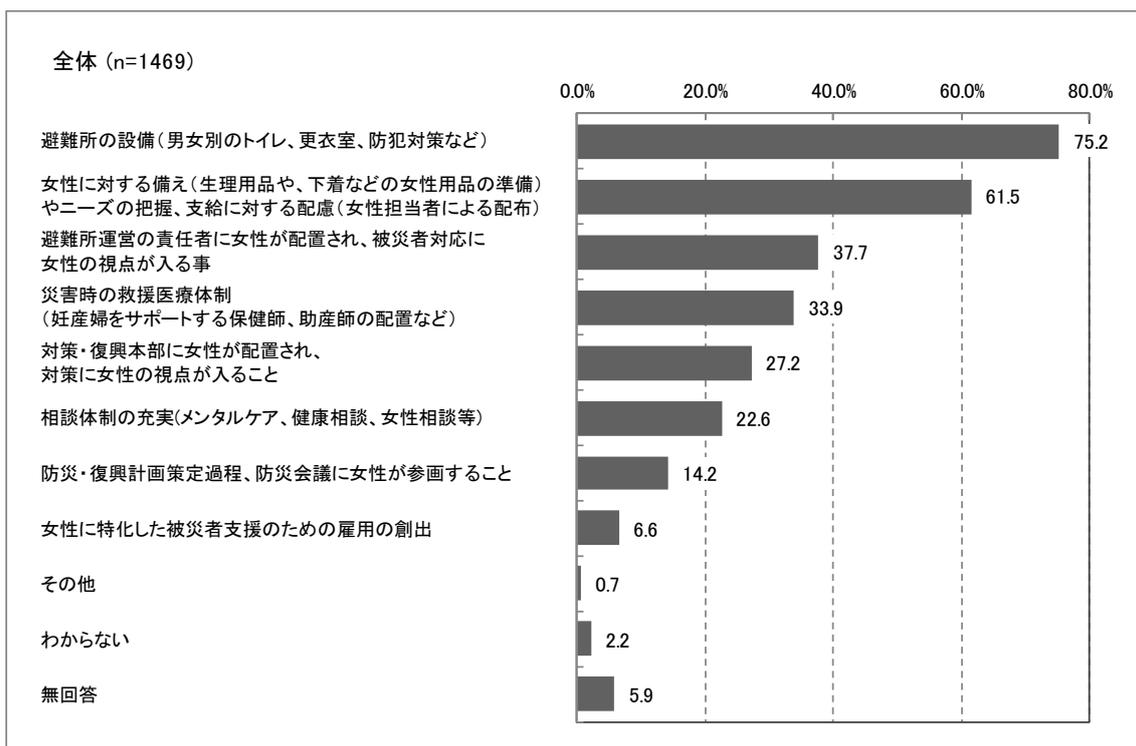
問24 「育児・介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考えがありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。



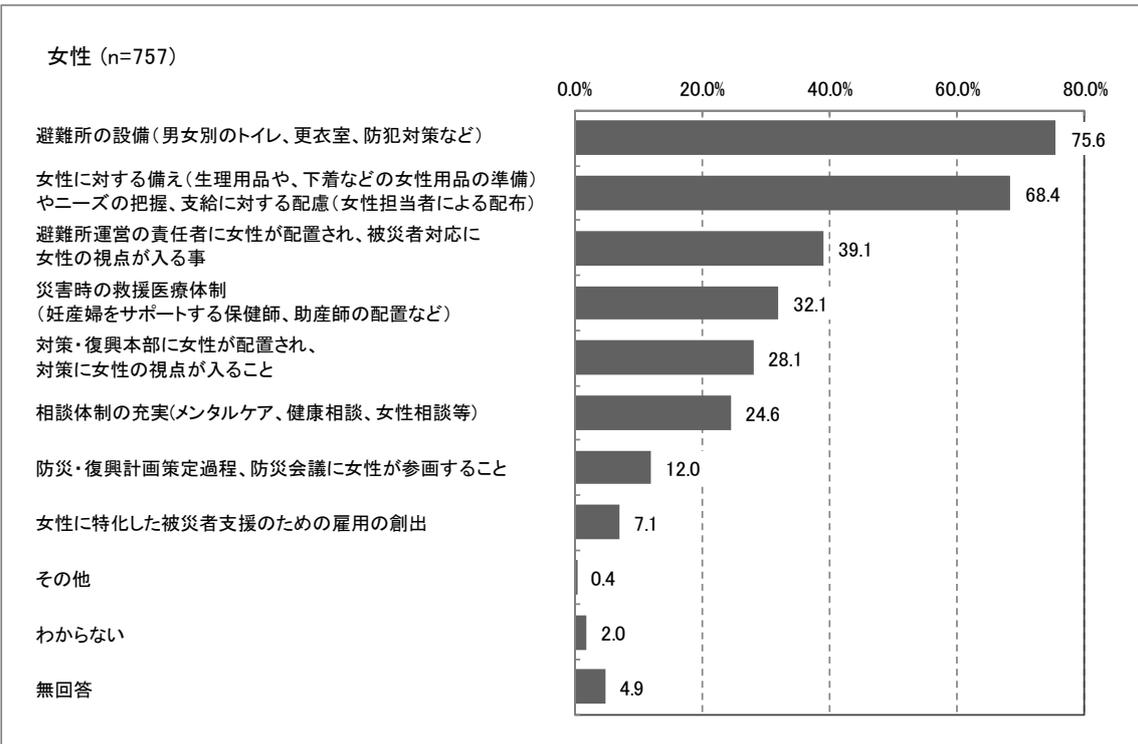
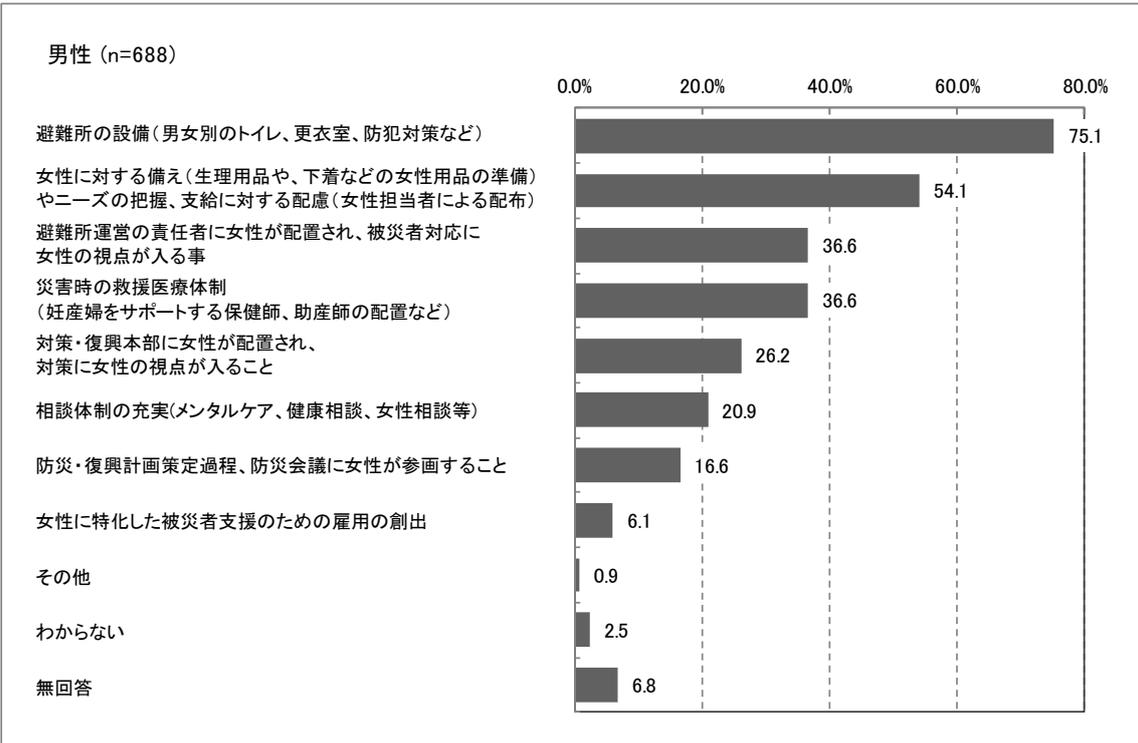
・「1 育児」と「2 介護」については、「手当の支給や税制上での優遇などで経済的に評価する」が男性女性とも60%を超えたほか、「4 町内会などの地域活動」では、「表彰などで社会的に評価する」(34.5%)が最も多く、「3 育児・介護以外の家事」については、「経済的・社会的に評価する必要はない」(36.1%)が最も多かった。



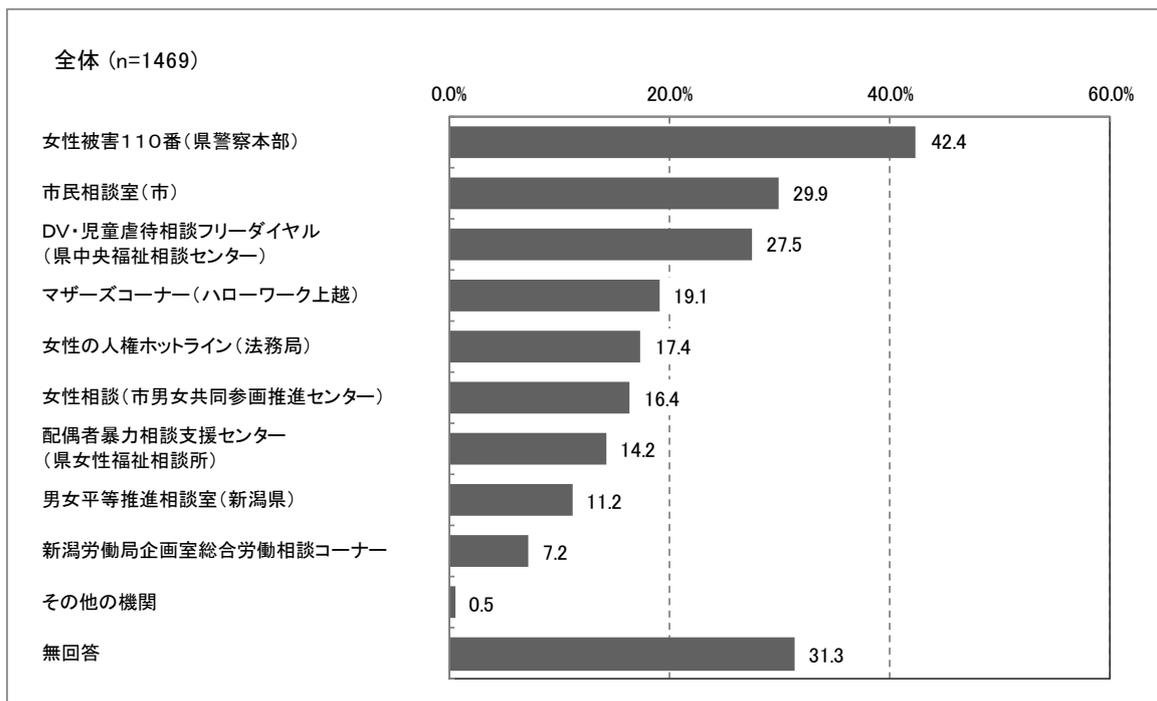
問25 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う事は何ですか。主なものを3つを選んで○をつけてください。



・全体では、性別に関係なく、「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、防犯対策など)」と「女性に対する備え(生理用品や、下着などの女性用品の準備)やニーズの把握、支給に対する配慮(女性担当者による配布)」が高くなっている。
 ・一方で、「対策・復興本部に女性が配属され、対策に女性の視点が入ること」の女性の参画に対する意識に関しては、男性女性とも30%を下回る結果であった。
 ・性別による違いでは、全体の2番目となった「女性に対する備え(生理用品や、下着などの女性用品の準備)やニーズの把握、支給に対する配慮(女性担当者による配布)」について、女性の方が14.3%多かった。(女性68.4%、男性54.1%)

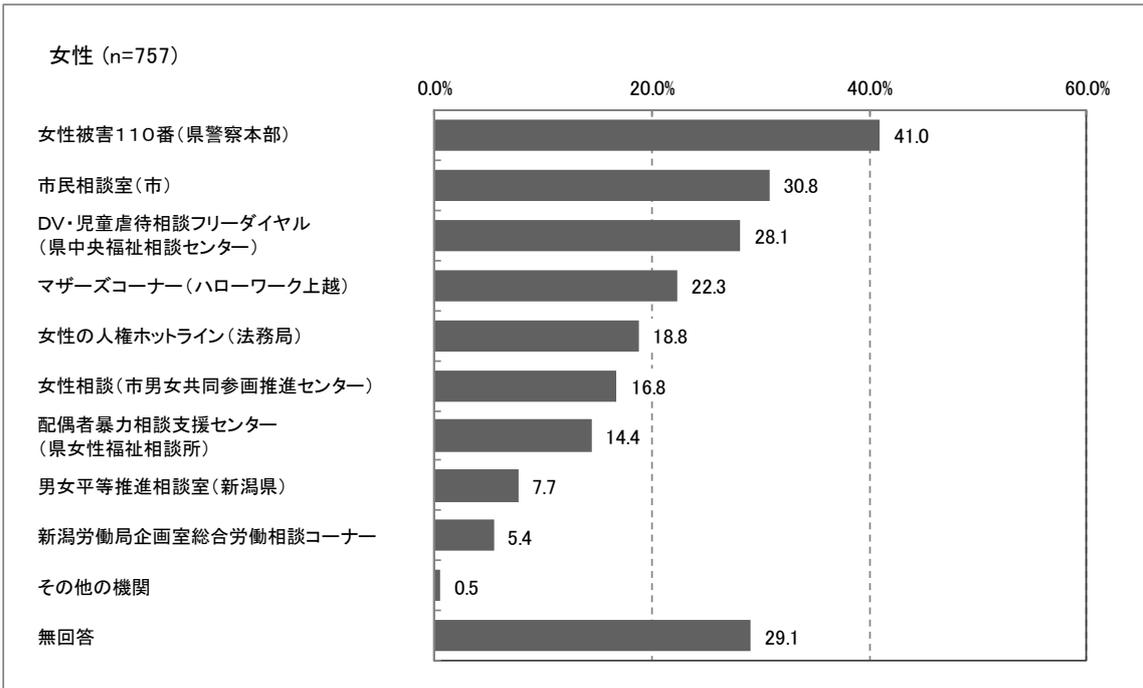
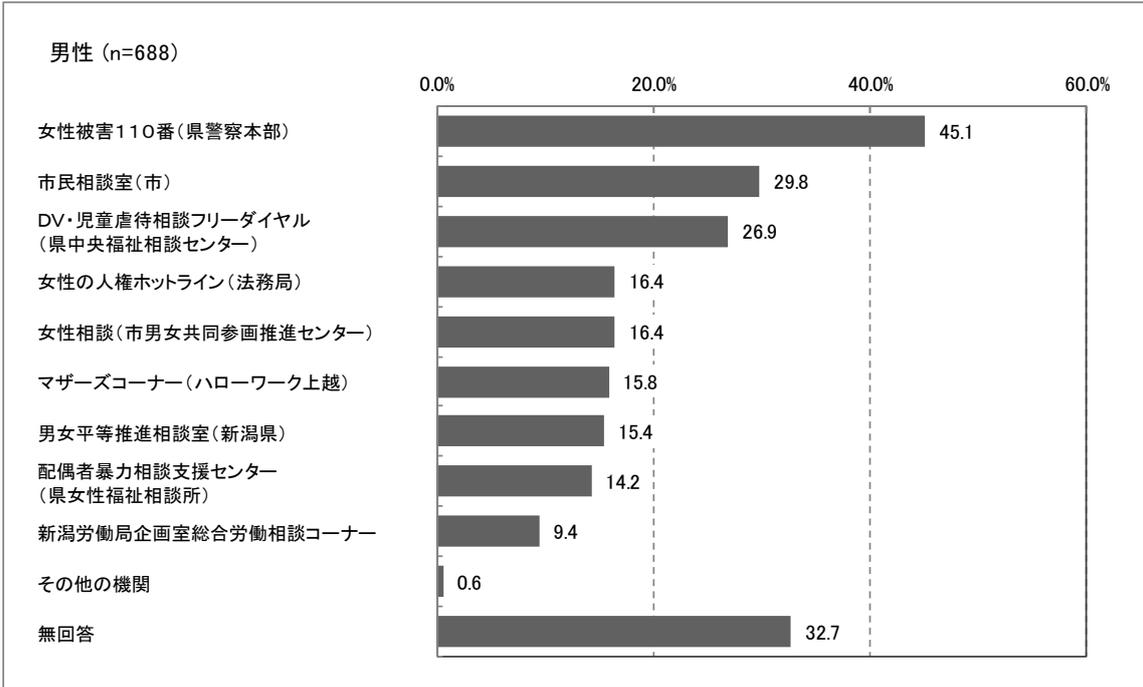


問26 女性が抱えている悩みを相談するところについて、ご存知の機関全てに○をつけてください。

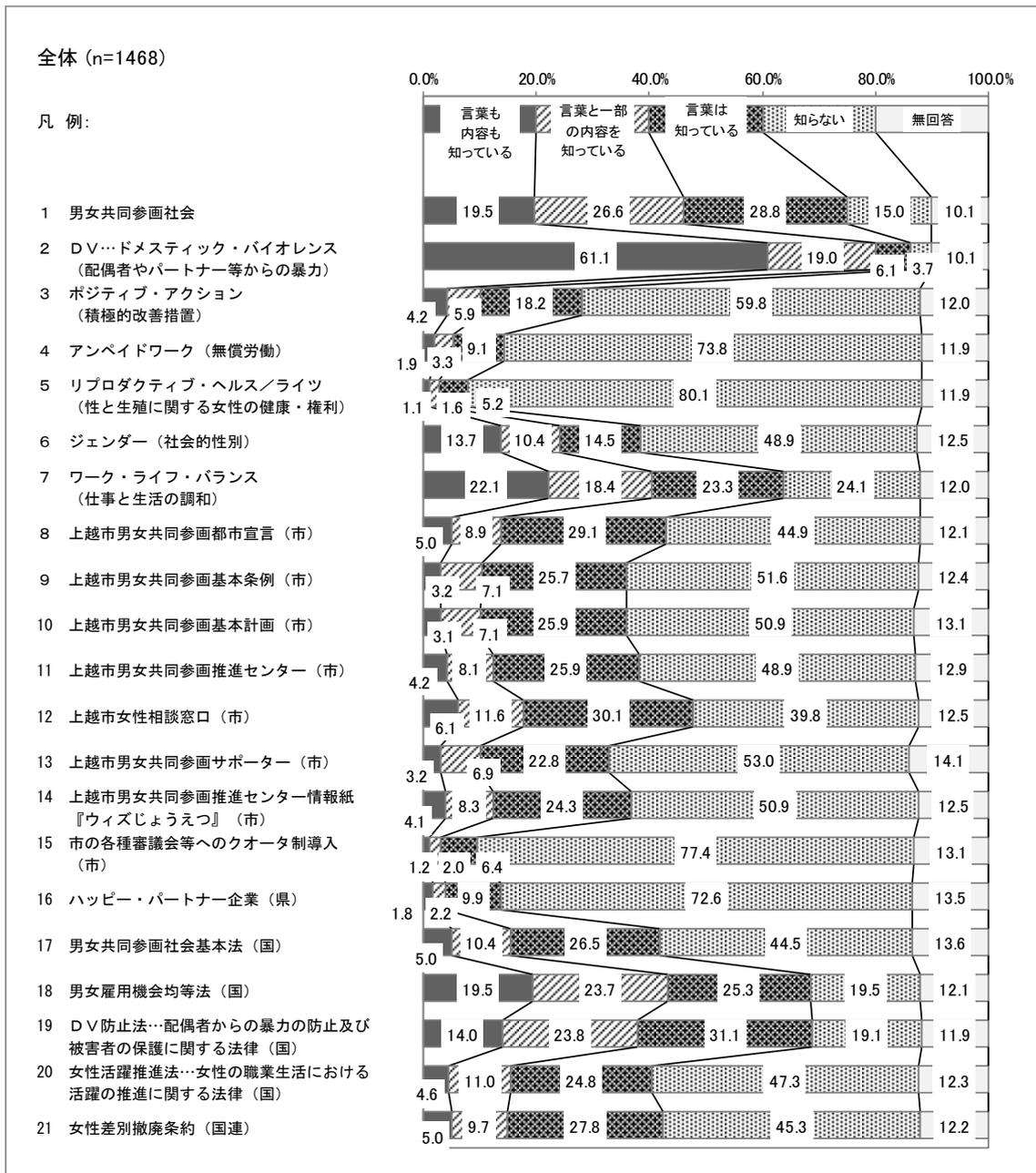


・全体では、「女性被害110番(県警察本部)」(42.4%)が最も多く、次いで「市民相談室(市)」(29.9%)、「DV・児童虐待相談フリーダイヤル(県中央福祉相談センター)」(27.5%)の順となり、「女性相談(市男女共同参画推進センター)」(16.4%)は全体の6番目であった。

・性別による違いでは、「マザーズコーナー(ハローワーク上越)」が男性よりも女性の方が若干高かった(女性22.3%、男性15.8%)ほかは大きな違いはみられなかった。



問27 あなたは、次に掲げるものの名称やことばについてご存知ですか。



・「言葉も内容も知っている」と「言葉と一部内容を知っている」と答えた割合を合わせた場合、「DV」が最も高く80%を超えたほか、「男女共同参画社会」(46.1%)と「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(40.5%)、「男女雇用機会均等法(国)」(43.2%)の3項目で40%を超える結果であった。

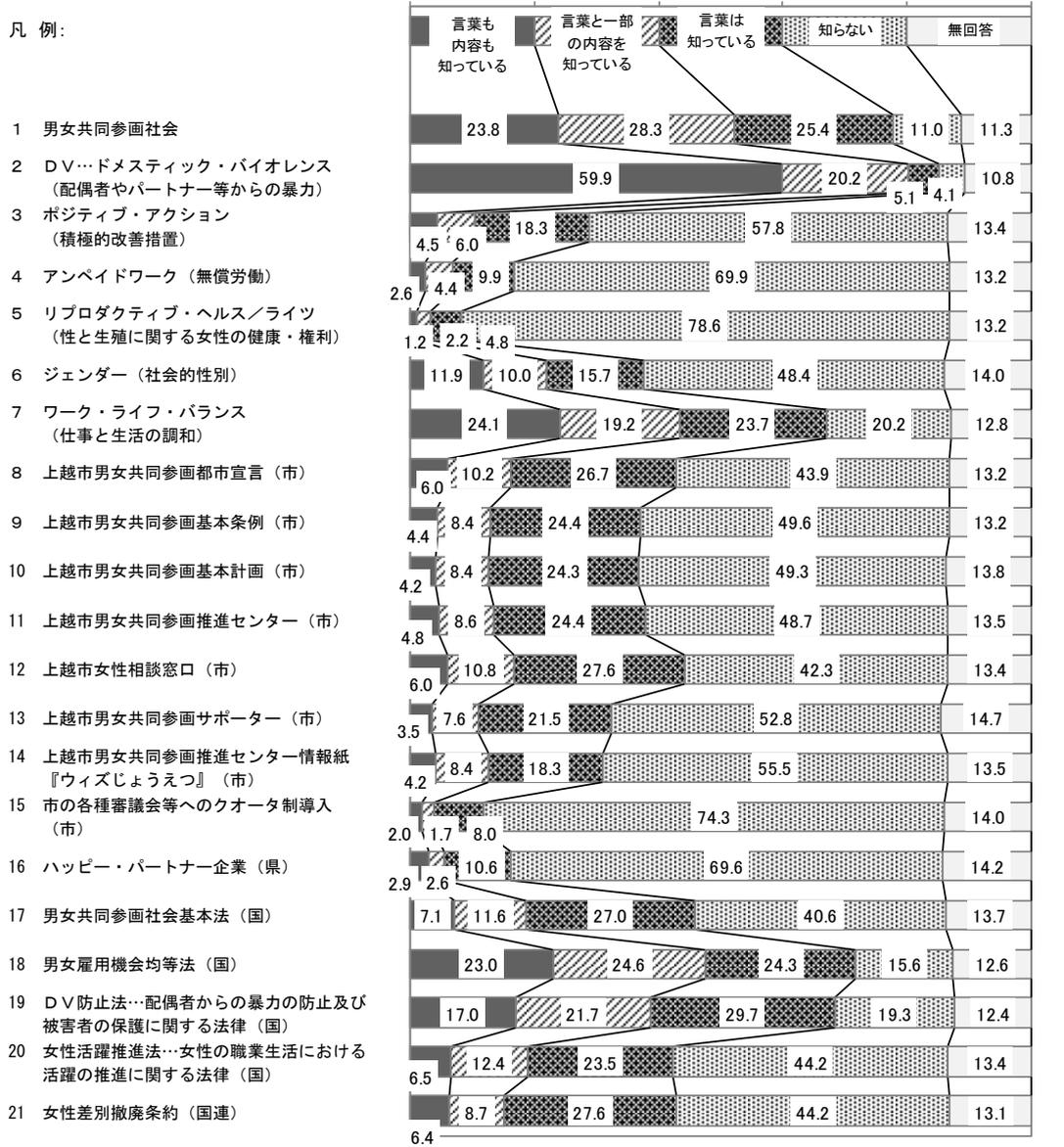
・他の項目では、10%未満の項目もあり、中でも「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する女性の健康・権利)」については2.7%にとどまった。

・各項目における性別の違いによる大きな差は見られなかった。

男性 (n=688)

凡例:

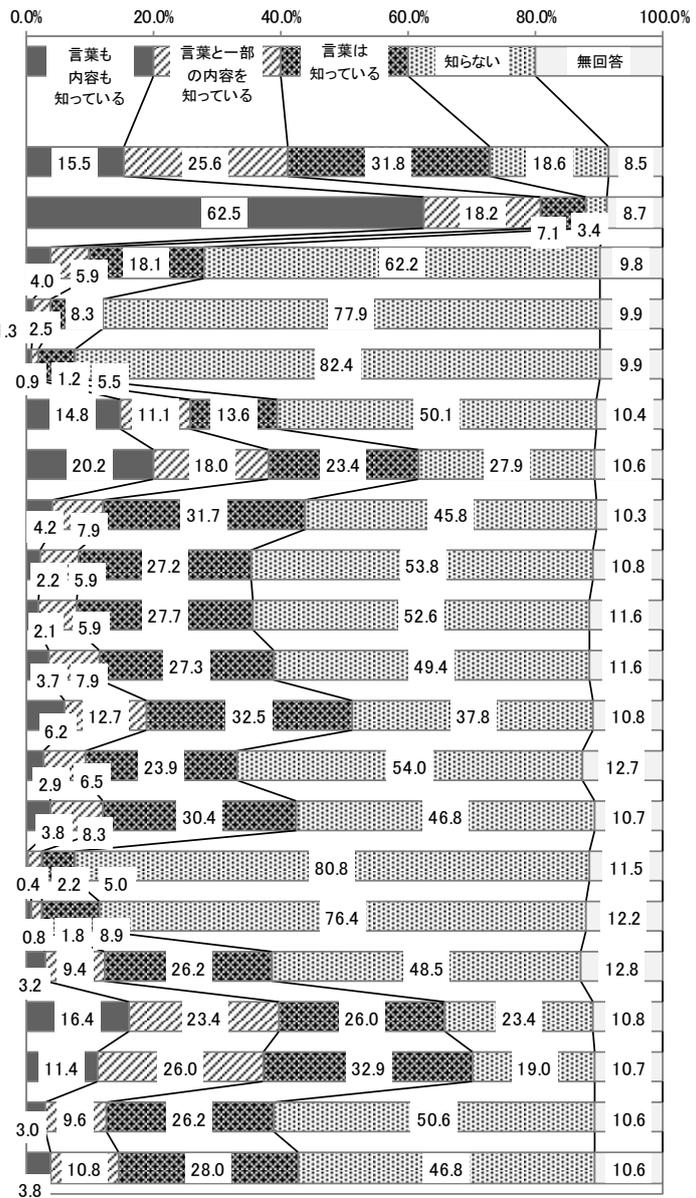
0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



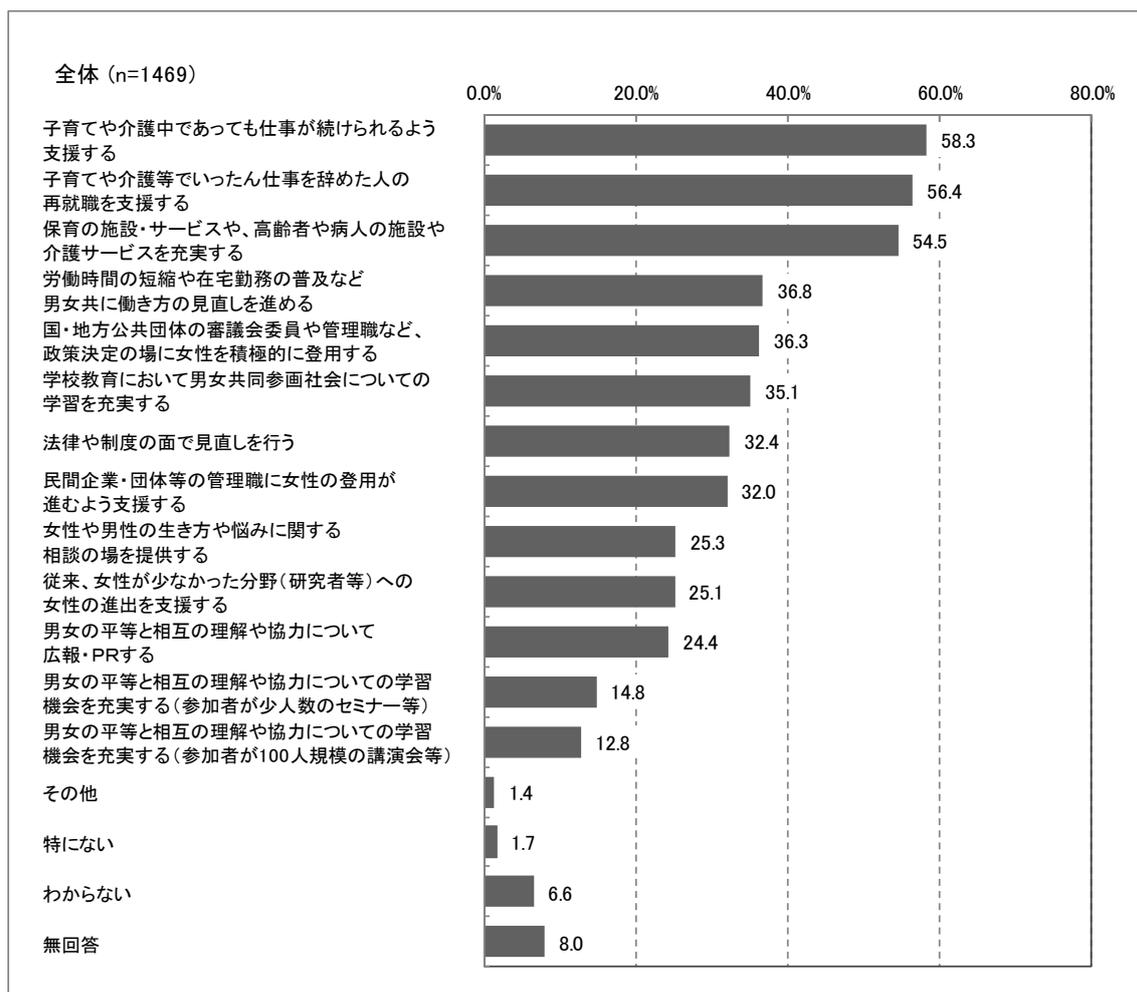
女性 (n=757)

凡例:

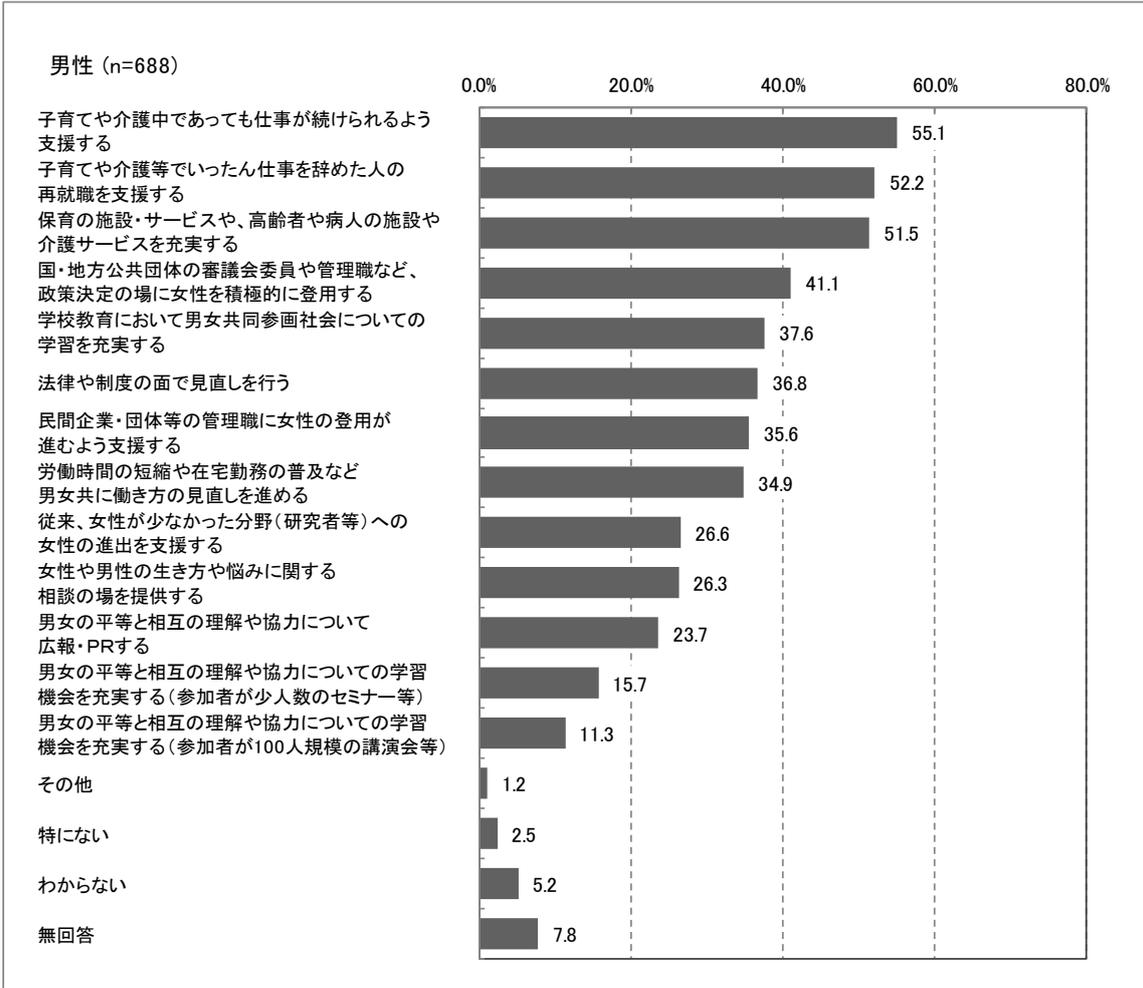
- 1 男女共同参画社会
- 2 DV…ドメスティック・バイオレンス (配偶者やパートナー等からの暴力)
- 3 ポジティブ・アクション (積極的改善措置)
- 4 アンペイドワーク (無償労働)
- 5 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する女性の健康・権利)
- 6 ジェンダー (社会的性別)
- 7 ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)
- 8 上越市男女共同参画都市宣言 (市)
- 9 上越市男女共同参画基本条例 (市)
- 10 上越市男女共同参画基本計画 (市)
- 11 上越市男女共同参画推進センター (市)
- 12 上越市女性相談窓口 (市)
- 13 上越市男女共同参画サポーター (市)
- 14 上越市男女共同参画推進センター情報紙『ウイズじょうえつ』 (市)
- 15 市の各種審議会等へのクオータ制導入 (市)
- 16 ハッピー・パートナー企業 (県)
- 17 男女共同参画社会基本法 (国)
- 18 男女雇用機会均等法 (国)
- 19 DV防止法…配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (国)
- 20 女性活躍推進法…女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (国)
- 21 女性差別撤廃条約 (国連)

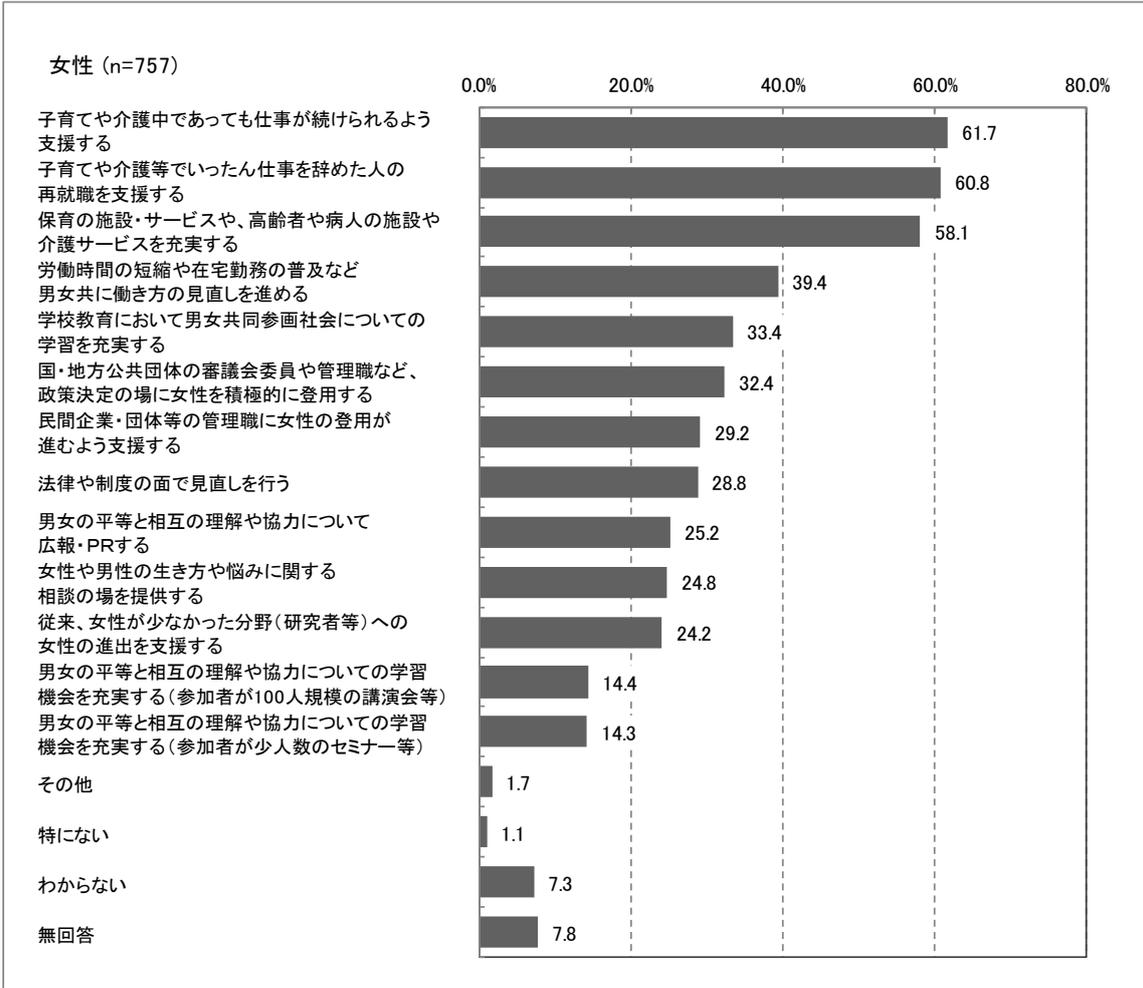


問28 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



・「子育てや介護」に関連する3項目が男性女性とも上位を占め、特に女性は3項目とも男性より高かった。次いで、「労働関係」、「女性の積極的登用」、「法律や制度の充実」など5項目が30%を超えた。
 ・性別の違いによる大きな差はみられなかった。





その他、自由記入など

各設問に関しての、主な意見は、次のとおりである。

各項目のカッコ内の件数は、寄せられた意見の数であるが、他の項目との重複も含む。

【問3】 家庭での夫婦の役割分担について、どうあるべきだと思いますか。

(主な意見)

理想(16件)

- 状況に応じて仕事も家事もできる方がする。(50代女性)
- 夫は主に仕事をし、夫婦共に家事をする。(20代男性)
- 夫も妻も仕事をし、家族で家事をする。(30代男性)
- 夫婦間で納得しているなら、どちらか専業でも2人で仕事をしていても構わない。(30代女性)

現実(38件)

- 家事は夫婦で対等にしていない。(70代以上女性)
- できる方ができる事をする。(40代男性)
- 夫の介護のため、すべて自分でしなければならない。(50代女性)
- 妻が主に仕事をし、妻が主に家事等をする。(60代女性)
- 自分が仕事し、親が家事等をしている。(40代女性)
- 自分のことは自分でやる。(30代男性)

【問8】 仕事を辞めたり中断したり、あるいは転職した理由は何ですか。(42件)

(主な意見)

- 上司と合わなかった、職場の人間関係が悪かった。(50代女性)
- パワハラ。(40代男性)
- 会社の方針と自身の考えが違ってきたため。(60代男性)
- やりたいと思った仕事が見つかったため。(50代女性)
- 職業(業界)の内容に疲れた(会社は大好きであるが)。(50代男性)
- 離婚、子連れ再婚、職場の大勢による追い出しに合う。常に転職を繰り返し、常に職場で最下位、低収入。その後子供を抱えての入退院を繰り返す(貯金なし)。(60代女性)
- 孫の子守。(60代女性)

【問11】 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現のためにどのようなことが必要だと思いますか。(52件)

(主な意見)

- 残業をゼロとする。サービス残業などありえない。(30代男性)
- 長く働けばいいという風潮を効率へ。(30代男性)
- 最近、業界を問わず越後地区でも各企業がノー残業デーや休日消化の取組が急に盛んになってきたが、そうするためには企業が仕事内容をどう改善するかを根本的に考える必要がある。うわべだけの取組が目立つ。(男性)
- ゆう活事業や項目4のような事業が取り入れられてきているが、現状として何も変わっていないように思う。日本全体の働き方の概念を根本的に変えない限り、ワーク・ライフ・バランスは理想に

は近づけないと思う。（50代男性）

- 有休を取れるようにしてほしい（現在は1日も取れないので）。（30代男性）
- お金にゆとりがあった方が、気持ちにもゆとりが出る。（40代女性）
- 保育・教育への費用（経済的）負担の軽減。（30代男性）
- 介護のため、退職した者への保障や手当。（50代女性）
- パート、アルバイトにも能力別に給与の昇給等があるべき。正社員でも仕事内容がパート、アルバイト以下の者が多いため。（30代女性）
- 子育てがもっと「社会に貢献している」こととして認められると良い。（40代女性）
- 企業、社会が、働く人が調和を必要としているという意識を持つこと。（30代男性）

【問13】 働きやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。

（主な意見）

男性にとって（20件）

- 有給を促進すること。（30代女性）
- 業界団体への働きかけ、意識改革を強くする。（50代男性）

女性にとって（22件）

- 家事を優先したいと思う女性にとって、残業のない社会。（40代女性）
- 人間関係が一番なので、相談しやすい職場。（50代女性）
- 子育ての相談や悩みを母だけでなく夫や周囲の理解と協力も必要。それが原因で離婚になるケースも多いのでは。（30代女性）
- 女性自身も平等を訴えるなら責任を持つことも大切。（40代女性）
- 女性自身の意識改革が必要（政治や社会情勢など）。（60代男性）

男性女性共通

- 若者が地元で働ける環境を作ること。（60代男性）
- 男性、女性の特質を生かせる職場。男女平等の上にも、体力等々の思いやりがある。
(70代以上男性)
- 環境を整えても実践するのに気を使わないで良い社会作り。（40代女性）
- 女性天皇、女性首相、女性知事、女性市長村長、女性社長、女性幹部が普通と受け止められる社会の実現と、国政、県政、市町村議会レベルでの60~65歳定年制の完全実施による若手の積極的登用の実現。（60代男性）
- 労働基準法を遵守すること。（40代女性）

【問14】 女性が職業を持つことについて、「理想」としてあなたが望ましい姿だと考えるものを教えてください。

（主な意見）

理想（29件）

- 女性も職業を持ち、結婚、育児中（産休）は家庭である程度過ごし、子供から手が離れたら職場へ復帰できるような体制になる。（60代女性）
- 出産時人的補填ができ、復帰までの穴埋めをする。（40代男性）

- 子どもができて働けるような体制があったり、辞めても復帰が可能であること。 (60代女性)
- 妊活休暇の制度があれば、職業を持っても良い。そして子どもができたなら職業をやめ、育児が終わったら再び職業を持つ。 (30代女性)
- その女性自身がどう考え、周囲がそれをどう思うか、その所の調和。 (50代男性)
- どのような状況でも、職業を持ちたいと思った時に持てると良い。 (50代女性)

現実 (37件)

- 育児中の生活が終わった後の職場が少ない。 (70代以上男性)
- 仕事を辞めて同じ職には就けない。 (40代女性)
- 子供が病弱なため、働くことが難しい状態。 (50代男性)
- 祖父母、親の介護のため、辞めざるを得ない。 (50代女性)
- 2世帯など親に子供を預ける場合、職業を持ち続けられる。 (60代男性)
- 保育園に預けて再び職業を持つ。 (30代女性)
- 仕事をしたくても家庭を優先。 (50代女性)
- 兼業農家は女性も働かないと成り立たなかった。 (70代以上女性)

【問15】 職業や役職において今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(13件)

(主な意見)

- 女性、男性を問わず、能力があれば。能力第一。 (20代女性)
- 地位や職種は能力水準に達している人物になるべきであって、女性だからといって優遇されるのは違和感を感じる。 (30代男性)
- 女性が増える必要はないが、取り組みを考えてくれることも実施してくれる場が作れる人であれば良い。 (40代女性)
- 女性の就きたい職業に就けばよい。女性枠などを作って能力のない人が増えても意味がない。 (20代男性)
- 土木、運送。 (20代男性)
- 医師。 (70代以上男性)
- 別に増やす必要はない。自然に。 (60代男性)

【問16】 PTAや町内会などの地域団体の役員の長に女性が就くことの妨げとなっている主な原因は何だと思えますか。(32件)

(主な意見)

- 女性特有の性質で意見がまとめづらくなったり、好き嫌いが出ると話が進みづらいから (30代女性)
- やってみたい人はいるはずですが。でも私でいいのかしらと遠慮してしまうところが、女性にはあると思います。 (60代女性)
- 私は女性ですが、PTA 副会長になっています。女性の意識の問題。 (40代女性)
- リーダー(会首)になっても、男性からの協力がなく、それ以上前に進めなかった。 (60代女性)
- 高齢者は男尊女卑の中で育ってきた人ばかりだから、言う事を聞いてくれない。逆に若い人達が多ければ、そういった考えがないので妨げにはならない。実際、小学校や中学校のPTA会長は女性

- がしているところも多いが、町内会長は男性が多い。（30代女性）
- 男性が就くものという固定観念が男女ともにあるから。（30代男性）
 - 地域住民の意識、考え方がいまだ低く遅れている。（60代男性）
 - ほとんど強制参加の飲み会が数多くあり、夜に家を空けるのが男性と比べて難しい。飲み会ではなく、食事会もしくは会議のみにすれば女性も増えると思う。逆に男性は飲み会でなくなれば減ると思う。（40代女性）
 - 女性も仕事で忙しく、その上育児、家事と忙しいから。（40代女性）

【問17】 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（25件）

（主な意見）

- 家庭教育、学校教育、社会教育の基軸に据える事。採用試験での面接で、質問項目に必ず入れる事や、論文を課す職場では論題に加える事。「長いものに巻かれろ」「寄らば大樹の陰」「郷に入っては郷に従え」観念の払拭。（60代男性）
- 義務教育のカリキュラムの中に、技能を高めたり、考え方を尊重や関心を持ってもらえるような教育を行う。（40代女性）
- 活動自体がすごいことではない、という刷り込み。1つをしたからといって全てをやったかのような態度は取らせない。（30代女性）
- 男性自身が考え方を変えていく事。家事や育児は男の仕事ではないと思っている。またはできないと思っている。（40代女性）
- 外の事も大切だが、身内の理解（特に妻）が必要。やり方が違うと怒られると、こちらもやる気をなくすので。（30代男性）
- 企業の戦士にならないと、家庭を養っていけないため、核家族の崩壊による協同精神の助長努力。（50代男性）
- 男性が所属している役員や同僚の理解が必要。男性が所属している企業の規定整備。（50代女性）

【問18】 男性が育児休業（休暇）を取得しづらい（しない）理由として考えられるものは何ですか。（29件）

（主な意見）

- 育児休業を取ることで、職種への熱意の低下と見られ、キャリアが絶望的になると見られるため。（30代男性）
- 普通、長期の休みを取得すると自分の仕事が取られる。仕事がなくなる。会社としては必要ないと思われそう。（40代女性）
- 育児休業が終わり、職場復帰する際に以前のポストが保障されない。（60代男性）
- 男女の収入の違い。男性の方が高収入なので働いている方が生活が安定。（30代女性）
- 制度はあるが取得しやすい職場環境（人員体制等ではない）。（30代男性）
- 休暇を取得できても職場の方の仕事が増える。体制が整っていれば別。大企業なら制度があるのではないか。（60代女性）
- 子育てが苦手、子供を叱れない、働いている方が楽だから休みを取る気がない。（40代女性）
- 男性大半が家事、育児は女性の仕事と考えている方が多いため（30代女性）
- 「育児は母が行うもの」との固定観念に男性が安住している。不平等がわかっている男性が、本当

は大半である。実行できる仕掛け作りが必要な時と思う。（60代男性）

- 残業なしくらいで、休暇まで取る必要はない。（40代女性）

【問19】 「男性」が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものは何ですか？（4件）

（主な意見）

- 育児、介護を行いながらできる仕事は何かを考え、探す。（70代以上男性）
- 法律の範囲内で自分でできる事を自分で考え実行すれば良い。（40代女性）

【問20】 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてでしょうか。（19件）

（主な意見）

- 男性と同じ職業能力なのに、キャリア形成に不利になる環境、いわゆる「ガラスの天井」。
（30代男性）
- トイレ掃除、お茶出しと片付け。生理休暇がないこと。（40代女性）
- 職場で男性に接待をさせる事。（60代女性）
- 夫婦別姓が違憲であること。（30代女性）
- この質問自体が女性を尊重していない内容。（40代男性）
- スナック等の職業に就いている女性に対しての偏見。（50代女性）
- 子供の有無や子供の数によって評価される時。（30代女性）
- 痴漢行為（性的暴行）をされたら、女性側に隙があるからだとか非難される事がある社会風潮を感じる時。（50代女性）

【問23】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。（10件）

（主な意見）

- 偏ったり、嘘、大げさ、紛らわしい、誇張する表現など、メディア自体のあり方が問題。
（30代男性）
- 暴力表現をカッコいい役者が演じている。（50代女性）
- 男性にとって都合の良い女性像が多く流れ、嘘の情報がインターネットで垂れ流しになっている。
（40代女性）
- 仮想と現実が分別できない「常識では考えられない」奇行や凶行に入る人々を生み出す原因の1つとなっている。こうした傾向に責任を感じず、利益追求にひた走る報道、出版、メーカーの各企業に「NO」を突き付ける強い国民意識の醸成が必要だ。突きつめればこうした各企業を政府が応援している構図をこそ白日の下にさらすべきだ。（60代男性）

【問24】 「育児・介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考えがありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。

（主な意見）

育児（11件）

- 地域全体で協力できる体制や、受ける側のこだわりのない受け入れ、指導。 (70代以上男性)
- 手当の支給は他の目的で使われてしまうこともある様子。現物が良い? (60代女性)
- 親が子供を育てるのは当たり前。特別な事ではない。 (60代女性)
- 親に手当てを渡すべきでない。中学、高校まで無償にすべき。 (70代以上男性)

介護 (12件)

- 施設や相談員を増やし、利用しやすい環境づくりをしていく事。 (50代男性)
- 自宅で介護している方に光を当ててほしい。 (40代男性)
- 問われている内容に現実性がないと思います。 (70代以上女性)
- 介護される人は年金を受け取ってたりするので、経済的なことは介護される人の財産をまず利用して、介護する人には見舞金程度で良いと思う。 (50代女性)
- ある程度の評価は必要で、それと共に役割の担い手の実際の負担の軽減が必要と思う。 (50代女性)

育児・介護以外の家事 (13件)

- 夫婦間、家族間でねぎらいや感謝の気持ちを表現する。 (男性)
- 家事をしてくれている家族に感謝する。家事を分担する。してもらって当たり前ではない事を認識する。 (30代女性)
- ある程度の評価は必要で、それと共に役割の担い手の実際の負担の軽減が必要と思う。 (50代女性)
- 夫婦間が平等であるか、助け合っているかを見直す評価。 (50代女性)

町内会などの地域活動 (8件)

- 評価する必要はない。町内会によっては、無駄と思わる古い慣習も多い。 (30代男性)
- 地域活動に参加する事に経済的な評価はいらなと思うが、長期にわたり中心的に活動して下さる方には、手当の支給等があってもいいと思う。 (60代女性)

共通意見

- それぞれを行うため時間を取る権利を書面で表す。認識する。 (50代女性)
- 評価するのではなく、具体的に対策を取るべき。 (60代男性)
- 有償ボランティア化。 (40代女性)
- そもそも誰のための評価なのでしょうか。我々が活用するものでなく、評価し、行政への取り組みへの振り返り、修正に使うべきで優遇して評価を上げようというのは、制度を良くするには当てはまらない。 (30代男性)

【問25】 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う事は何ですか。(7件)

(主な意見)

- 女性や子供を守るための仕組み。 (30代男性)
- 男女の特性を考慮した対応。 (60代男性)
- 知恵のある女性に対応に当たってくれればありがたいが、小さい子供を持っている方は、自分の子

供を中心に考えて、子供がお母さんと一緒に落ち着くのならば、他の事はほとんどさせないであげてほしい。（50代女性）

- 女性が参加しなくて対応できるように、男性を教育することが必要。（70代以上男性）

【問26】 女性が抱えている悩みを相談するところについて、ご存知の機関は何ですか。（4件）
（主な意見）

- 民生委員、医療機関、保健士、保育園や学校、民間シェルター、寺や教会。（40代女性）
- 上越市子ども福祉センター、保健所子供相談室等。（70代以上男性）
- 大学のセクハラ相談窓口、弁護士会の法律相談窓口。（60代男性）

【問28】 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（17件）

（主な意見）

- 企業の意識改革。女性よりも男性が休むことへの意識。法的には問題なくても、仕事を長期休んだら出世はないし、給与も上がらない（現実的には）。（30代男性）
- 小学生までの子供がいる人は、サービス業でも土日休めるように企業に働きかけをする。
（60代女性）
- 有給休暇を多く使用できたり、給与の昇給、ボーナスの支給（パート、アルバイト含む）。
（30代女性）
- 家庭教育、社会教育の充実、違いを認め尊重しあう風土づくり。（60代男性）
- 今ある企画を広め、知名度を上げてきちんと活用できるようにする。（40代女性）
- 先進的な取り組みをしている家庭や職場（企業）、町内などをJCVで紹介する。（60代男性）

【問29】 今後、男女共同参画を推進していくためには、どのように取り組んでいけばよいかご意見・ご要望・ご提案などをご記入ください。（243件）

1. 行政の取組について

（主な意見）

- 普段なかなか考えないことで、わからないで終わってしまうことですが、こういうアンケートで色々考えることができたこと、まだまだ考えなくてはいけないことを勉強したような気がします。こういう機会や考えさせることを、市もこれからももっともっと続けてほしい。もっと真剣に取り組まなければならない問題だと思います。（40代男性）
- これから日本が直面する少子化社会に対応するための施策の充実。特に今は子育て環境の充実がもっと必要であると思う。休日や祝日における子供の預かり保育の無料化等。（50代男性）
- 学校教育よりスタートすべき内容だと思う。現在の若い人たちには学ぶ力がない。人生はゲーム感覚でリセットできると考えている人が多い。上越市としての男女共同参画の活動が全く分からない。言葉がまず受け入れられないと思う。（50代男性）
- 男女共同参画社会を目指して、小さな子供のうちから学んでいく事が大切だと思う。また、変な慣習や考えに縛られている大人も学ぶ場があれば良いと思う。男女共同参画というと難しい言葉なので、人が男女別なく人として共に責任を担って生活していく社会が大切＝幸せみたいな講演でもあれば、聞いてみたいです。（60代女性）
- 行政の担当部署による企業へ直接問い合わせ、回答要求、改善要望を行う。中小、零細企業では難

しいかもしれないが、ある程度の雇用規模を持つ中堅、大企業は、地域当局からの要求にはプレッシャーを感じていると思う。市長や知事からの要望には、企業の経営層も真剣に対応せざるを得ない。首長は表面上の視察と企業激励だけではなく、機会があるごとに共同参画状況の問い合わせを口頭で行ってほしい。日本企業は良くも悪くもトップダウンの風土のある場合が多いので、トップが変わることが雇用条件の変化につながると思う。自分の会社も当局指導には真摯に対応している。（30代男性）

- まずは市役所の職員の方がもっと効率良く生き生きとやりがいを持って働く姿を市民に見せてほしい。忙しい部署もあると思うが、あまり遅くまで働かなくて済むよう、お互いに協力して早く帰宅できるようにして下さい。（40代女性）
- 男女ともに家事、育児に参加したくても仕事を優先しなくては生活できないのが現状だと思います。一人一人の仕事量や時間を減らしても、企業が経営できる状態になることが必要であり、行政からのサポートを見直していく事が今後の課題だと思います。（30代女性）
- 保育施設や学校施設が長期休暇等の場合も仕事ができるよう、他の施設を無料または格安で設けてほしい。女性の大半は正社員で働ける時間がないため、パート、アルバイトになってしまう。なのでパート、アルバイトでも能力別に給与の昇給、ボーナスの支給を行うべき（現状、能力が低いのに労働時間の融通が効くというだけで給料を多くもらっている者が多いため。そのような者の給料を下げ、能力の高い者にもっと回すべき）。特に子育て中や介護中でお金の負担が多い家計に回すべき。（30代女性）
- 上越市内の事業所に、休日取得日数や女性管理職の人数など、アンケートを数年ごとにとって、業界別に比較して結果を事業所にフィードバックしてみたら各企業の意識や関心も少しは高まるのではないかと思います。子育てと家事に労力を費やしている女性がほとんどだと思うので、その時間と援助やサービスが整えば、働きに出たいと思う人も増えてくると思う。女性が集まりやすい生活情報提供または交換の場としてセミナーやイベントなどでコミュニティがとれる場所を市内の女性の方にもっと教えてあげれば良いと思う。（50代男性）
- 私だけかもしれませんが、皆様が作り上げた政策、活動をほぼ知る機会がありません。あったとしても現実的に活用できていない、できないのが現状かと思います。せっかくの活動ですので、きちんと機能してほしいです。（40代女性）
- 「ウィズじょうえつ」はほとんどの市民は読んでいないと思います。飽きています上に書きましたが、JCVの協力でうまくいっている家庭や職場、町内会活動など「生の情報」を市民に提供して下さい。また、講演や討論会、発表会、勉強会、男の料理教室、介護、育児教室などもどんどん開催していただき、参加できなかった方にはJCVで放送したりDVDを貸し出すなどして下さい。（60代男性）
- 職業生活、女性活躍の推進について、問6のどのような職業にお就きですかの質問の回答で1、2を答えた方のみしか問7に答えられないようなアンケートを作成する上越市の考え方に不満です。派遣や契約社員でも、その企業にとって優秀な人材も多くいます。上越市はまず、働き方の多様性を認めるべきです。それが男女共同参画の基礎だと考えます。（50代女性）
- 若い人たちの雇用条件は非正規雇用が多くなり、その生活状態は劣悪な状況下にあります。そこに追い打ちをかえるように、国の福利厚生予算も年々削減され、安心して出産、子育てができる環境が作られていません。国は、ことごとく若い人たちの願いを先送りし、将来の希望が見えなく「男女共同参画」なんて他人事のように思っている人たちが多いのではないのでしょうか。上越市の行政は、若い人たちに希望を与える施策を考えつかず、人口は減少の一途。今のままでは上越市は住み

良い街から遠のいていくのではないのでしょうか。男女共同参画も、男女を問わずその人の立ち位置が大切であり、一部の恵まれた人の思考では良い結果は導き出せないと考えます。（50代女性）

2. 男女共同参画に関する意識・考え方など

（主な意見）

- 男女共同というのであれば、女性のための社会づくりと平行して、男性のための社会づくりも進めていってくれればと思っています。痴漢冤罪のニュースを見ると心が痛みますし、一部の女性議員が2年ほど前に安保法案の理事会での質疑を妨害していたことなど、女性自身が「弱者である」と振りかざし、権力を主張するような風潮に社会全体が傾いていくことは、危惧すべきではないでしょうか。（20代男性）
- 突きつめれば、結局はひとりひとりの考え方を変えていくしかないのかもしれませんが、男性が女性を、女性が男性を思いやる、尊敬しあえる環境が広がっていく事をサポートする社会であってほしいと思います。目の前にいる人間を大切にす気持ち、周りにも広がっていけば「男女」という枠にとらわれずに誰もが生きやすくなるのかな、とこのアンケートを書かせていただいて感じました。（40代女性）
- 私の夫は団塊世代の生まれです。外の仕事は一生懸命（会社とか家の外仕事）ですが、家事はほとんどしません。「男は外で、女は家の中」の時代です。男女共同参画の話聞いてもらいたいです、夫は関心がありません。男性というだけで威張る時代の人（夫）は時代遅れです。だんだんと差（男性、女性）がなくなるようになることを願っています。なんとか2人でこの年齢まで生きてこれたことに感謝していますが、女性は不利なことが多いと感じています。（60代女性）
- 働きたい女性も働かなければならない女性もいる。どちらかといえば働かなければならない女性の方が多いと思う。子供は母親といたいと本能で望む。それが叶うようにすることが大事だ。より良い社会を作るために、女性の視線で見るとは大事だ。イコール職場における女性の活躍の場を増やすというのは、子供の気持ちを無視した大人の考えだ。夫婦で共働きしなくてもよい社会を作るとは考えないのか。昔の男尊女卑は問題があるが、この考えを改めれば良い。（60代男性）
- 男性の育休について。制度として私の職場にもあるが、いざ男性が取ろうとすると周りの同僚が反対したり、驚いたりする。特に年配の人たちがそうである。そういう人たちの意識が変わることが、男女平等で、共に社会参加していく事につながると思う。主人も周りがそういう反応をするのをわかっているから、育休を取りたがらなかった。月に1回だけでいいから、男性も女性も半日程度で帰宅できる休暇制度を作ってほしい。しかも必ず取ることとしてほしい。その休暇を使って、子供とゆっくり過ごしたり、普段できない事（家事など）をしたりできたらいいと思う。男の人でも育児や家事に参加する日となれば…。私の主人は、周りの男性に比べれば家事も育児もかなりやっているが、1人目が生まれ私が育休中だった時は「自分は外で働いてきて疲れているんだ」みたいなことを言い、だから育児も家事もすべて私がするのが当然のようなことを言っていた。男の人だって家事、育児をするべきであること、私だっていずれ職場復帰するのだからやってもらわないと困ることなどを伝えてきたし、家事、育児の事でたくさん喧嘩してきた。ですが、今では自分で進んでやり、私以上に家事、育児をしている日もある。男の人の考え方、意識が変わっていく事が本当に大切だと思っています。（30代女性）
- 私の考えが古いのかもしれませんが、女の人でも世に出ればよりも、出たい人がそれぞれ自分で出れば良いと思います。誰もかれも前に出ればということは必要ないと思います。（40代男性）
- 私は長男の嫁です。現在、夫の母（要介護1）と3人暮らしです。義母にはヒステリーの気があり、

県外に嫁いだ夫の姉は7年も来ていません。親の介護を嫁に押し付けている人は多いと思います。幸い退職した夫が病院やケアマネ等の対応をしてくれるので、私は食事、洗濯の分担です。それまでは私1人でしていました。子供がいる時は忙しくて大変でした。体が丈夫だったようで持ちこたえられましたが、これからの若い子育て世代には、子育て後の仕事のケアをしっかりとあげて下さい。私は会社の理解があり、2人の子供を育てることができ、65歳まで働く予定です。働き続けるには、家庭と職場の理解が重要だと思います。（60代女性）

- 女性が不平等な扱いを受けていることは否定できないが、それゆえ女性を優遇しすぎることで逆に男性が不平等な扱いを受けてしまうことも見過ごせない。過度な女性優遇は控えるべきである。（30代男性）
- 男だからできる事、女だからできる事をよく理解して、男女が同じくという考えではなくて、互いに協力、理解、感謝しあえる社会ができれば良いと思います。相手を、人を色々な事業で認め合うことが大切だと思う。答えはひとつにはまとめられないと思うけれど「道徳」として学ぶことは大切だと思う。DVは昔からあり、今はだいぶ理解されていることは多いが、特にDV対策、認識を男の人に対して行ってほしいと思う。（60代女性）
- 夫婦共同作業としての心構えがないと前に進めない。社会環境が充実されることが望めます。（70代以上女性）
- 「女性」とひとくくりにして、権利の主張を増やすやり方は、そろそろ曲がり角だと思います。大切なのは「ひとりひとり」が尊重され、話し合いが進む環境であること。「～であるべき」は各家庭や地域への強要にしか感じません。男性も頑張っています。今、それがわかりにくく「生きがい」が減っているとも思えます。制度全般が「女性優遇」に見えるといっても過言ではありません。（30代男性）
- 町内会の行事や役員に昨年から参加して思った事ですが、そもそも町内会長、役員の人たちに男性しかおらず、子供会の関係で私しか女性がいなく、会議に参加していてもとても居づらかったです。意見をしても「昔から決まっている、若いのに！」と話にならなかったことが多くありました。町内の子供の行事が減ったりすると「母親が面倒くさがっている…」と言っていたのを聞いてショックでした（ラジオ体操など）。地域の何かをみんなで育てようというのは、とても難しい事だと思いました（年配の方の固定観念が強すぎて…）。（40代女性）
- 「男女共同参画社会」を実現するためには、男性の意識改革が必要ですが、それ以上に女性の意識改革が必要だと思う。責任と義務を全うする事。単に登用のための登用なら、組織が弱体化するだけだと思う。また男性だけでは経済的に家族を守れないため、女性の職場進出も必要だし、登用されたいと思われるでしょう。そのための公的支援、勤務先、地域社会の支援も必要だと思います。また少子高齢化社会になりつつあるが、女性の労働力は必要になってくる。（70代以上男性）
- 法律や制度で良いものがあったとしても、それを利用する際の管理職や周りの職員の理解がなく、育休明けで復職しても職場にいろいろ雰囲気や辞職に追い込まれることもあると思います。実際に今現在私も育休中ですが、子を産み育てる事が悪い事をしているのかな…と誤ってしまいます。これでは子供を産みたくてもためらってしまいます。復職の際に良い制度があれば…と思います。（30代女性）
- 無理に「男女共同」にしなくても良いと思っている。それぞれの家庭、職場で環境、条件等は違う。「個人」の考え方、それぞれの「家族」の考え方、「職場」の考え方で良い。男性がもっともっと家事、子育て、介護、地域活動に参加しろ！という前に、「なぜ参加できないのだろう」を考えるべきなのでは？参加できない「社会」に疑問を持つべき。（40代女性）

- まだ男性の中には、女性が育児、家事をするものと思っている方は多いと思う。また平等に思ってもできない男性もいる。意識と技術の両方に改善が必要と思う。出産や育児休暇は取れるようになっているが、欠員を補う体制が今一つなため、職場の仲間の負担が増えたり、休む側も気にしてしまう。様々な職種で女性が活躍するのは良い事だが、女性が多い職場では、男性の立場が弱い事もある。女性の中には男女平等と言いながら女性の弱さを武器にする人もいるので、女性の意識や男性の立場も考えていただきたい。（４０代男性）
- まだまだ育児に関しては女性はやるが「男性の協力」という面では弱いと思います。嫁に入って「やってほしくても言えないストレス」、心労、言わなきゃわからない…という声をよく聞きます。女は自分の時間もなく、トイレもゆっくりしてられないのに、男は飲み会で一日中寝てたり、テレビを見たり、スマホを構って目を離してられるだけ、責任能力の差を感じました。もっとたくさんパパたちが子育てと一緒に言わなくても抱っこしたりあやしてくれる社会（個々の性格もあるけれど）になれば、女はもっと助かってエネルギーが湧いてきます。（３０代女性）
- 男女共同参画は賛成しません。（主体）男性としての役割分担、（対象）女性としての役割分担、違うことは認めたらよいと思います。女性は結婚したら出産、育児がありますので、男性は主体の立場で家族を守る義務、責任があると思います。女性は美の対象としてお互いに支えあっていく事が望ましいです。お互いが思いやりをもって、共に生きあう精神を養っていかれたらと思います。（５０代女性）
- 私は今の社会が、逆に女性が優遇されすぎだと考えています。それは私の会社だけかもですが、なので我々男性職員はとても仕事がしづらく、毎日ストレスがたまる一方です。そういう現状もある事をご理解していただきたいと思います。よろしくお願い致します。（４０代男性）

3. その他

（主な意見）

- 育児や介護のための環境づくりについて、企業等のトップや管理職はもっと危機感を持つべき。その取り組みを怠る企業等は「ブラック企業」として公表すること。ペナルティや罰則を設けた社会的な制裁措置を作り、徹底していくこと。また、育児や介護に取り組む社員や在宅の主婦などへは、経済的支援（手当や奨励金）をすべき。（５０代男性）
- 地方は特に男性、女性の採用では男性の方が優位な立場にあるように感じる。実際、結婚、出産の経験があるわけではないが、自分が以前働いていた会社や周りの人を見ても、出産などをしたら辞めざるを得ないのが会社の現状だと思う。もっとフレックスタイムなどで自由な時間で与えられた仕事をこなすシステムをどんどん取り入れ、働きやすい環境ができれば、気持ちに余裕ができ、家庭も仕事のストレスも改善されていくのだと思う。行政がこういった取り組み行っても、結局は理解のある職場の仲間次第だと思う。（３０代女性）
- 夫が家事を手伝ってくれて助かるが、本当は妻が家庭で子供や家事をしっかりみれば、夫も安心なのかもしれない。今の現状、すべてがバタバタと過ぎ、経済的、気持ち的に余裕がない状態。妻（女性）が安定した生活を送ることができたら、もっと世の中が良くなると思う。女性の気持ちを多く聞いて下さい。（３０代女性）
- 実現に向けて、様々な取り組みが進められてきておりますが、取り組みが浸透しない要因は各々の家庭が生活面において安定していない現状と、地域社会面において少々排他的な面が根強い。改善が必要と思います。（７０代以上男性）
- 子育てのために仕事を休んだり、辞めたりする必要があるが、どちらかが辞めたりすると今の状態

では生活がかなり厳しくなるし、会社側からもあまりよく思われないうに感じます。個人の収入が少ない←会社の利益が少ない←景気が悪い←新たな人材の額用に消極的…の負のスパイラルを感じています。産休や育休を取るのも自分の評価を落としたり、戻る場所を失いそうで怖いです。

(20代女性)

- 企業管理職が「女は〇〇だ」と淡々と話している事が多々ある現状。そのような考えや言葉は人権を無視し暴力であることを社会全体的な運動と勉強会を必須とし、法的なものに罰せられること。福祉現場であるにもかかわらず、現状は変わらないことをメディアでも取り上げてほしい。

(40代女性)

- 女性は同じような仕事をして一般的に賃金面では男性と差がある。そのため、子育てや介護が必要になると、自分が行うようになる(その事で会社での残業が増えたり、退職すること等を考えると、そうせざるを得ない)。賃金だけでなく、男性の労働時間も問題だと思う。遅く帰宅すれば家事等はできないし、頼めない。こんな所が改善できたら良いと思います。(60代女性)

- ポジティブアクションは反対です。単純に不平等というだけでなく、自力でその席を手に入れた女性までも優遇されたとみなされるためです。女性と男性の収入に差があるのは、女性が育児を機に仕事を辞めなければいけないという理由が大きいため、育児について男性と女性ともに参加しやすい法律を作り、義務化していただきたい。(20代男性)

- 女性が高い能力があっても、就職時あるいは職場内で不利な扱いを受けている現状があり残念です。また、これは社会にとって大きな損失です。公務員はこれらについてかなり改善されていますので、一般の会社でも女性が能力を發揮できるシステムを作っていく事が重要です。ただ、男女の違いさえ認めないジェンダーフリー教育などの偏向した活動、思想は排除していくべきと考えます。

(70代以上男性)

- 今は女性は子供をもっと産みましょう、でも保育園は入れません、入れても高額。介護も在宅で、実際介護するのは女性。そして女性も社会に出て働き納税しましょう、女性も活躍しましょう。一億総活躍社会。無理です。女性ばかりに負担が集中しすぎ。実際やっていますが、もっとサポートしてほしいです。サービスの充実、手当の拡大、税の優遇を！将来、納税者となり国を支える子供を、社会全体で育ててほしいです。(30代女性)

- 女性が社会で働き続けるには、出産等は大きな避けられないイベントであり、これは女性だけが行える重要なことだが、職場には大きな損失なのは間違いない。小さな職場だと、1人抜けるだけでも仕事が回らなく、男性が残業をよりしなければならぬ場合もある。残業が増えれば、家庭の事もあまり手伝えなくなる。つまり完璧な男女平等は無理だと思う。それぞれ社会を成り立たせるには役割をこなすことも大事だと思う。出産や育児で職場を離れる女性には、国や地域が自宅でも可能な仕事を与え、給与を出し、元の職場はその仕事ぶりを評価する。復帰した時、その評価をもとに昇進や昇給をさせる。(30代男性)

(1) 男女共同参画に関する市民意識調査（無回答を除く）

	平成29年度						平成26年度						平成22年度						平成19年度					
	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い
(1)家庭生活	9.9	47.7	24.1	4.6	0.4	8.0	12.0	46.3	25.7	5.7	1.2	4.8	13.5	49.6	26.3	5.8	1.3	3.5	12.9	53.0	24.7	4.0	1.0	4.3
(2)職場	14.0	39.6	19.9	4.4	1.0	12.5	11.4	38.4	21.9	5.2	1.2	12.1	14.3	43.4	25.7	4.1	1.1	11.4	12.7	42.0	27.5	5.2	1.1	11.6
(3)学校教育の場	1.8	12.1	46.7	2.7	0.5	26.4	1.2	10.5	54.4	2.3	0.5	20.2	2.4	13.8	58.9	3.0	0.4	21.5	1.5	12.5	57.1	3.5	0.1	25.3
(4)政治の場	23.6	41.1	12.3	0.7	0.3	14.3	20.6	45.6	13.5	1.1	0.3	10.6	21.2	44.1	22.2	1.8	0.0	10.7	21.3	44.9	19.5	1.4	0.3	12.7
(5)法律や制度上で	9.4	31.2	25.7	5.0	1.1	19.7	8.2	30.7	31.9	5.2	1.2	14.4	8.7	31.1	41.1	6.5	0.9	11.7	9.7	29.9	37.2	5.9	1.1	16.3
(6)社会通念・習慣・しきたり等で	18.5	52.1	10.1	2.0	0.3	10.5	17.0	52.7	12.3	2.6	0.8	7.8	20.1	56.3	14.4	2.3	0.7	6.3	20.2	57.2	12.7	2.3	0.3	7.4
(7)町内会等の地域活動の場	10.6	39.8	25.1	4.6	0.6	13.8	10.0	42.4	27.9	4.3	1.3	8.7	14.5	40.4	30.4	5.5	1.0	8.3	12.9	43.6	27.9	4.1	0.5	10.9
平均	12.5	37.7	23.4	3.4	0.6	15.0	11.5	38.1	26.8	3.8	0.9	11.2	13.5	39.8	31.3	4.1	0.8	10.5	13.0	40.4	29.5	3.8	0.6	12.6
(8)社会全体で	10.5	54.7	12.9	3.1	0.5	12.6	8.6	56.6	14.9	4.0	0.5	9.2	10.0	59.1	17.4	4.5	0.7	8.3	-	-	-	-	-	-

出典：男女共同参画に関する市民意識調査（上越市共生まちづくり課）

(2) 男女共同参画社会に関する世論調査

	平成28年度						平成24年度						平成21年度						平成16年度					
	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い	非 常 性 の 優 遇 が さ れ て い る	男 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が と い え ば さ れ て い る	わ か ら な い
(1)家庭生活	7.8	35.7	47.4	5.9	0.8	2.4	8.5	34.7	47.0	6.1	1.3	2.3	7.8	38.7	43.1	6.7	1.7	1.9	10.8	38.5	39.9	6.7	1.4	2.6
(2)職場	15.1	41.5	29.7	4.1	0.6	9.0	15.6	42.1	28.5	4.2	0.5	9.2	15.6	46.5	24.4	4.4	0.9	8.1	16.7	42.7	25.0	3.7	0.5	11.3
(3)学校教育の場	2.5	13.5	66.4	2.9	0.3	14.4	2.4	11.0	67.0	3.0	0.7	15.8	1.9	12.0	68.1	3.9	0.9	13.1	2.6	11.4	66.8	3.1	0.4	16.0
(4)自治会やNPOなどの地域活動の場	6.8	26.7	47.2	10.5	1.3	7.5	6.9	26.5	52.1	6.1	0.9	7.6	6.5	28.2	51.0	6.4	0.6	7.3	-	-	-	-	-	-
(5)政治の場	27.1	46.3	18.9	2.0	0.3	5.4	30.0	44.0	18.6	0.9	0.3	6.3	23.7	48.1	21.0	1.9	0.3	5.1	30.9	41.0	19.7	1.1	0.2	7.1
(6)法律や制度の上で	10.6	34.7	40.8	5.0	0.7	8.3	8.7	29.5	45.4	6.2	1.1	9.0	7.8	33.5	44.4	6.5	0.9	6.9	11.7	34.4	39.3	4.3	0.8	9.5
(7)社会通念・習慣・しきたりなどで	17.6	52.8	21.8	2.8	0.4	4.6	18.6	51.7	21.4	2.9	0.6	4.7	18.7	53.2	20.6	3.4	0.5	3.6	24.1	50.6	17.2	2.9	0.3	4.8
平均	12.5	35.9	38.9	4.7	0.6	7.4	12.9	34.2	40.0	4.2	0.7	7.8	11.7	37.2	38.9	4.7	0.8	6.6	16.1	36.4	34.7	3.6	0.6	8.6
社会全体で	9.7	64.5	21.1	2.8	0.2	1.7	10.8	59.1	24.6	3.4	0.4	1.8	9.7	61.9	23.2	3.4	0.3	1.6	-	-	-	-	-	-

出典：男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府大臣官房政府広報室）